

# 令和 6 年度 病院年報



千葉市立青葉病院

令和 6 年度年報発行にあたって .....	4
<b>1. 総括 .....</b>	<b>5</b>
<b>2. 診療局報告 .....</b>	<b>17</b>
内科 .....	18
消化器内科 .....	20
循環器内科 .....	21
呼吸器内科 .....	22
血液内科 .....	23
糖尿病・代謝・内分泌内科 .....	24
脳神経内科 .....	26
リウマチ科 .....	27
総合診療内科 .....	28
外科・消化器外科 .....	29
整形外科 .....	31
小児科 .....	34
児童精神科 .....	36
成人精神科 .....	44
産婦人科 .....	47
皮膚科 .....	50
泌尿器科 .....	52
眼科 .....	54
耳鼻咽喉科 .....	55
救急集中治療科 .....	58
歯科 .....	60
リハビリテーション科 .....	64
麻酔科 .....	68
病理診断科 .....	72
診療局業績 .....	73
<b>3. 医療技術部報告 .....</b>	<b>88</b>
臨床検査科 .....	89
放射線科 .....	94
栄養科 .....	97
臨床工学科 .....	100
医療技術部門業績 .....	106

<b>4. 看護部報告 .....</b>	<b>107</b>
看護部 .....	108
<b>5. 薬剤部報告 .....</b>	<b>118</b>
薬剤部 .....	119
<b>6. 医療安全室報告 .....</b>	<b>126</b>
医療安全室 .....	127
<b>7. 感染対策室報告 .....</b>	<b>131</b>
感染対策室 .....	132
<b>8. 地域連携策室報告 .....</b>	<b>135</b>
地域連携室 .....	136
地域連携室業績 .....	142
<b>9. 事務局報告 .....</b>	<b>143</b>
事務局 .....	144
診療録管理室 .....	147
情報管理室 .....	148
<b>10. 統計 .....</b>	<b>150</b>
<b>編集後記 .....</b>	<b>156</b>

## 令和6年度年報発行にあたって

千葉市立青葉病院 院長 六角智之

大学からの医師派遣中止の影響でやむなく休止いたしておりました成人精神科が4月より3名の医師体制となり、新規外来受け入れ、病棟入院を再開させていただきました。近隣の医療機関には長らく大変ご不便をお掛け致しました。おかげさまで、多くの患者さんのご紹介をいただき、当院の特色でもある麻酔科との協力によるECT（電気けいれん療法）も再開致しております。

一方、5年にわたり猛威をふるった新型コロナウイルス感染症は令和6年に入っても夏冬関係なく波状に流行し、つねに油断できない状況でした。流行当初より積極的に受け入れ対応をしている感染症指定病院として、5類感染症の扱いになっても入院適応のある多くの患者さんを受け入れてきました。

病院経営では今年も苦しい1年となりました。医業収益は昨年度同様スタッフの努力により前年度比4.0%の増収となりましたが、人件費増、物価高騰の影響で残念ながら今年度も経常収支は赤字となってしまいました。

さて今年度は、私自身の健康上の問題により前半半年ほどの不在期間がありました。この場をお借りしてご迷惑をおかけした皆様にお詫び申し上げるとともに、健康に留意することの大切さを身に沁みて感じております。復職後は引き続き、地域からの信頼に応えるべく運営をまいりました。

この年報が、関係各位のお目にとまり、忌憚なきご意見をお寄せいただき、さらなる青葉病院の発展に役立つことを願っています。

# 1. 総括

## (1) 概況

入院を必要とする患者を搬送する救急車を断らないという基本方針のもと、救急搬送の積極的な受け入れを推進しており、救急処置スペースの拡充により受入環境を向上させるため、救急等を整備し、平成 27 年度に供給開始することを決定した。

また、無菌室化空調設備改修工事を実施し、血液疾患の治療においてより安全性の高い医療を提供できる環境を整備した。

前年度に引き続き本院を基幹型とする基幹型臨床研修病院として卒後臨床研修医 8 人と、千葉大学医学部附属病院を基幹型とする協力型臨床研修病院として卒後臨床研修医 2 人を受け入れるとともに、後期臨床研修医 25 人を受け入れた。

## (2) 施設概要

ア 所在地	千葉市中央区青葉町 1273 番地 2
イ 敷地面積	26,250.15 m <sup>2</sup>
ウ 建築面積	12,374.23 m <sup>2</sup>
エ 延床面積	33,130.06 m <sup>2</sup>
(ア) 病院棟	RC・SRC・S 造、地上 5 階 地下 1 階 PH1 階建 延床面積 28,245.77 m <sup>2</sup>
(イ) 付属棟 1	RC 造、1 階、延床面積 146.86 m <sup>2</sup>
(ウ) 付属棟 2	RC 造、地上 1 階地下 1 階、延床面積 106.10 m <sup>2</sup>
(エ) 駐車場棟	RC 造、地上 1 階地下 1 階、延床面積 4,631.97 m <sup>2</sup>

(3) 沿革

昭和	13年	11月	伝染病患者収容の目的で市営伝染病院として隔離病舎を設置 (病床数 28 床) 【千葉県衛第 8878 号】
	15年	6月	伝染 20 床増床 (48 床)
	25年	3月	伝染 28 床、結核 20 床 【千葉県指令医第 79 号】
	26年	4月	伝染 30 床、結核 50 床 【千葉県指令医第 30 号】
	28年	7月	伝染 30 床、結核 100 床 【千葉県指令医第 85 号】
	34年	4月	市立療養所を市立葛城病院に変更
	39年	6月	伝染 12 床、結核 65 床 【千葉県指令第 2180 号】
	40年	5月	伝染病棟完成 (伝染 50 床、結核 77 床) (鉄筋コンクリート造、2 階建) 【千葉県指令第 1462 の 2】
	42年	3月	精神病棟完成 (鉄筋コンクリート造、2 階建)
		12月	病床変更 (伝染 50 床、結核 53 床、精神 100 床) 【千葉県指令第 10-42 号】
	43年	3月	本館サービス棟完成 (鉄筋コンクリート造、4 階建)
		4月	千葉市立病院に名称変更、地方公営企業法の財務規定等適用
		7月	一般病棟 (本館) の新設により病床数変更 (一般 124 床、結核 53 床、精神 100 床、伝染 50 床) 【千葉県指令第 10-28 号】
		10月	霊安室完成 (モルタル造、平屋建)
	44年	5月	新看護婦宿舎完成 (鉄筋コンクリート造、4 階建) 理学診療科、麻酔科を設置 (診療科目 12 科)
	47年	3月	産婦人科設置 (診療科目 13 科)
		4月	組織改正 (診療部、薬局、看護部、事務局)
		5月	新館完成 (鉄筋コンクリート造、4 階建)
		6月	新病棟の完成により病床数変更 (一般 174 床、結核 53 床、精神 100 床、伝染 50 床) 【千葉県指令第 35 号-14】
	50年	11月	結核病棟廃止 (一般 187 床、精神 100 床、伝染 50 床) 【千葉県指令 35 号-28】
	53年	12月	敷地面積及び病棟増設 (一般 199 床、精神 100 床、伝染 50 床) 【千葉県指令 41 号-67】
	54年	6月	病床数減少 (一般 199 床、精神 40 床、伝染 50 床) 【千葉県指令第 49 号-11】
	54年	11月	診療部門等の増改築及び病室収容定員の変更

			(一般 206 床、精神 40 床、伝染 50 床) 【千葉県指令第 49 号-39】
	60 年	5 月	病床数減少 (一般 197 床、精神 40 床、伝染 50 床) 【千葉県指令第 95 号-23】
昭和	61 年	3 月	病床数変更 (一般 170 床、精神 40 床、伝染 50 床) 【千葉県指令第 96 号-97】
	61 年	5 月	病床数変更 (一般 201 床、精神 40 床、伝染 50 床) 【千葉県指令第 2 号-13】
	63 年	3 月	外来診察室及び病床数変更 (一般 210 床、精神 40 床、伝染 40 床) 【千葉県指令第 3 号-116】
平成	5 年度		「両市立病院の再整備に関する提言」中間報告 「両市立病院再整備基本調査」実施
	7 年度		「両市立病院再整備基本構想」策定
	9 年度		「市立病院再整備基本計画の概要」報告
			「市立病院再整備基本計画」策定
	10 年度		基本設計、用地取得
	11 年	1 月	青葉病院開設許可 (一般 305 床、精神 60 床、伝染 15 床)
	11 年	3 月	市立病院 病室収容定員の変更 (一般 226 床、精神 40 床、伝染 6 床) 【千葉県医整指令第 3 号-133】
	11 年度		実施設計、青葉病院建築着工
	12 年	10 月	青葉病院開設許可 (病床変更) (一般 314 床、精神 60 床、感染症 6 床) 【千葉県医指令第 30 号】
	14 年	8 月	青葉病院建築工事竣工
	15 年	1 月	青葉病院外構工事竣工
		5 月	千葉市立青葉病院開院 (一般 314 床、精神 60 床、感染症 6 床)
	16 年	3 月	協力型臨床研修病院指定 (16 年 4 月 開始)
	16 年	10 月	管理型臨床研修病院指定 (17 年 4 月 開始)
	18 年	9 月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
	21 年	4 月	D P C 対象病院
	21 年	4 月	千葉市立病院第 1 期改革プラン
	23 年	4 月	地方公営企業法全部適用へ移行
	23 年	4 月	血液内科を標榜
	23 年	9 月	病院機能評価再認定
	23 年	9 月	脳神経外科を標榜

	24年	4月	千葉市立病院第2期改革プラン
	24年	4月	整形外科入院機能を青葉病院へ集約
	24年	10月	助産師外来を再開
	25年	7月	糖尿病・代謝内科、内分泌内科を標榜
	25年	9月	7対1看護職員配置基準取得
	25年	10月	土曜リハビリテーションを開始
	26年	3月	千葉県がん診療連携協力病院に認定
	26年	4月	リウマチ科を標榜
	26年	11月	日曜リハビリテーションを開始
	27年	4月	地域医療支援病院に認定
	27年	12月	救急病棟開設・稼働開始
	28年	2月	病院情報システム（電子カルテシステム）更新
	29年	1月	ハイケアユニット病棟開設
	29年	4月	災害拠点病院に認定
	31年	4月	病床数変更（一般307床、精神56床、感染症6床）

(4) 運営規模

ア 病床数

一	般	307 床
精	神	56 床
感	染 症	6 床
	計	369 床

(病棟別病床診療科目別病床数)

場所	病棟名	病床数	診療科	(床)	1人室 (床)	2人室 (床)	3人室 (床)	4人室 (床)			
あおば館	1階	HCU ICU	12	ICU	(4)	4	(4)				
				HCU	(8)			2	(8)		
	3階	3階西	45	内科	(21)	10	(10)	1	(3)		
				外科	(24)					8	(32)
		3階東	45	泌尿器科	(18)	6	(6)	1	(3)		
				内科	(17)					9	(36)
	耳鼻咽喉科			(5)							
	皮膚科	(5)									
	4階	4階西	50	整形外科	(50)	7	(7)	1	(3)		
		4階東	40	産婦人科	(18)	5	(5)	1	(3)		
				内科	(12)					8	(32)
	整形外科	(10)									
	5階	5階西	40	内科	(40)	12	(12)	2	(4)		
		5階東	45	緩和ケア・在宅療養支援	(15)	10	(10)	1	(3)		
内科				(30)	8					(32)	
わかば館	1階	児精	28	児童精神科		(28)	8	(8)			
		成精	28	成人精神科	(28)	12	(12)				
	2階	わかば 2階	36	小児科	(2)	18	(18)	1	(2)		
				内科	(28)					4	(16)
				感染症	(6)						
計		369		(369)	88	(88)	7	(14)			
					6	(18)	65	(260)			

イ 職員の配置

令和5年4月1日現在（単位：人）

	診療局	薬剤部	看護部	事務局ほか
医師	79			
歯科医師	1			
診療放射線技師	18			
臨床検査技師	27			
保健師				
心理療法士	2			
理学療法士	11			
作業療法士	7			
言語聴覚士	2			
視能訓練士	2			
臨床工学技士	6			
歯科衛生士	1			
栄養士	6			
保育士				
看護師			392	
助産師			2	
准看護師				
介護福祉士				6
薬剤師		28		
事務職員				16
技術職員				3
診療情報管理士				5

（診療科別医師・歯科医師数 単位：人）

内科	37	外科	4	整形外科	10
小児科	2	産婦人科	3	眼科	0
耳鼻咽喉科	3	皮膚科	3	泌尿器科	5
麻酔科	3	リハビリテーション科	2	歯科	1
精神科	3	児童精神科	3	救急集中治療科	1
病理診断科	1				

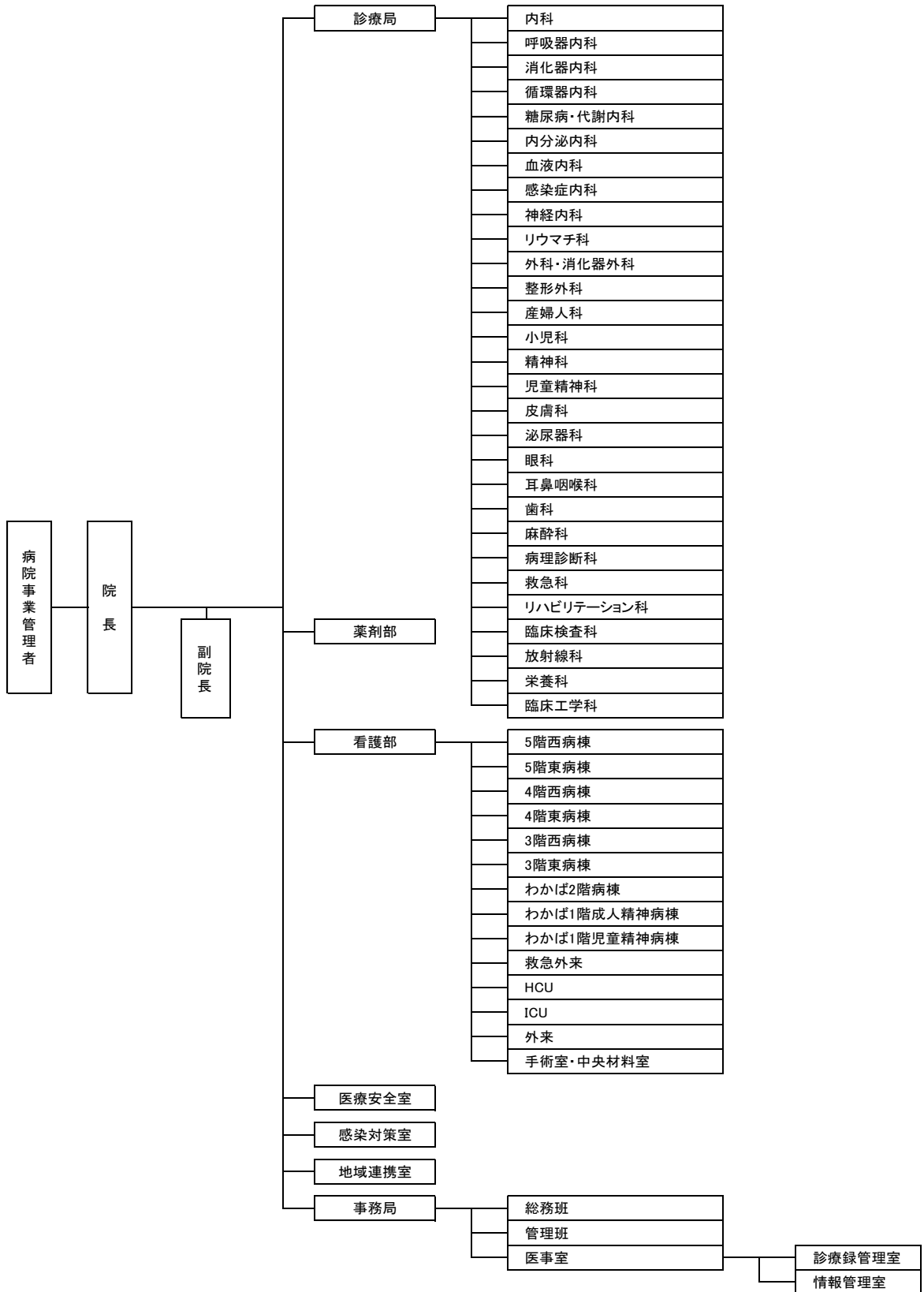
## ウ 教育研修指定施設一覧

- ・ 日本血液学会専門医制度研修施設
- ・ 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・ 厚生労働省臨床研修指定病院（協力型）
- ・ 日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設
- ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・ 日本麻酔科学会認定病院
- ・ 厚生労働省臨床研修指定病院（基幹型）
- ・ 日本神経学会認定準教育施設
- ・ 日本内分泌学会認定教育施設
- ・ 日本糖尿病学会認定教育施設
- ・ 日本泌尿器学会専門医基幹教育施設
- ・ 日本感染症学会専門医研修認定施設
- ・ 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
- ・ 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
- ・ 日本呼吸器学会認定施設
- ・ 日本臨床衛生検査技師会認証施設
- ・ 日本手外科学会研修施設
- ・ 日本消化器病学会認定施設
- ・ 日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・ 日本集中治療医学会専門研修施設
- ・ 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- ・ 日本救急医学会専門医指定施設
- ・ 脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- ・ 日本総合病院精神医学会認定けいれん療法研修施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医修練施設

エ 病院配置図

	あおば館	わかば館
5階	病棟（内科、在宅支援・緩和ケア）	
4階	病棟（整形外科、内科、産婦人科）	
3階	病棟（外科、眼科、内科、皮膚科、泌尿器科）	
2階	外来診療部門（産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻いんこう科、眼科）、 検査室、手術室、管理部門、医局、医療情報センター、ホールあおば	病棟（小児科、内科、感染症）
1階	外来診療部門（内科、外科、整形外科、皮膚科）、 救急集中治療科、放射線室、生理検査室、内視鏡室、検査処置センター、入退院センター、事務局	外来診療部門（精神科） 病棟（児童精神科、成人精神科） リハビリテーション科
地下	外来診療部門（歯科）、 薬剤部、 RI室、栄養中央材料室、SPD、MEセンター、 ベッドリネンセンター、中央監視室	

才 病院組織図



## カ 院内委員会一覧

病院管理会議	病院の運営に関する重要事項を審議決定
病院運営調整会議	病院の運営方針の周知及び各部門の総合調整

### 病院管理部門

医療安全管理委員会	医療安全管理体制の充実、医療事故防止対策に関する事項
感染対策委員会	感染症対策に関する事項を協議・調整、感染防止を図る
放射線安全管理委員会	医療用放射線設備等の完全管理、患者・医療者の安全確保
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する目的
防火防災委員会	災害の予防及び人命の安全、被害の軽減を図ることを目的
災害医療対策委員会	災害拠点病院の認可に関することとトリアージの実施及び備品管理
衛生委員会	職員の安全と健康の確保及び作業環境形成の促進を図る
診療材料・物流管理委員会	診療材料の適正運用、SPDの効率的運用を図る
医療機器選考・仕様決定委員会	医療機器の購入・更新にかかる事項を協議・検討
業務負担軽減検討委員会	業務負担軽減及び処遇の改善等により、労働時間の縮減等労働環境の改善を図る

### 診療部門

診療委員会	診療の質的向上、円滑化及び合理化の推進
救急部運営委員会	救急部運営に関する事項を協議・調整
手術室運営委員会	手術室運営に関する事項を協議・調整
放射線科運営委員会	放射線科運営に関する事項を協議・調整
検査科運営委員会	検査科運営に関する事項を協議・調整
リハビリテーション委員会	リハビリテーション科運営に関する事項を協議・調整
医療機器安全管理委員会	MEセンターの管理運営に関する事項を協議・調整
輸血療法委員会	輸血療法に関する事項を協議・調整
褥瘡対策委員会	褥瘡対策に関する事項を協議・調整
臨床栄養委員会	給食・栄養管理に関する事項を協議・調整
NST 委員会	入院患者の栄養サポートの充実を図る
行動制限最小化検討委員会	行動制限最小化に係る事項及び面会・通信の制限を検討し、患者の権利擁護を図る
緩和ケア委員会	緩和ケア全般・緩和ケアチームの活動に関する事項の協議・調整
化学療法委員会	化学療法の質的向上、適正化、合理化を図る
診療科 部科長会議	診療局の運営に関する事項を協議・調整

虐待防止対策委員会	高齢者、小児、障害者における虐待の早期発見、虐待防止と虐待対応、及びドメスティックバイオレンスへの対応に関して組織的に対応し、虐待対策を講じる体制の確保を目的とする
-----------	--

#### 診療戦略部門

DPC委員会	DPCの戦略(含コーディング適正化)、診療報酬対策、クリニカルパス、診療録管理に関する調査、協議・調整
診療録管理委員会	診療録の記載、精度、退院時サマリ、同意書等に関する事項
診療報酬委員会	診療報酬請求に関する事項、査定、返戻に関する事項
地域連携委員会	地域連携に関する事項、地域連携室の運営、院内外広報活動

#### 薬剤部門

薬事委員会	薬事業務の適正かつ合理的な運営を図る
治験審査委員会	治験の円滑・適正な実施を図る

#### 情報管理部門

情報システム管理委員会	病院情報システム管理の適正かつ効率的な運営を図る
-------------	--------------------------

#### 研究・研修部門

倫理委員会	医学研究及び医療行為等における倫理的、社会的配慮を図る
臨床倫理委員会	医療行為における法的、倫理的、社会的配慮を図る(倫理委員会が所掌する臨床研究を除く)
医師臨床研修管理委員会	臨床研修に関する体制の整備、研修内容の改善・円滑化を図る
図書室整備・運営委員会	図書、各種研修・研究材料の整備・充実
教育研修委員会	院内で開催された研修を年度ごとに把握し、評価を行う

#### 接遇・患者権利擁護部門

患者サービス・広報委員会	医療者と患者のパートナーシップ、職員に対する接遇教育・研修、患者及び家族の支援に関する事項を協議・検討
癒しの会	医療以外の目的で実施される患者サービスの推進を図る
病院機能評価委員会	病院機能評価に関する事項
地域医療支援病院運営委員会	地域医療支援病院の運営に関する事項
医療クオリティー委員会	Quality Indicator(QI)も用いた医療の質管理、改善を図る

## 2. 診療局報告

## 内 科

---

### (1) 基本方針

内科では消化器、循環器、呼吸器、血液、内分泌代謝、脳神経内科、アレルギー膠原病、総合診療の各専門科で診療を行っている（腎臓内科は非常勤外来のみ）。近年の高齢化にともない、多くの患者さんは多分野にまたがる問題点を抱えている。そこで内科では、専門分野を持つ医師もすべて、まず患者さんの全体を診（Generalist）、これに更に自分の専門性（Specialist）を加え、専門以外の分野に関しては他の専門医（他科の専門医も含む）とコンサルトをして、その患者さんを診ていくというやり方を徹底している。色々な分野の専門医が1人の患者さんを連携して診るためにも、最大限電子カルテを活用している。病診連携強化を掲げ、開業医の先生からの紹介は24時間を通し原則受け入れている。

### (2) 実績

2024年度の各領域の専門医数は以下の通りである。  
消化器病学会専門医3、循環器病学会専門医5、リウマチ学会専門医2、内分泌学会専門医3、感染症学会専門医1、糖尿病学会専門医2、呼吸器学会専門医2、血液学会専門医4、神経学会専門医4

2024年度の診療成績は以下の通りである。  
内科外来患者延べ数 63,329人/年、内科退院患者数 4,011人/年、救急車搬送件数は病院全体で 4,979件/年（4,142件が内科症例、2,006人が内科緊急入院）、内科病床は165床であり平均病床稼働率は90%を超えている。（病院全体では77.7%）内科の平均在院日数は14.8日、紹介率も91.1%であり地域の医療ニーズにはこたえられているのではないかと考えている。

### (3) 研修、教育

当院の内科は1つで、各分野の垣根を低くし、各専門医が常に意見を出し合い、研修医が専門医に気軽に相談でき、専門医の意見を取りまとめて、診療方針を決定できるシステムとしている。内科は以下のような教育認定施設になっており、スタッフ、実績とも充実している。日本内科学会認定教育関連病院、日本プライマリ・ケア連合学会教育認定施設、日本血液学会研修認定施設、日本糖尿病学会教育認定施設、日本内分泌学会教育認定

施設、日本循環器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会認定施設などである。

#### (4) 現状での取り組み

当院は救急と高齢者対策に重点をおいているが、その中心を内科が担っている。救急科の協力も得て、2次救急患者、開業医の先生方からの紹介救急患者を積極的に受け入れている。また在宅医療を推進する目的で、開業医の先生が往診中の患者さんを登録していただき、夜間、休日などの急変時の対応、また在宅を続けるための医療面でのバックアップをはかり、在宅医療をされている先生方からも高い評価を受けている。

## 消化器内科

---

### (1) 概要

常勤医師 4 名、後期研修医 1 名で、消化器疾患に対する診療全般を行っています。消化器外科との密な関係協力体制の下で最善の方法を選択の上、きめ細かい治療を行っています。

### (2) 実績および取り組み

消化器内科の業務の中で最も大きな比重を占めるのが消化管内視鏡検査と処置です。

経鼻内視鏡及び鎮静下内視鏡検査にも対応して苦痛の少ない検査を心がけており、また、NB I システムの導入により精細な画像診断をすることで消化管腫瘍の早期診断・早期治療につながるよう努めています。

今年度の症例数は上部内視鏡検査 約 1,500 例、大腸内視鏡検査 約 1,400 症例、内視鏡処置では消化管腫瘍性病変の EMR 約 200 例、EST などの内視鏡的胆道系検査および治療 約 100 例となっています。

救急搬送後に緊急内視鏡処置が必要な症例は平日においては夜間帯含めて全日オンコール体制をとって完全対応しております。

その他、イレウス、虫垂炎、憩室炎、非特異的炎症性腸疾患、急性肝炎、肝硬変、肝膿瘍、急性膵炎、消化器悪性腫瘍など各種消化器疾患に対する検査および治療に対応しております。

### (3) 担当医師

橘川 嘉夫

宮本 禎浩

畠山 一樹

小関 寛隆

三田 聡美 (専攻医)

## 循環器内科

---

### (1) 概要

スタッフは常勤医師7名で診療している。認定循環器専門医研修施設の認定も受けており、循環器科として高度かつ適正な医療を目指している。特に、急性期病院として、急性心筋梗塞や急性心不全などの循環器救急医療に力を入れている。

### (2) 一般診療および検査と治療

循環器科外来は、毎年約9,000人の来院があり、令和6年度の検査実績では、心エコー2723件/年、ホルター心電図が243件/年、心臓核医学検査(心筋シンチ)122件/年であった。また、心臓カテーテル治療(PCI)は183件/年であった。夜間など時間外の症例が全体の約2割を占めている。PCIの約5割は緊急症例であり、急性心筋梗塞等への緊急PCIは年間86例施行している。当科では待期的PCIに関しては、心臓CT、負荷心筋シンチや冠血流予備量比(FFR)により治療適応を正確に評価したうえで施行することとしている。今までは石灰化の強い冠動脈病変に対しては治療に難渋することもあったが、令和2年9月から高度石灰化病変に対する切削治療器具(Rotablator)の施設認定を受けたため、より幅広い患者層に対してPCIを施行できることとなった。また、閉塞性動脈硬化症のスクリーニングのためABI検査を約400件/年施行しており、下肢動脈に対する経皮的血管形成術も積極的に施行している。その他、不整脈治療では、ペースメーカー治療を35件/年施行している。また、令和4年度から感染やリード断線などの合併症が少ないリードレスペースメーカー治療を開始している。集中治療室と連携しながら、大動脈内バルーンパンピング法、経皮的心肺補助装置や持続透析療法による重症心不全の治療が可能である。

### (3) 担当医師

志鎌 伸昭 (循環器専門医、総合内科専門医)

石尾 直樹 (循環器専門医、総合内科専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医)

竹田 雅彦 (循環器専門医、総合内科専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、救急科専門医、集中治療専門医)

盛 直人 (循環器専門医、内科認定医、日本心血管インターベンション治療学会認定医)

齋藤 寛 (循環器専門医、内科認定医、日本心血管インターベンション治療学会認定医)

宮原 友輝

伊藤 達哉

## 呼吸器内科

---

### (1) 概要

常勤医師3名（うち時短1名）で呼吸器疾患に対する診療を行っています。  
当院には呼吸器外科はないため、大学病院など近隣医療機関と連携をとっています。

### (2) 実績および取り組み

3名の医師で月曜日から金曜日まで午前中に外来業務を行っております。また原則火曜日午後に気管支鏡検査を実施しており、年間150-200件施行しています。必要に応じてCTガイド下肺生検も実施しております。

また、病診連携の一環として胸部異常陰影の精査などを積極的に行っています。

### (3) スタッフ

瀧口恭男

永吉 優

松浦有紀子

## 血液内科

---

### (1) 概要

常勤医師 7 名で、造血器疾患一般に対する診療を行っている。診療の中心は造血器腫瘍だが、貧血や血小板減少症など良性疾患の診療も行っている。造血幹細胞移植は血液疾患診療の重要な治療法で、当科でも中心的な役割を果たしている。当院での移植件数は延べ 300 件を超えたが、移植可能な施設が限られているため、千葉市のみならず県内から広く症例を受け入れている。日本血液学会血液研修施設、日本骨髄バンクならびに日本臍帯血バンクネットワークの認定を受けており、診断から移植まで連続した診療が可能となっている。

### (2) 一般診療および検査と治療

入院患者数は年々増加している。その多くは急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍であり、化学療法を中心とした治療を行っている。造血幹細胞移植件数は年間 25 件程度施行している。

化学療法は時に重篤な合併症を来すため、『安全な治療』は当科にとって永遠の課題である。このためには業務の効率化が重要であり、看護師と協力してクリニカルパスの充実を図っている。病棟・外来スタッフのみならず、検査科、薬剤部、さらに今年度より栄養科、リハビリテーションが積極的に治療に参画するようになり、より専門的な対応が可能となった。

### (3) スタッフ

横田 朗  
小野田 昌弘  
鐘野 勝洋  
永尾 侑平  
木村 賢司

## 糖尿病・代謝・内分泌内科

---

### (1) 概要

日本糖尿病学会、日本内分泌学会の教育認定施設であり、初期研修医および専攻医の指導にも当たっている。

### (2) 実績と現状と新しい取り組み

前年度に引き続き、糖尿病、甲状腺・副甲状腺疾患を中心として骨・カルシウム代謝疾患、原発性アルドステロン症、電解質・脂質代謝異常などの紹介患者も引き受けている。

糖尿病に関しては、これまで通り2型糖尿病患者から、1型糖尿病患者、ステロイド糖尿病、糖尿病ケトアシドーシス・高浸透圧性非ケトン性昏睡といった救急疾患まで幅広く積極的に受け入れている。

外来では糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師と栄養士を中心に患者教育に力を注ぎ透析予防指導およびフットケアも積極的に行なっている。

また、糖尿病入院プログラムのような教育入院体制を設けて、境界型糖尿病から軽度の糖尿病患者の管理に必要な患者教育も必要に応じて行っている。

有用性が高いと考えれば、CGM（持続グルコースモニタリング）およびCSII（インスリンポンプ療法）を積極的に導入し、血糖マネジメントの改善を目指している。

\*一時新型コロナウイルス感染蔓延のため後述の糖尿病教室の開催が滞っていたが、令和4年1月より少人数体制（4人/回）で再開した。今後も新型コロナウイルス感染の状況により再度中止する場合も予想されるが、可能な限り開催していく予定である。

内分泌疾患に関しては、平成30年4月より当院耳鼻咽喉科とも協力し「甲状腺・副甲状腺センター」を立ち上げた。

甲状腺・副甲状腺センターへの紹介患者は、主に、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍の精査加療目的であり、施行施設が限られるバセドウ病の放射線治療も手がけ年間平均25件ほど施行している。

令和3年4月より常勤医師が在籍するようになり、症例によっては甲状腺腫瘍や副甲状腺腫も当院で手術可能となっている。

積極的に甲状腺腫瘍・結節の細胞診検査を行い、癌および腺腫様甲状腺腫などの病理診断を行っている。近年、近隣医療機関からの検査目的の紹介患者が増加している。細胞診検査数に限りがあるため（細胞診：最大9名/週）、R5より完全予約制の体制を開始し継続中である。

令和3年3月まで副腎静脈サンプリングを施行してしたが、担当医の退職に伴い当院で

の施行は中止となった。現在は原発性アルドステロン症のスクリーニング検査の一部を当院で施行し、副腎静脈サンプリング適応のある患者は千葉大学などに紹介している。

当科は他の医療機関と比しても糖尿病・内分泌・代謝疾患患者を幅広く受け入れており患者数は年々増加しているため、今後も病診連携にも力を入れていく方針である。

### (3) 指導業務

当科は日本糖尿病学会 認定教育施設 I および日本内分泌学会 認定教育施設として施設認定を受けており、初期研修医、専攻医の臨床業務や学術発表などの指導にも力を入れている。

令和5年度には、2名の初期研修医にそれぞれ第24回内分泌学会関東地方会学術集会(両国)、第66回甲状腺学会総会学術集会(金沢)の発表指導を行った。専攻医1名は第61回糖尿病学会関東甲信越地方会(横浜)と千葉大学大学院医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学の例会での発表指導、および、初期研修医1名の日本内科学会地方会で発表を行った。

### (4) 執筆

「総合診療のエビデンスをぎゅうっとまとめました」メジカルレビュー社(R5)(小出)  
「内分泌疾患診療ハンドブック Ver. 3」中外医学社(R5)(小出)

### (5) 講演・会議

在宅医療コーディネーター研修会 R5(小出)  
千葉県がん対策審議会子どもAYA世代部会(小出)  
各種研究会・講演会 座長・講演業務(小出)

### (6) 担当医師

小出 尚史(H11卒)(日本糖尿病学会専門医、内分泌学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医、日本甲状腺学会専門医、日本内分泌学会評議員)  
番 典子(H16卒)(日本糖尿病専門医・指導医、日本内分泌学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、専門医療機構内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医)  
石田 晶子(H25卒)(日本内分泌学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医)

## 脳神経内科

---

### (1) 概要

神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉の疾患を対象に診療しており、外来は月曜、火曜、木曜、金曜の午前と水曜の午後に行っている。当院では特に脳血管障害に対するMRI、MRA、脳血流SPECT、3D-CT血管撮影、DATスキャンなど最新の機器での精査を迅速に行うことが可能であり、早期診断と治療、発症早期からのリハビリを積極的に行っている。

### (2) 実績

令和6年度の神経内科の外来患者数は3,462名、入院の担当患者数は197名であった。入院患者の疾患内訳は脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管障害が最も多く、次いで髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、脊髄炎などの神経感染症、代謝性脳症、めまい、てんかん、多発性硬化症、GBSなどの免疫性疾患、変性疾患であった。

### (3) スタッフ

和田 猛 (神経内科専門医・指導医 内科認定医)

澤井 摂 (神経内科専門医・指導医 内科認定医 日本臨床遺伝専門医)

狩野 裕樹 (神経内科専門医 内科認定医 日本臨床神経生理学会専門医)

## リウマチ科

---

### (1) 概要

リウマチ・膠原病疾患全般を対象とし、外来、入院診療に勤めています。  
現在常勤医 2 名、専攻医 1 名の医療体制を敷いております。

### (2) 実績

外来診療は毎日行っており、入院加療が必要となった場合はほとんどのケースで迅速な対応が可能です。

リウマチ性疾患の診断、治療評価には関節超音波検査を積極的に用いており、各種分子標的製剤も取り揃えています。また膠原病疾患の精査加療には他科との連携が重要となりますが、当院は総合病院のため各科が充実しており、スムーズな医療が可能となっています。

### (3) スタッフ

小林 芳久

熊谷 崇

針谷 輝

## 総合診療内科

---

### (1) 概要

総合診療医として当院の内科初診外来を担当し、症例の精査・加療・振り分けを行っている。

総合診療医の視点から研修医指導を行っている。

### (2) 実績と現状と新しい取り組み

昨年度と引き続き、常勤は2人体制での業務だった。総合診療医として内科初診外来を日々行うことにより多岐にわたる症候を担当し、必要な症例については速やかに各専門診療科に紹介し、病状が落ち着き次第紹介元に逆紹介する病診連携を大事にしている。また、初期研修教育にも深く携わり、日々の診療のみならず、週1回の研修医カンファレンスで総合診療科の視点から指導している。過去10年以上継続している月1回の千葉大学総合診療科による総合診療カンファレンスは当院の研修医教育の目玉企画の一つとなっている。

周囲の診療所への認知度が高まるにつれ、総合診療科宛の紹介状も徐々に増加しており、今後更なる認知度の向上を目指したい。

### (3) スタッフ

廣瀬裕太（常勤）

田原淳輔（常勤）

柴山栄太郎（非常勤）

坂本悠加（非常勤）

## 外科・消化器外科

---

### (1) 概要

消化器外科専門スタッフ4名にて一般外科、消化器外科および救急医療に従事している。

### (2) 科の特徴

消化器外科を中心とした専門的かつQOL（生活の質）を重視した治療方針のもとに、コメディカル・スタッフと連携した患者さん中心の医療を目指している。

この方針のもとに、諸機能温存手術、腹腔鏡下手術、内視鏡治療を積極的に行っている。

また、SSI（surgical site infection）の予防処置を様々に講じ、とくに感染源ともなりうる絹糸を体内に使用せず、結紮縫合は合成吸収糸を用いている。

電子カルテに連動したクリティカルパスを利用して、標準的治療の情報を共有しながら治療目標を設定し、医療サービスの向上、チーム医療推進に努めている。

千葉市の夜間外科系救急2次病院の役割を担っており（週1日）、救急医療に積極的に対応している。

地域中核病院として、紹介、逆紹介を通して病診連携の推進に努めている。

わかりやすく納得のいく説明と同意（Informed Consent）を心がけ、プライバシーを配慮し、自由な意志に基づいて治療方針を決定している。

### (3) スタッフ

清水 康仁

信本 大吾

文 陽起

山下 和志

### (4) 診療内容

- ・消化器癌（食道、胃、大腸、肝、胆、膵）に対する合理的、up-to-dateな外科治療
- ・胆石症、良性腸疾患、胃癌、大腸癌に対するQOLを重視した腹腔鏡下手術（特に、整容性を重視した単孔式腹腔鏡下手術の導入・施行）
- ・腹部救急疾患（消化管穿孔、急性虫垂炎など）に対し、術後QOLを配慮した腹腔鏡下手術の採用
- ・鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニアに対する人工補強材（ポリプロピレンメッシュ）を使用した創の緊張を少なくした根治術及び、腹腔鏡下鼠径・腹壁ヘルニア修復術の導入・施行
- ・胃・大腸ポリープ、粘膜癌に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）、粘膜下層剥離術（ESD）
- ・進行消化器癌に対する化学療法、分子標的薬治療等の集学的治療

- ・ 栄養サポートチームによる栄養管理
- ・ 緩和ケアチームによる末期癌患者に対する緩和医療

## (5) 診療実績 令和6年度

### ●患者状況

入院患者総数	458
紹介患者数	252
退院患者総数	493
平均在院日数	6.8日

### ●手術実績

手術総数	367
緊急手術	40 (10.9%)
悪性腫瘍	65 (17.7%)
75歳以上	135 (36.8%)
再手術	0
腹腔鏡手術	219 (59.7%)
開腹移行	9 (4.1%)
胆嚢摘出術(単孔式)	61 (34)
虫垂切除術(単孔式)	28 (19)
鼠径ヘルニア修復術 総数	81
腹腔内アプローチ TAPP	0
腹膜外アプローチ TEP	81
緊急手術(開腹移行)	9 (2)

### ●内視鏡治療

総数	30
上部消化管 EMR	0
上部消化管 ESD	0
緊急手術	0
下部消化管 EMR	30
下部消化管 ESD	0
緊急手術	0

## 整形外科

---

### (1) 概要

地域医療の基幹病院として近隣の病院や診療所・クリニックとの連携をはかり、上・下肢、関節、脊椎など整形外科全般にわたる疾患・外傷に対して幅広く対応している。長寿化に伴いさまざまな合併症のある高齢者の受診が増加しているが、他科との連携をはかり、個々の症例に応じたQOLを大切にして、最善の方法を説明・同意の上、治療を行っている。

### (2) 診療体系

令和6年度は手・肘・膝・股関節および脊椎の専門医7名を含め、総勢13名で診療に当たっている。

外来診察は月～金の午前中は5診で行い、うち2診が新患および救急患者に対応し、午後にも救急患者の対応や専門外来などを行っている。

手術は月～金の毎日午前、午後で行っており、緊急手術にも対応している。

千葉県夜間外科系救急の2次病院として週5日（火、水、金、土、日）当直医師1名、待機医師1名の体制で診療に当たっている。また休日2次医療機関として日直医師1名、待機医師1名の体制で、月2回救急対応を受け持っている。

### (3) スタッフ

六角 智之	(院長)
坂本 雅昭	(統括部長)
茂手木 博之	(部長)
山田 俊之	(リハビリテーション科部長)
輪湖 靖	(部長)
小曾根 英	(主任医長)
井上 嵩基	(医長)
福島 駿	(医師)
河野 真奈実	(医師)
川島 悠	(医師)
小林 優	(医師)
倉林 昂輝	(医師)
濱畑 美帆	(医師)

### (4) 診療内容

- ・ 地域医療の中核的病院として、手術を要する外傷はもとより手・肘・肩・股・膝・足関節疾患、脊椎・脊髄疾患などに対して、各専門医が中心となって診療にあたっている。
- ・ 手の外科症例は県内全域から紹介を受けており、数多くの手術を病状に応じて、日帰りまたは1泊入院などで対応している。特に小児の上肢骨折手術は県内でも有数の症例数で、ご家族の負担も考慮し、全身麻酔による手術でも、基本日帰りで対処している。
- ・ 特に注意深い周術期管理が必要な高齢者の大腿骨転子部骨折・大腿骨頸部骨折が近年増加しているが、内科・麻酔科と緊密な連携をして、可能な限り早期手術を施行している。術後は機能回復のため近隣の回復期病院と連携するだけでなく、骨粗鬆症の評価・治療内容を“連絡票”で情報共有し、二次性骨折予防の取り組みもおこなっている。
- ・ 高度な専門医療を要する疾患は、千葉大学医学部附属病院をはじめ専門医療機関と綿密な連携をもちながら最新の診療をおこなっている。

#### (5) 教育

千葉大学医学部整形外科の研修指定病院として学生教育、研修医教育を実践している。

日本整形外科学会専門医制度研修施設、日本手外科学会認定研修施設

#### (6) 診療実績

令和6年度の外来新患数は2,188人で、年間手術件数は1,522件と県内でもトップクラスを維持している。その主な内訳は上下肢外傷手術848件、上肢手術366件、下肢手術184件、脊椎手術124件である。

外傷	上肢骨折	400
848件	下肢骨折	252
	抜去	196

上肢	人工関節・骨頭	14
366件	腱鞘切開	89
	手根管開放	51
	腱・神経	60
	関節固定	24
	その他	128

下肢	人工関節（股）	60
184 件	人工関節（膝）	40
	切断	22
	感染	6
	その他	56

脊椎	脊椎固定術	66
124 件	椎弓形成術	27
	椎間板摘出術	11
	脊髄腫瘍摘出術	5
	その他	15

合計 1522 件

## 小児科

---

### (1) 診療体系

午前は一般診療、午後は基礎疾患のある小児の予防接種、循環器専門外来(火曜日午後)予約制の外来診療である。

### (2) 科の特徴

感染症を中心とした一般診療、遷延する咳嗽や繰り返す気道感染症に対しては、喀痰を採取、細菌迅速検査などで診断、治療を行っている。小児循環器外来(火曜日午後)、心雑音、胸痛、心電図異常などの循環器疾患の診療を行っている。起立調節障害、頭痛、登校困難などの児への対応で必要であれば当院の小児精神科へ橋渡しの期間の診療も行っている。逆紹介も積極的に行い、病診連携に努めている。

### (3) 教育

初期研修医 小児科研修は海浜病院で実施

### (4) 診療実績

#### ・外来実績

千葉市内外の 39 医療機関並びに院内他科から 157 名の紹介があり、その内訳は気道症状・感染症関 42 名、検尿異常 26 名、循環器関連 45 名、その他 44 名であった。うち 2 例はさらに当院から精査・加療や入院目的に他院への紹介となった。

発熱外来を含む発熱を主訴に受診した患者 38 名であった。うち COVID-19 は 2 名、A 型インフルエンザが 7 名、マイコプラズマ感染症が 7 名、肺炎球菌感染症 2 名であった。内マイコプラズマ感染症の 1 名が入院となった。

#### ・入院実績

自院外来からの入院 マイコプラズマ感染症 1 名

#### ・主な紹介先と症例

千葉大学病院

小児科：菊地病 1、頸部リンパ節 1、線維筋痛症疑い 1、食物アレルギー 1

小児外科：白線ヘルニア 1

千葉県こども病院

感染症科：不明熱 1

小児外科：左鼠径ヘルニア疑い 1、気胸 1

児童精神科：摂食障害 1

千葉市立海浜病院

小児科：IgA 関連血管炎 1、発作性上室性頻拍 1、大動脈二尖弁 1

千葉市療育センター

言語発達遅滞 1、ダウン症候群 1

脳神経内科千葉

発達障害 1

四街道すくすくクリニック：気管支喘息 1（転居）

当院内他科

皮膚科：多発性膿痂疹 1、集簇性ざ瘡 1

整形外科：腰痛 1

耳鼻咽喉科：頸部リンパ節炎 1

泌尿器科：血尿 1

\*平成 29 年度 10 月から引き続き常勤医師 2 名体制。平日 18 時までの対応であり、

千葉市夜間・休日二次当番病院輪番体制には参加せず。夜間小児科医不在であり重症患者の受け入れはできないものの外来診療で管理困難な患者の早期診断と重症化の予測をトリアージし近隣の高次医療機関へ速やかに紹介している。

(5) スタッフ

統括部長：地引利昭

部長：大嶋寛子

## 児童精神科

---

### (1) 概要

専任の児童精神科医 3 名の他、心理療法士、精神保健福祉士、作業療法士、看護師が診療を担当している。児童・思春期患者専用の病棟を有しており、外来治療だけでは対応が難しい症例や、外来に通院すること自体が困難な症例などについて、入院治療を行っている。病棟の同世代集団との生活を通して自信を回復し、社会に適応できる力を身につけることによって、長期にわたる引きこもりを回避することを目指している。

また、他の教育機関、福祉機関との連携を重視している。現在、児童相談所、児童自立支援施設、児童養護施設に嘱託医を派遣しており、被虐待児で精神障害を合併している症例の治療を委託されることが増えている。

### (2) 診療体系

#### 【外来】

外来診療では児童期から思春期の心の問題全般に対応している。診察室は、初診 1 室、再診 2 室の 3 診制を基本とし、成人精神科医師と共用している。再診患者、初診患者ともに予約制をとっている。児童・思春期外来の初診日は、月曜日、火曜日の午前中で、週に 8～9 例の初診患者を診察している。初診は原則として小・中学生を対象としている。再診患者については、概ね高校生年代までを対象としている。

外来対象となるのは、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、学習障害などの発達障害が多く、他にも、早期発症ないしは前駆期の統合失調症や、うつ病、躁うつ病、摂食障害、神経症性障害、チック障害など多岐にわたる。精神・知能の発達段階の評価や、心の問題における心理社会的評価を行い、年齢に応じた心理療法、薬物療法等を提供している。

#### 【入院】

児童・思春期専用の病棟を有している。入院患者は、小・中学生を対象としている。男女混合の閉鎖病棟であり、病床は全 28 床である。病床の内訳は、4 人部屋が 20 床、個室が 6 床、保護室が 2 床である。病棟内に、千葉市立星久喜小学校・星久喜中学校の分教室（院内学級）を併設しており、専従の小学校教員 1 名、中学校教員 3 名が教育を担当している。

入院患者は、長期にわたる不登校・引きこもりを経験していることが多い。背景に発達障害を有する症例が増加している。当病棟では教育と治療を同時に行える利点があり、教育センターなどの教育機関が介入しても復学が困難であった不登校のケースを積極的に受け入れている。入院患者の半数近くが中学 3 年生であり、高校進学に向けて比較的長期間の入院治療計画を立てている。在院日数が 1 年近くに及ぶ症例もある。院内学級での学習支援を経て、ほぼ全例、高校進学を果たしている。

入院患者は、発達障害の他、統合失調症、うつ病、躁うつ病、適応障害、摂食障害などを認め、家庭や学校での生活が困難になっているケースが多い。病棟では4人部屋での生活を基本とし、同年代との集団生活を通して社会性の発達を促すことを治療の柱のひとつとしている。看護師、教員、精神保健福祉士、心理療法士、作業療法士、医師などの多職種が、それぞれの専門性を活かしながらチーム医療を実践している。個人精神療法、集団精神療法、作業療法、ソーシャル・スキル・トレーニング、家族面談、生活療法など複数の治療プログラムを実践している。

(3) スタッフ

児童精神科医； 篠田 直之、高橋 純平、伊豫 輝臣  
 心理療法士； 門倉 雄一郎、馬場 翔吾、梅木 沙也佳  
 精神保健福祉士； 青木 愛子  
 作業療法士； 須賀 美紀

新規外来患者診断カテゴリー別統計

性別	男							女							合計	%	
	就学前	小1	小4	中学生	中卒	18歳	計	就学前	小1	小4	中学生	中卒	18歳	計			
年齢区分																	
診断名		～	～		～	歳			～	～		～	歳				
		小3	小6		18歳	～	20歳未満		小3	小6		18歳	～	20歳未満			
F0 症状性を含む器質性精神障害							0									0	0.0
F1 精神作用物質による精神及び行動の障害							0									0	0.0

F 2 精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害				2		2		1		3		4	6	2.2
F 3 気分（感情）障害			2	4		6		7	14	2		23	29	10.4
F 4 神経症性障害	F40 恐怖症性不安障害		2	1	3		6	1	2	4		7	13	4.7
	F41 他の不安障害		1	2	1		4		2	1		3	7	2.5
	F42 強迫性障害		1	2	3		6		3	6		9	15	5.4
	F43 重度ストレス反応		2	1	7		19	3	1	19		32	51	18.3
	F44 解離性障害						0		1	1		2	2	0.7
	F45 身体表現性障害		1	3	3		7		2	5		7	14	5.0
	F48 その他						0					0	0	0.0
F 5 生理的障害及び・・・	F50 摂食障害					0						0	0	0.0
	F50 以外			1		1						0	1	0.4
F 6 成人の人格及び行動の障害						0		1	2	1		4	4	1.4
F 7 精神遅滞			4	3	2		9	1	2			3	12	4.3
F 8 心理的発達の障害	F84 広汎性発達障害		2	1	10		42	7	3	3		13	55	19.8
	F84 以外		1	1	2		4	2	2			4	8	2.9
F90 多動性障害			1	1	6		31	5	7	3		15	46	16.5

F 9 行動 及び情緒の 障害	F91 行為 障害		1	2	5			8						0	8	2.9	
	F92 混合 性障害							0						0	0	0.0	
	F93 情緒 障害							0						0	0	0.0	
	F94・・・ 社会的 機能障 害			1	1	1		3		1	1			2	5	1.8	
	F95 チッ ク障害			1				1			1			1	2	0.7	
	F98 その 他							0						0	0	0.0	
	F99 特定 不能							0						0	0	0.0	
	G40 てん かん							0						0	0	0.0	
その他							0						0	0	0.0		
合計		0	4 9	5 0	49	1	0	14 9	0	2 2	4 5	60	2	0	12 9	27 8	100 .0
不登校を伴 うもの			6	1 7	29			52		5	1 5	35			55 7	10 5	38. 5

(2024年4月1日～2025年3月31日)

\*主診断のみ集計。

\*併存を含めF84と診断されたものは131例(47.1%)、併存を含めF90と診断されたものは102例(36.7%)。

\*虐待を認めるものは43例(15.5%)。

新規入院患者診断カテゴリー別統計

性別	男							女							合計	%	
	就学前	小1	小4	中学生	中卒	18歳	計	就学前	小1	小4	中学生	中卒	18歳	計			
年齢区分																	
診断名		～	～		～	～			～	～		～	～				
		小3	小6		18歳	20歳			小3	小6		18歳	20歳				
					未満	未満						未満	未満				
F0 症状性を含む器質性精神障害							0							0	0	0.0	
F1 精神作用物質による精神及び行動の障害							0							0	0	0.0	
F2 精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害				2			2							0	2	5.7	
F3 気分（感情）障害			1	1			2			1	13			14	16	45.7	
F4 神経症性障害	F40 恐怖症性不安障害			1			1				1			1	2	5.7	
	F41 他の不安障害						0				1			1	1	2.9	
	F42 強迫性障害			1			1			1	1			2	3	8.6	

	F43 重度 ストレス 反応			1	2			3			1	2			3	6	17 .1
	F44 解離 性障 害							0							0	0	0. 0
	F45 身体 表現 性障 害							0							0	0	0. 0
	F48 その 他							0							0	0	0. 0
F 5 生 理的障害 及び・・・	F50 摂食 障害				1			1							0	1	2. 9
	F50 以外							0							0	0	0. 0
F 6 成人の人 格及び行動の障 害								0							0	0	0. 0
F 7 精神遅滞					1			1							0	1	2. 9
F 8 心 理的発達 の障害	F84 広汎 性発 達障 害				2	1		3							0	3	8. 6
	F84 以外							0							0	0	0. 0
F 9 行 動及び情 緒の障害	F90 多動 性障							0							0	0	0. 0

	害																
	F91 行為 障害						0							0	0	0.	0
	F92 混合 性障 害						0							0	0	0.	0
	F93 情緒 障害						0							0	0	0.	0
	F94 ・・・ 社会 的機 能障 害						0							0	0	0.	0
	F95 チック 障 害						0							0	0	0.	0
	F98 その 他						0							0	0	0.	0
	F99 特定 不能						0							0	0	0.	0
G 40 てんかん							0							0	0	0.	0
その他							0							0	0	0.	0
合計		0	0	6	8	0	0	1	0	0	3	18	0	0	2	3	10
不登校を 伴うもの				5	8			1			2	18			2	3	94
								3							0	3	.3

(2024年4月1日～2025年3月31日)

\*主診断のみ集計。

\*併存を含めF84と診断されたものは18例(51.4%)、併存を含めF90と診断されたものは2例(5.7%)。

\*虐待を認めるものは9例(25.7%)。

## 成人精神科

---

### (1) スタッフ

統括部長：木村敦史、医長：鈴木陽大、医師：三浦彩人が、計3名態勢で、入院と外来およびリエゾン・コンサルテーションの診療に当たっている。

木村、鈴木は精神保健指定医である。

コメディカルは、精神保健福祉士1名（常勤）と臨床心理士1名（非常勤）で、協同で入院集団精神療法、生活技能訓練法（SST）等を行っている。臨床心理士は心理検査や個別SSTも担当し、精神保健福祉士は退院支援を含め、療養上の相談を行っている。

### (2) 診療体制

#### 【入院】

医師数の減少により令和4年4月1日より2年間休棟していたが、体制が整ったため令和6年4月1日より病棟を再開することができた。

病棟は閉鎖病棟であるが、可能な限り開放的な医療を実施している。28床で、内訳は隔離室3床、個室9床、4人部屋16床である。措置入院の指定病床を2床確保し、特に身体合併症を有する措置入院患者を受け入れている。

#### 【外来】

外来診療については、児童精神科医師3名と協同で行っている。毎日3名の医師が担当し、「初診」と「再診」の3診制を基本として診療を行っている。診療の対象としては、気分障害、神経症圏、認知症を含めた老年期精神障害が多い。統合失調症圏等の精神障害も扱っているが、中毒性精神障害の専門的治療は行っていない。

初診については、予約制をとっている。

### (3) 科の特徴

いわゆる総合病院精神科の役割として、精神障害者の身体合併症例を、一般病院や精神科単科病院から受け入れ、各診療科の医師の協力のもとで治療を行っている。一方で、一般診療科入院患者の様々な精神的問題にも積極的に対応し、リエゾンチーム、高齢者サポートチーム、緩和ケアチームの活動にも参加している。

疾患群および年齢層の特徴としては、気分障害圏の女性患者が特に多く、他の疾患も含めて16歳以上の全年齢層をまんべんなく受け入れている、という傾向があげられる。また、うつ病の重症例や、統合失調症の昏迷状態等に対して、麻酔科の協力のもと修正型電気けいれん療法も施行している。

退院調整に難渋する症例については、精神保健福祉士と看護師が協働し、退院前訪問指導を実施することもある。

(4) 診療実績（令和6年4月～令和7年3月）

【外来（児童精神科も含む）】

診療日数 243 日で、延患者数 14,178 名、一日平均患者数 58.3 名であった。

【リエゾン】

院内リエゾン・コンサルテーションケースは、初診、再診を併せると 604 例であった。

件数の多かった病棟は、4 東 104 件、5 東 98 件、4 西 87 件であった。

【入院】

新規入院患者数は、106 名（男性 25 名、女性 81 名）であった。入院患者で、他科の診療を要する程度の身体合併症を有したもの（身体合併症加算相当のみ）は 33 名（全体の 31.1%）だった。入院形態別では、措置入院の受け入れは 3 名、医療保護入院 46 名、任意入院 57 名だった。

入院患者の年齢内訳

年齢区分	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代以上
人数	13	11	7	11	19	17	13	15

入院患者の精神疾患内訳

	男性	女性	計
器質性精神障害（認知症含む）	3	8	11
中毒性精神障害	3	0	3
統合失調症圏	7	18	25
気分障害圏	10	36	46
神経症圏	2	16	18
その他	0	3	3
総計	25	81	106

身体合併症加算の対象となった患者は内科関連が 24 名、整形外科関連が 8 名、外科関連が 1 名であった。

修正型電気けいれん療法（m-ECT）施行実績

施行人数（実数）	施行回数（延べ）
3	29

【心理検査】

	人数	件数
4月	2	3
5月	0	0
6月	0	0
7月	3	6
8月	2	3
9月	4	7
10月	1	2
11月	3	6
12月	3	7
1月	5	8
2月	1	2
3月	3	3
合計	27	47

【生活技能訓練法】

	SST 参加患者数
4月	6
5月	20
6月	11
7月	34
8月	24
9月	19
10月	21
11月	23
12月	13
1月	17
2月	20
3月	17
合計	225

【集団精神療法】

	参加患者数
4月	8
5月	33
6月	36
7月	63
8月	34
9月	25
10月	29
11月	30
12月	54
1月	35
2月	37
3月	40
合計	424

集団精神療法プログラム		
季節行事	プログラム	
七夕の会	カレンダー作り	染め物
クリスマス会	コラージュ	エコバッグ作り
	習字、硬筆	季節の壁飾り作り
	ちぎり絵	羊毛フェルト作り
	折り紙、切り紙	しおり作り
	ぬり絵	コースター作り
	園芸	茶話会

## 産婦人科

---

総合病院である強みを活かし、他科とも連携しながら、生涯にわたり女性の健康と生活の質の向上を支えることを目標とし、医療提供を行っている。

画一的な治療ではなく、患者一人ひとりの生活スタイル、ライフプラン、考え方に合わせたオーダーメイドな治療を心がけ、丁寧な、満足度の高い医療を提供できるように努めている。

外来は、平日毎日新患及び予約外診療を受け付けており、千葉市女性外来を第三火曜日に行っている。外来子宮鏡検査を日常診療にとり入れ、より精度の高い診療を目指している。

手術は月、水、金曜日に施行しており、緊急手術にも対応している。

また、千葉市の夜間、休日産婦人科2次救急医療機関として、他病院と連携し救急対応を受け持ち、千葉大学医学部の教育連携病院として千葉大学医学部の学生教育も請け負っている。

### 【スタッフ】

4名の常勤医師（内、産婦人科専門医3名）で診療にあたっている。

金谷裕美（産婦人科統括部長）

王桂文（医長）

百武沙綾（医師）

4-9月：大塚美保（医師）/10-12月：弓削彩乃（医師）

### 【産科】

分娩は取り扱っていないが、異所性妊娠手術や、流産手術、中絶手術、また、妊婦のコンジローマレーザー手術や卵巣嚢腫の手術を行っている。

### 【婦人科】

2024年度は、421件（腹腔鏡手術111件、子宮鏡手術104件、婦人科開腹手術99件、LEEP44件 他）の手術を施行した。

主に初期の悪性腫瘍、良性疾患の治療を行っており、良性疾患に関しては、早期に社会復帰ができるよう、腹腔鏡手術や子宮鏡手術といった低侵襲の手術に力を入れている。

その一環として、外来での子宮鏡下内膜ポリープ切除術、日帰りLEEP手術、お腹に傷をつけずに子宮を摘出する、腹腔鏡下腔式子宮全摘術（vNOTES）を取り入れ、患者様の利益につながるよう努めている。

進行がんに関しては、病理検査、画像診断が他院にくらべ比較的早期に検査、結果を提示することが可能なため、速やかに専門施設へご紹介させていただくことが可能である。

【診療実績】 2024年4月～2025年3月

主な手術適応疾患	
子宮頸部異形成	27件
子宮頸部上皮内癌	20件
子宮内膜（異型）増殖症	6件
子宮体癌	13件
子宮筋腫	109件
子宮腺筋症	8件
子宮内膜ポリープ	67件
卵巣嚢腫/内膜症性嚢胞	111件
卵巣充実性腫瘍	6件
卵巣境界悪性腫瘍	6件
卵巣癌	0件
異所性妊娠	3件
付属器膿瘍/PID	5件
尖圭コンジローマ	14件
子宮内癒着症/子宮内異物	6件
流産	6件
子宮脱	1件

他

婦人科手術	総数 421件
子宮全摘術 (腹式)	59件
(腹腔鏡 TLH)	8件
(腹腔鏡 vNOTES)	6件
子宮筋腫核出術 (腹式)	12件
(腹腔鏡 LAM)	2件
付属器腫瘍摘出術 (腹式)	28件
(腹腔鏡)	92件
異所性妊娠 (腹式)	0件
(腹腔鏡)	3件
子宮鏡手術 (ポリープ/入院)	49件
(ポリープ/外来)	8件
(粘膜下筋腫)	41件

(癒着剥離)	1 件
(異物除去)	5 件
子宮頸部円錐切除術 (LEEP)	44 件
子宮内膜全面搔爬術	32 件
コンジロームレーザー焼灼術	14 件
流産手術	6 件

他

## 皮膚科

---

### (1) 概要

常勤医師 3 名で診療している。アトピー性皮膚炎や白癬をはじめとする一般的な疾患の他、自己免疫性水疱症（水疱性類天疱瘡、尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡）、乾癬、多汗症など、幅広く診療している。また、毎週金曜日に中央手術室にて手術を行っている他、平日午後にも外来手術室にて手術を行っている。

千葉市の皮膚科では数少ない入院の受け入れもしており、主に蜂窩織炎、水疱症、薬疹といった患者の入院加療を行っている。

### (2) スタッフ

根岸 麻有子（日本皮膚科学会認定皮膚科専門医・指導医）

田頭 良介

中島 美音

### (3) 診療内容

通常の外用治療、内服治療の他、主に下記のような検査や治療を行っている。

#### 【検査】

- ・ダーモスコピー
- ・真菌鏡検
- ・皮膚生検、筋膜生検、側頭動脈生検
- ・パッチテスト
- ・光線過敏症検査

#### 【処置、治療】

- ・液体窒素
- ・紫外線治療（Narrow-band UVB）
- ・手術治療（単純縫縮、植皮など）
- ・乾癬やアトピーに対する生物学的製剤治療
- ・イオントフォーレーシス
- ・多汗症ボトックス注射
- ・局所陰圧閉鎖療法

### (4) 教育

日本皮膚科学会認定専門医研修施設であり、後期研修医育成にも力を入れている。

(5) 診療実績

外来患者数：年間約 12,000 人

入院患者数：年間延 約 1,700 人

良性腫瘍手術 件数：106 件

悪性腫瘍手術 件数：72 件

皮膚切開術 件数：50 件

皮膚生検 件数：345 件

(2024/4/1～2025/3/31)

## 泌尿器科

---

### (1) 概要

泌尿器科では、主に腎臓、尿管、膀胱、尿道等の尿路の疾患および男性生殖器の前立腺、精巣等の疾患の診断、治療を担当している。

排尿障害、尿路感染症等の一般泌尿器科の他に、泌尿器悪性腫瘍（腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍等）に対する手術、化学療法等に積極的に取り組んでいる。終末期医療については、在宅での生活時間を長くとれるよう訪問診療医や訪問看護師、介護士と連携をとりながら可能な限り外来診療で加療し、必要に応じて体調管理・服薬調整目的の短期入院にも対応している。

### (2) 診療体系

常勤医師 5 名体制。非常勤医 2 名

外来：月曜から金曜の午前中および、月・水・金の午後（再来診療のみ）

（月曜、水曜、金曜は 3 診体制、手術日のため火曜は 2 診、木曜は 2 診体制）

月曜、水曜、金曜に体外衝撃波結石破砕術（ESWL）を施行している（1 日 3 件）。

手術日：予定手術は火曜、木曜の週 2 日。臨時手術は月曜午前中。

また毎週火、金に外部より非常勤医に外来手術の応援に来て頂いている

### (3) スタッフ

松本 精宏（泌尿器科統括部長）

寺中 さやか（泌尿器科医長）

菅原 翔（泌尿器科医長）

番場 大貴（泌尿器後期研修医）

榎本 晃子（泌尿器後期研修医）

### (4) 科の特徴

当科では治療の低侵襲化を目指し、腎尿管結石に対する体外衝撃波治療（ESWL）およびホルミウムレーザーを用いた内視鏡治療（尿路結石には TUL、前立腺肥大症には HoLEP）を積極的に実施している。前立腺肥大症に対する内視鏡治療は HoLEP（経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術）を標準術式とし、導入後 15 年で 1200 例以上施行しており、症例数は全国でも上位に位置している。平成 23 年度より腎癌、腎盂尿管癌、副腎腫瘍に対して体腔鏡下（腹腔鏡下）手術を基本術式としている。また当院代謝内分泌内科による副腎静脈採血などの副腎疾患精査体制の強化

により副腎疾患が増加しており腹腔鏡手術件数が増加しています

## (5) 教育

日本泌尿器科学会認定専門医基幹教育施設に認定されている。

### 令和6年手術統計

ラパロ副腎摘出	3	HOLEP	162
ラパロ腎摘出	7	TUR-BT	94
ラパロ腎部分切除	1		
開腹腎摘	0	TUL	140
開腹腎摘(良性)	1		
開腹腎部分	0	前立腺生検	115
ラパロ腎尿管	13	ESWL	53
開腹腎尿管	0	手術合計	725
		合計(ESWL含む)	778
前立腺全摘	0		
膀胱全摘+回腸導管	1		
膀胱全摘+尿管皮膚瘻	1		

## 眼科

---

### (1) 概要

非常勤医師1名（月・火・水・金の午前のみ）にて、主に外来診療を行っている。現在は院内他科からの紹介患者を中心に診療を行っており、代謝内分泌疾患・造血器疾患・自己免疫疾患・神経内科疾患・呼吸器疾患・皮膚疾患など、その背景は様々である。糖尿病網膜症・緑内障・加齢黄斑変性症・ぶどう膜炎・網膜裂孔などに対する眼科一般診療も行っている。

また視能訓練士2名にて各種検査（視力検査・眼圧検査・視野検査・光干渉断層計検査・眼筋機能精密検査・中心フリッカー値・視覚誘発電位・斜視検査など）を行っている。

現在手術治療は行っていないが、眼感染症に対する抗生剤治療やバセドウ病眼症に対するステロイドパルス治療などの入院加療（内科常勤医が主治医）も適宜行っている。

### (2) スタッフ

医師：非常勤医師複数～診療日は各1名

視能訓練士：常勤2名

### (3) 診療内容と実績

#### ・糖尿病網膜症

診察並びに眼底検査・光干渉断層系検査（蛍光眼底造影検査は現在不可）などを施行し、網膜光凝固・抗VEGF薬硝子体注射・ステロイド局所注射などが必要な患者は他院に紹介している。

#### ・バセドウ病眼症

眼球突出度測定・眼筋機能精密検査・眼窩MRIなどを施行し、病状に応じてステロイドパルス治療（内科常勤医が主治医）やステロイド局所注射（他院紹介）などを施行している。

#### ・造血器疾患

移植後の移植片対宿主病に伴う重症ドライアイの治療やサイトメガロウイルス網膜炎などをはじめとした眼感染症の治療などを行っている。

#### ・神経内科疾患

中心フリッカー値・視野検査・視覚誘発電位・眼筋機能精密検査などを施行し原病に伴う眼症状の評価を行っている。

#### ・自己免疫疾患

原病に伴う眼症状の評価や、治療薬による副作用の評価などを行っている。

#### ・皮膚疾患

薬疹や眼部帯状疱疹などに伴う眼症状の評価と治療を行っている。

R6年度の外来患者数は延べ2,098名、新規患者数は0名であった。外部からの紹介は0名であった。

## 耳鼻咽喉科

---

### (1) 概要

耳鼻咽喉科は耳、鼻、咽喉頭、頸部を対象に診療しており、地域中核病院の役割を果たすべく紹介を受け外来、入院診療を行っている。耳鼻咽喉科、頭頸部外科全般にわたる疾患・外傷に対して幅広く対応している。さまざまな基礎疾患のある高齢者の受診が増加しているが、他科との連携をはかり、個々の症例に応じ最善の方法を説明・同意の上、治療を行っている。

### (2) 診療体系

令和3年度4月から新規に常勤医2名が赴任し、外来、入院、手術業務をおこなっている。

令和6年度10月から、常勤医3名体制で臨床業務を行っている。

一般外来診療日、月曜、火曜、水曜、金曜日の午前におこなっている。

嚥下外来は、火曜午後におこなっている。

術前外来は、火曜午後、金曜午後におこなっている。

手術日は、月曜午後、水曜午後、木曜午前と午後となっている。

### (3) スタッフ

杉本 晃 (統括部長)

堀内 菜都子 (医長)

浜田 知至 (医師) 2025年3月末 退職

### (4) 診療内容

- ・ 千葉市立青葉病院の耳鼻いんこう科では2021年春より常勤医が赴任し、耳、鼻、咽喉頭、喉頭、頭頸部と幅広く手術治療や入院治療を行っている。
- ・ 昨今では耳科手術の設備を整えている病院が少ない中、千葉市立青葉病院では耳科手術にも対応できる体制を整えている。
- ・ 甲状腺・副甲状腺センター開設もされ甲状腺副甲状腺疾患に対する診断から治療まで一つの施設で行える病院となっている。甲状腺、副甲状腺腫瘍の手術症例数は、県内トップクラスである。
- ・ 嚥下サポートチームの一員としても耳鼻科は重要な役割の一端を担っている。
- ・ 高度な専門医療を要する疾患は、千葉大学医学部附属病院をはじめ専門医療機関と綿密な連携をもちながら最新の診療をおこなっている。

- ・ 睡眠時無呼吸症候群の検査をおこなう。必要により、入院ポリソムノグラムをおこな  
い、診断をする。CPAP 治療により、睡眠時無呼吸症候群の治療をおこなっている。

#### (5) 教育

千葉大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科の研修指定病院として学生教育、研修医教育  
を実践している。

日本耳鼻咽喉科学会専門医制度研修施設

#### (6) 診療実績

耳、鼻、咽頭、喉頭、頭頸部と幅広く手術をおこなっている。千葉メディカルセン  
ター耳鼻科の入院、手術業務停止により、入院、手術業務が増加傾向である。そのな  
かでも、甲状腺および、副甲状腺の手術件数は県内でもトップクラスである。

以下に主な手術件数（人）、手術以外の入院人数を掲示する。

術式	件数
鼓室形成術	9
鼓膜形成術	1
内視鏡下鼻副鼻腔炎手術	20
鼻中隔矯正術	11
粘膜下鼻甲骨切除術	14
口蓋扁桃手術(摘出)	39
アデノイド切除術	12
気管切開術	7
顕微鏡下喉頭手術（ラリンゴマイクロサージェリー）	4
唾液腺腫瘍摘出手術	4
リンパ節摘出術	39
甲状腺手術（甲状腺悪性腫瘍手術含む）	28
副甲状腺手術	12
その他、頸部等手術	15
合計	198

手術以外での入院患者	人数
突発性難聴等の急性感音難聴	7
ベル麻痺やハント症候群による顔面神経麻痺	14
BPPV や前庭神経炎やメニエール病によるめまい	4
急性咽喉頭炎、急性喉頭蓋炎、等	13
扁桃周囲膿瘍	12
喉頭癌、義歯誤嚥、鼻部骨折、難治性鼻出血、等	6
入院精密ポリソムノグラム	14
合計	70

## 救急集中治療科

---

### (1) 概要

救急外来診療・院内急変対応、および集中治療室における重症患者管理を行っている。また千葉市救急ワークステーションにおける救急隊の教育・実習の受け入れも継続している。

### (2) 診療体系・診療内容

2022年度より、常勤医1名体制で診療を行っている。2024年度は、海浜病院救急科より週1回日勤の応援師、千葉大学救急部より月1回日勤の応援医師を派遣していただいた。夜間は常勤医による夜勤が月2-3回、千葉大学救急部より月8回の夜勤、済生会習志野病院から月2回の夜勤で、計10回を担当した。勤務体制は2021年度から導入した完全シフト制(日勤・夜勤の2交代制)を継続している。

集中治療室の管理はopen-ICUで継続したが、2024年6月からはICU稼働率を上げる目的で、「各科管理」を導入した。つまり、ICU入室となる症例のうち、重症患者管理が必要な場合は従来通り「救急集中治療科併診」としたが、各診療科による単独管理でよい場合は「各科管理」と分けることを周知した。その結果、ICU入室患者数は前年度よりも増加を認めた。

院内急変対応はMET(medical emergency team)という、医師1名を含んだ気管挿管などの二次救命処置をベッドサイドで開始できる能力を備えた対応チームとして活動をしている。METは2012年より導入、現在まで継続している。

#### 1. 救急外来：

- ・診療4床：簡易陰圧装置を設置した診察室2床および処置室2床
- ・初診の救急搬送例を当科で受け入れ

#### 2. ICU：

- ・病床4床、うち個室2床（うち隔離室1床）
- ・特定集中治療管理料3もしくは4を算定
- ・open ICU
- ・朝・夕カンファレンスは「救急集中治療科併診」の患者に限って行い、各診療科医師のほか、ICU看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士による多職種でのカンファレンスを施行

#### 3. 院内急変対応：

- ・MET PHSを常時医師が携帯しているが、救急集中治療科医師が不在の勤務帯は、管

理当直もしくは診療局長が携帯するルールとしている。

4. HCU :

- ・ 8床、緊急入院および院内の重症患者に対応
- ・ 各科管理

(3) スタッフ

高橋 和香 (統括部長)

(4) 診療実績

1. 救急診療

2024 年度救急外来統計

救急外来診療患者数 5,748

救急車来院数 4,956

転出先 入院 2,634, 転院 94

診療科別 内科 2,707, 救急集中治療科 2,003, 整形外科 721, 産婦人科 51, 外科 110,  
その他外科系診療科 143, 精神科 8, 小児科 5

2. 集中治療

2024 年度 ICU 統計

ICU 入室患者数 のべ 175 例、計 100 名

転入先 院内 71 例, 救急 28 例, 外来 1 例

診療科別 内科 73 例, 泌尿器科 8 例, 整形外科 5 例, 耳鼻咽喉科 4 例, 外科 5 例, 婦人科 1 例

特殊治療 人工呼吸器 66 例, NIPPV1 例, CHDF12 例, HD8 例, VA-ECMO2 例

3. 院内急変対応

2023 年度 MET 件数 99 件、

うち MET 到着時心肺停止例 14 件

## 歯科

---

### (1) 概要

当科は病院歯科として、高齢者や様々な全身的疾患に罹患した患者を対象としており、医科歯科連携により円滑な診療を心がけています。

口腔は身体の入りの入り口であり、身体健康の維持のために安定した口腔環境を維持することが大切です。歯冠修復や入れ歯作製などの形態回復だけではなく口腔機能として咀嚼嚥下機能の回復への関わりも増えてきました。

### (2) 診療体系

当科で院内入院中の方、他科受診中の方、地域医療機関から紹介を受けた方を対象に診療しており、受診していただいた方々に安全、安心、信頼の得られる歯科医療を提供しています。

入院中に歯科受診された方においては退院後の継続的なフォローアップや地域歯科医療機関への紹介を行い口腔環境の整備に対応しています。

抗血栓療法（ワーファリン、バイアスピリン等）を受けている患者では、服薬を継続しての外来通院での抜歯が一般的となっていますが、抜歯後出血対応のため術後入院管理も行います。骨吸収抑制薬（ビスフォスフォネート製剤、RANKL 阻害剤）や血管新生抑制薬が投薬されている患者では抜歯等の観血的治療後の顎骨壊死が報告されていることから、投薬する医科と連携し治療を計画しています。また、比較的長期間の歯科治療を要する血液疾患患者への歯科的サポートも行っています。

医科がん患者の化学療法患者や骨髄等の移植患者、手術症例を対象として周術期口腔機能管理を行っています。

院内活動として栄養サポートチーム（NST）や摂食嚥下サポートチーム、血液内科移植カンファレンス、LTFU カンファレンスに参加し、患者の口腔関連の諸問題に対応しています。

下顎水平埋伏智歯抜歯等の口腔外科症例は東京歯科大学口腔外科専門医の協力を得て診療を行っていますが、治療困難症例や口腔インプラント、歯列矯正などの専門的治療が必要となる場合には、東京歯科大学千葉歯科医療センターや千葉大学医学部附属病院歯科口腔外科をはじめ近隣歯科医療機関との連携により対応しています。

また、日頃より千葉市歯科医師会と連携し歯科医院での対応困難な患者の処置に対応しています。

### (3) スタッフ

歯科医師：阿部 耕一郎

資格：日本歯科麻酔学会認定医  
 日本障害者歯科学会認定医  
 日本有病者歯科医療学会指導医、専門医  
 日本口腔ケア学会評議員  
 日本糖尿病協会登録歯科医  
 歯科医師臨床研修指導歯科医  
 産業歯科医

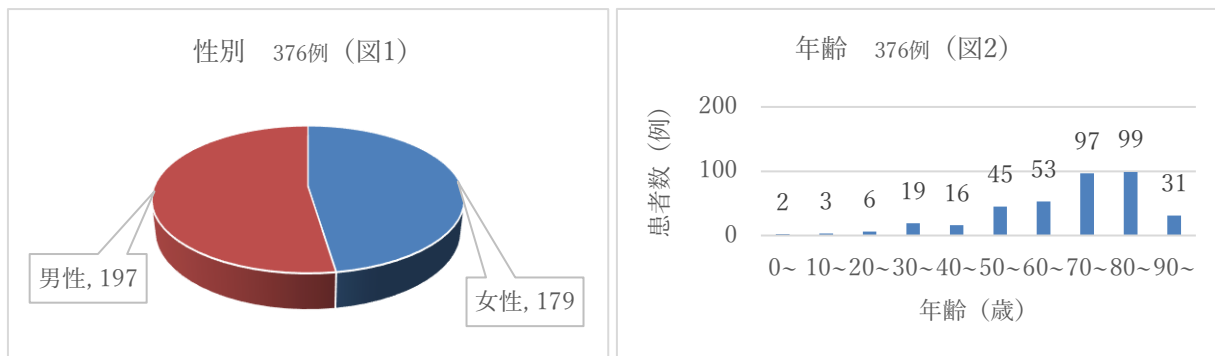
(4) 教育

日本障害者歯科学会 認定医臨床研修施設  
 日本障害者歯科学会 認定歯科衛生士臨床研修施設  
 日本有病者歯科医療学会 認定医研修施設

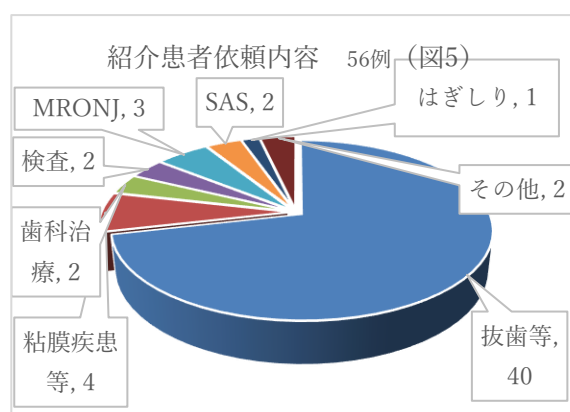
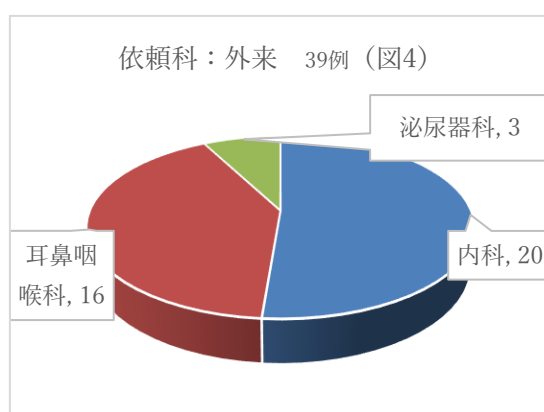
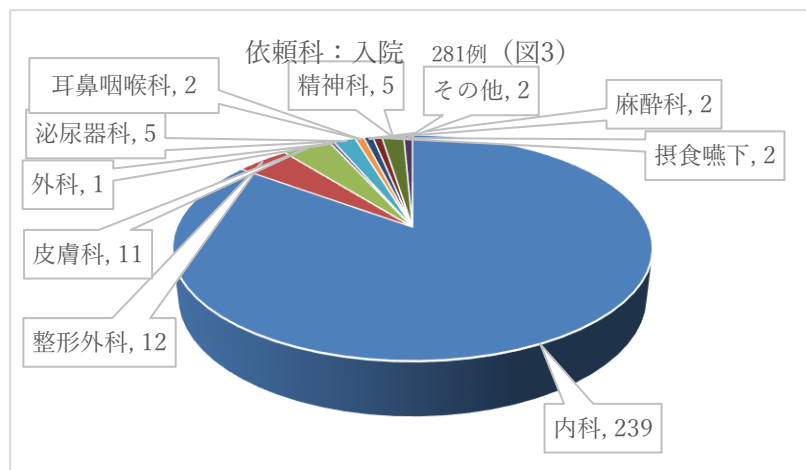
(5) 診療実績

令和6年4月から令和7年3月までの総患者数は1780名、入院660名(37%)、外来1,120名(63%)でした。内訳は初診376名、入院281名(75%)、外来95名(25%)、再診は1,404名、入院379名(27%)、外来1,025名(73%)でした。

初診患者の男女比はやや男性が多く(図1)、年齢分布は65歳以上の高齢者が約7割で、前期高齢者(65~74歳)74名、後期高齢者(75歳以上)178名でした(図2)。



他科廻し初診は入院 281 例、外来 39 例で、依頼は診療各科からあり、内科からの依頼が入院、外来ともに多く、内科のうち血液内科からの依頼は入院では 94 例、外来では 10 例で多くを占めていました（図 3、図 4）。



院外からの紹介患者は 56 例で全身的疾患を合併し抗血栓薬、ビスフォスフォネート製剤や RANKL 阻害剤などの骨吸収抑制剤使用患者の抜歯など口腔外科的処置や難治性の口腔粘膜症状の対応が大半を占め、検査は骨病変評価のための東京歯科大学千葉歯科医療センターからの RI 検査、薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) 管理症例、医科クリニックからの睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置作製依頼がありました（図 5）。

令和 6 年度の主な処置内容および症例数を表 1 に示します。

以上

●主な処置内容（令和6年度）（表1）

口腔外科処置	症例数
口腔内消炎手術 / 口腔内創傷処理	1 / 1
抜歯 / 難抜歯	100 / 7
下顎埋伏智歯抜歯 / 埋伏歯抜歯	13 / 3
歯根のう胞摘出術(含抜歯)	35
顎関節脱臼非観血的整復術	1
腐骨除去術 / 口腔内腫瘍切除術 / 後出血処置	1 / 1 / 1
<b>歯科保存処置</b>	
歯髄覆罩	2
麻酔抜髄	11
感染根管治療	3
根管充填	9
<b>修復・補綴処置</b>	
インレー: レジン	4
光重合レジン充填	50
歯冠修復: メタル / ハイブリッドレジン / ブリッジ	1 / 9 / 1
硬質レジン前装冠	2
義歯: 局部義歯 / 総義歯	5 / 7
義歯床下粘膜調整処置 / 義歯修理(含裏装)	31 / 29
舌接触補助床 / 手術時マウスピース / 歯ぎしり装置	2 / 6 / 1
睡眠時無呼吸症候群口腔内装置	2
<b>患者管理・指導</b>	
歯科疾患管理	667
歯科特定疾患療養管理	114
歯科治療時医学管理	64
歯科衛生実地指導	335
<b>周術期口腔機能管理</b>	
周術期口腔機能管理策定	79
周術期口腔機能管理Ⅰ: 術前 / 術後	12 / -
周術期口腔機能管理Ⅱ: 術前 / 術後	11 / 13
周術期口腔機能管理Ⅲ	86
周術期口腔機能管理Ⅳ	139
周術期専門的口腔衛生処置	50

## リハビリテーション科

### (1) 2024 年度年間目標・運営方針

- 1) 客観的な指標に基づいて質の高いリハビリテーションを提供する。
- 2) 多職種連携を強化し、適切な在院日数での退院をサポートする

### (2) リハビリテーション科概要

リハビリテーション科	部長	医師	輪湖 靖
リハビリテーション科	主任医長	医師	青墳 佑弥
理学療法士 (以下 P T)	11 名		
作業療法士 (以下 O T)	8 名		
言語聴覚士 (以下 S T)	2 名		
リハビリ助手	2 名		
リハビリ受付	2 名		

各療法士職種別の平均経験年数を表 1、各種取得資格について表 2 で示す。

表 1 職種別平均経験年数

職種	P T	O T	S T	(年)
経験年数 (平均)	17.5	12.6	9.0	

表 2 取得資格リスト

取得資格名	人数 (名)
日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医・指導医	1
整形外科専門医	1
人工関節学会 認定医	1
日本理学療法士協会登録理学療法士	6
日本作業療法士協会認定作業療法士	1
日本理学療法士協会認定理学療法士 (代謝)	1
日本糖尿病療養指導士	1
認定臨床教育者 (認定 CE)	1
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士	1
一般社団法人日本循環器学会心不全療養指導士	5
3 学会合同呼吸療法認定士	7
がんのリハビリテーション研修会修了者	21
千葉県地域災害派遣医療チーム (C L D M A T)	2

臨床実習指導者講習会修了者	16
ICLS プロバイダーコース受講修了者	5
医療クオリティーマネージャー	1

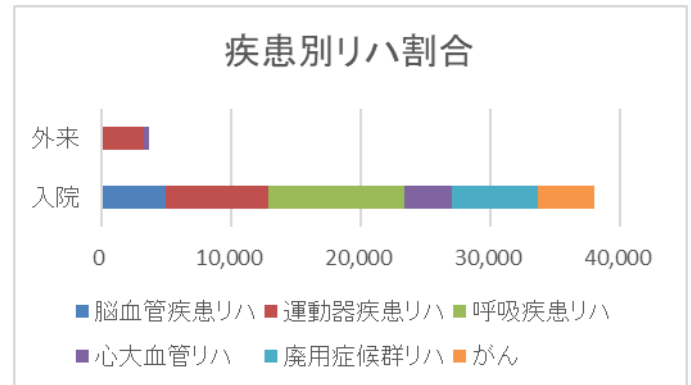
### (3) クリニカルインディケーター

#### ① 2024年度 年間実績など

	2022年度	2023年度	2024年度	前年比
実働日数 (日)	244	243	243	0.0%
延べ単位数 (単位)	53,761	61,583	67,208	5.7%増加
延べ患者数 (人)	32,381	32,809	41,917	10.7%増加
平均延べ患者数 (人/日)	133.0	135.1	173.1	28.1%増加
平均リハビリ単位数 (単位/日)	220.6	253.7	277.4	9.3%増加
1患者の平均提供単位数 (単位/日)	1.66	1.88	1.60	14.9%減少
入院からリハビリ介入までの平均日数 (日)	3.4	3.3	3.3	0.0%

#### ② 疾患別リハビリテーション別の延べ件数 (件)

疾患別リハビリテーション	入院	外来
脳血管疾患リハ	4,958	52
運動器疾患リハ	7,899	3247
呼吸疾患リハ	10,509	1
心大血管リハ	3,588	329
廃用症候群リハ	6,662	0
がん	4,407	0

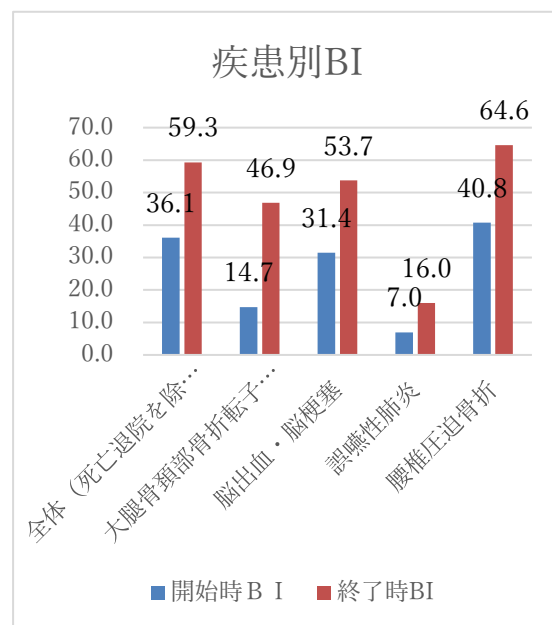


#### ③ 主なりハビリ対象疾患 (件数)

	2022年度	2023年度	2024年度
脳卒中その他脳疾患・脳外傷	92	109	129
脊髄損傷その他脊髄疾患	26	37	56
リウマチを含む骨関節疾患	660	448	669
脳性麻痺を含む小児疾患	0	0	0
神経・筋疾患	36	50	32
切断	3	6	4
呼吸・循環器疾患	798	990	1136
その他	817	878	981

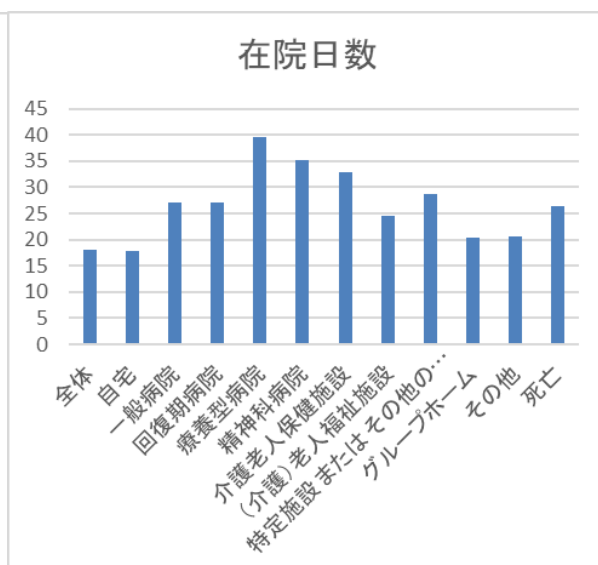
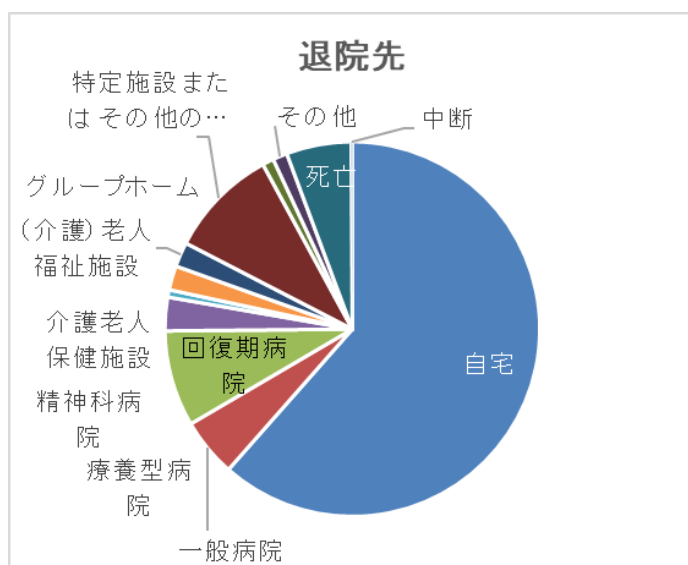
④ 疾患別 ADL (Barthel Index (BI)) の改善度と在院日数

疾患名	開始時 BI	終了時 BI	平均 B I 改善値
全体 (死亡退院を除く)	36.1	59.3	23.2
大腿骨頸部骨折転子部骨折	14.7	46.9	32.1
脳出血・脳梗塞	31.4	53.7	22.3
誤嚥性肺炎	7.0	16.0	9.1
腰椎圧迫骨折	40.8	64.6	23.8



⑤ 退院先・在院日数

	件数 (件)	平均在院日数 (日)	中央値 (日)
自宅	1826	15.0	15
一般病院	150	24.6	20
回復期病院	246	25.8	22
療養型病院	86	40.0	35
精神科病院	19	32.5	19
介護老人保健施設	62	35.1	28
老人福祉施設	374	27.4	20
その他 (シェアハウス・緩和施設等)	37	20.7	19
死亡	166	22.4	18
全体	2,970	21.6	17



#### (4) 学会発表等

学会誌掲載	須賀美紀 山田俊之 六角智之	スプリントを用いた手指基節骨及び中手骨骨折に対する保存的治療	日本ハンドセラピー学会誌 第16巻3号 PP162-166
2024/11/2 ～11/3	青墳佑弥	誤嚥性肺炎患者の早期経口摂取再獲得に関連する予後予測因子の検討	第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
	遠藤実果	脳梗塞により失語を生じた身寄りのない国民健康保険未加入患者に対しリハビリテーション治療・社会的支援を行った一例	
	白川 渡	病棟看護師による歩行自立度の判定と運動機能評価の結果の比較	
2025/3/1	平井恵理	同種造血幹細胞移植患者に対するリハビリテーション介入効果の後方視的検討	第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会
2025/3/9	成富大輔	心不全予防と重複障害に対する療養指導に作業療法士として関わった一経験	第26回千葉県作業療法学会

#### (5) 新規設備・機器類

低周波治療器 (イトーpostim)

電動サイクルマシン (エスカルゴⅢ) ×3台

#### (6) 2025年度の年間目標

- 1) 他職種連携の強化と体制整備
- 2) マニュアル・訓練手順の見直しと標準化の促進

## 麻酔科

---

### (1) スタッフ（常勤麻酔科医師）

診療局長

鈴木洋人（日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会指導医）

手術室麻酔科統括部長

蓑輪百合子（日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会指導医）

麻酔科統括部長

中嶋和佳（日本専門医機構麻酔科専門医）

非常勤麻酔科医師（1日/週勤務）2024/4月～2025/3月

月	火	水	木	金
1名	3名	3名	3名	2名

夜間休日待機医師

常勤医、千葉大派遣医師

### (2) 診療体系

当院は3名の麻酔科医が常勤している。全員が日本専門医機構認定麻酔科専門医または日本麻酔科学会指導医である。業務は、週5日手術室での麻酔業務を中心に行っている。全身麻酔が主であるが、高リスク患者の脊髄クモ膜下麻酔、伝達麻酔や産婦人科小手術に対する静脈麻酔、短時間の全身麻酔も行っている。

常勤麻酔科医以外に各曜日の日勤帯に週1日勤務の非常勤麻酔科医が1～3名勤務している。現在、非常勤麻酔科医は、千葉大学、民間医局等からの派遣医師に勤務いただいている。

夜間休日のオンコール対応は、常勤医減少に伴い平成29年度からは、民間医局にも依頼を開始。令和4年度からは千葉大派遣医師、令和6年度からは常勤医と千葉大派遣医師で担っている。そのため、以前に比較すると夜間の緊急手術により迅速に対応できる体制となった。

### (3) 科の特徴

近年、麻酔の質を問われるようになり、麻酔からの良好な覚醒や十分な鎮痛が要求される。これまでは硬膜外ブロックが術後鎮痛に大きな役割を果たしてきたが、硬膜外ブロックが行えない手術では末梢神経ブロックを積極的に行なっている。当科では整形外科、婦人科、外科手術を中心に超音波ガイド下末梢神経ブロックを行い、より質の高い周術期管理を行っている。

術前に抗凝固薬を服用している高齢患者も多い。以前は抗凝固薬を十分期間休薬した上で、硬膜外ブロックを行っていたが、現在は休薬期間を最小限にし、末梢神経ブロックを用い手術

を行うことで、周術期の合併症を減らし、術後鎮痛の質を上げることが可能となっている。

当院では令和6年度、小児の上肢手術は年間113件あり、その多くが緊急手術である。小児の上肢手術は伝達麻酔を併用することにより、術後の良好な鎮痛が得られ、日帰り手術が可能なが多い。

従来、産婦人科小手術はいわゆる“静脈麻酔”で各科医師が管理していたが、鎮静鎮痛が不十分で、体動や上気道閉塞、呼吸抑制といった問題が多かった。このような経緯から、当院では麻酔科医が全身麻酔で行っている。また、開院当初から行っている手術室への独歩入室や症例により術前経口補水液を採用し、外科領域で盛んに議論されているERAS(enhanced recovery after surgery)にも寄与していると考えられる。

#### (4) 教育

初期研修医1年目 8名

当院では、麻酔科研修は初期研修1年目の必修項目となっており、1.5月ずつのローテーションで研修を行っている。2年目の選択科目として麻酔科を選択する医師もいる。

#### (5) 手術室における感染予防対策

令和2年度以降はCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)患者の増加を受けて、当院手術室における従来の感染予防対策に様々な変更を加えている。

令和2年4月、手術室看護師の協力の下にCOVID-19陽性患者対応のアルゴリズムを作成し、手術室内のゾーニング、個人用防護具、使用機材の扱いなどを詳細に定めた。これを基に実際の手術シミュレーションを行い、さらに現況の変化に合わせてアップデートを重ねている。実際には令和2年度の1年間に、明らかなCOVID-19陽性患者の手術は行われなかった。しかし以前にPCR陽性で、陰性が確認されてから日が浅い症例が2例、PCR陰性だが画像所見上、肺炎像を認める症例が1例あり、いずれも手術室ではCOVID-19陽性患者として対応している。

令和3年度以降は、COVID-19陽性患者に対しても全身状態を考慮し、早期手術、早期退院を目指し、感染防御に留意しながら、手術を行っている。

また院内感染防止の観点から、COVID-19陽性患者以外の手術患者全例に対しても、COVID-19陽性の可能性を常に念頭に置き、対応している。患者は入室前に体温チェックを行い、入退室の際にはマスク着用としている。

#### (6) 診療実績

令和6年度の年間麻酔科管理症例は2,008件であった。COVID-19の流行に伴い、令和2年度は一時手術件数が落ち込んだものの、その後は年々増加し、現在では令和元年度の麻酔管理症例数に匹敵するほどにまで回復している。

令和4年度以降は当院で分娩を取り扱わなくなったため、帝王切開手術が無くなった。手術室外麻酔として、精神科病棟において修正電気痙攣療法(mECT)の麻酔も行っていたが、

令和4年度は当院の精神科病棟一時閉鎖されたためmECTの麻酔が全くなかった。令和6年度には精神科病棟が再開となり、12月にはmECTも再開された。病棟の本格稼働に伴い今後症例数も増加するものと思われる。令和4年度以降は帝王切開の麻酔が無くなったため、その分の症例数は減少したものの、麻酔科管理症例数の総数としては増加しており、当院での手術件数が増加していることを示している。

#### <診療科別>

	令和6年度
整形外科	702
産婦人科	342
外科	347
泌尿器科	436
耳鼻科	143
内科	7
皮膚科	2
*ECT	29
麻酔科管理総数	2,008 件

\*ECT=修正電気痙攣療法 手術室外での麻酔 精神科

#### <麻酔法別>

		令和6年度
半閉鎖循環式麻酔	総数	1,913
	全身麻酔のみ	938
	全身麻酔+脊 or 硬 or 伝	975
区域麻酔	脊椎麻酔+硬膜外麻酔	2
	硬膜外麻酔のみ	1
	脊椎麻酔のみ	2
伝達麻酔	伝達麻酔のみ	1
静脈麻酔		60
ECT		29
麻酔科管理総数		2,008 件

## (7) 術後疼痛管理チーム

令和5年9月に、より安全で質の高い術後疼痛管理を目指し、術後疼痛管理チームが発足した。術後疼痛管理チームとは麻酔科常勤医師、術後疼痛管理に係る所定の研修を修了した専任看護師、術後疼痛管理に係る所定の研修を修了した専任の薬剤師よりなるチームである。以前から麻酔科医による術後回診は行われていたが、研修を受けた手術室看護師や薬剤師も一緒に多業種で回診を行い、主治医や病棟スタッフともコミュニケーションと取りながらチームとして術後疼痛を管理することで、より多角的に質の高い術後疼痛管理が可能となる。現在、術後疼痛管理チームが関与しているのは、全身麻酔手術で術後に持続硬膜外麻酔、持続末梢神経ブロック、麻薬の持続静注のいずれかによる術後疼痛管理を行っている症例である。

## 病理診断科

---

### (1) スタッフ

統括部長：窪澤 仁（専任医師）、

主任臨床検査技師：藤崎 和仁（専任技師）

臨床検査技師：大本 真琴（専任技師）西野 奈々子（専任技師）、

大友 祐輝（専任技師）佐藤 綾香（非常勤）、

非常勤医師：堀江 弘

専任技師1名が育児のための休職中で、基本的に検査技師4人体制となっている。

### (2) 教育

病理診断、細胞診断に関する各種研修会に積極的に参加し、症例の報告を行うとともに、討論に積極的に参加している。また、検査技師会の精度管理にも参加している。

国際医療福祉大学成田保健医療学部医学検査学科の学生実習を受け入れ、教育を行っている。

### (3) 診療実績

病理組織検査 約 4,000 件、細胞診検査 約 4,000 件で、剖検例は 3 件であった。

CPC を 1 回行い、婦人科、皮膚科との病理組織カンファレンスを概ね毎週行った。

武漢で発生した肺炎、所謂「新型コロナ」感染症の流行により減少していた検体数は緩やかに戻り、病理組織検査は令和元年度と概ね同数となっている。細胞診検査数は近年減少傾向が続いていたが、今年度は昨年度より各科偏りなく僅かに増加した。

遺伝子検査を考慮して手術検体の固定液を 10%中性緩衝ホルマリンへと変更したため、手術検体の **turn-around time** は 2 日から 3 日と延びたが、生検検体は 2 日以内に報告されており、順調に運営されている。免疫染色の件数が増加しており、検査技師の負担が増加しているため、新規に機器を導入したが、負担はあまり変わっていない。

組織検体は可能な限り、また、細胞診検体は全例 **double check** を行って、診断精度の向上を図っている。

## 診療局業績

### (1) 内科

#### ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	GH 補充を開始した糖尿病合併成人プラダー・ウィリ症候群の 1 例	丹羽美貴、高橋直也、石田晶子、番典子、小出尚史、山本恭平	第 34 回臨床内分泌代謝 Update	2024/11/29
2	MRI 拡散強調像と臨床症状に関連を認めた低血糖脳症の一例	高橋直也、丹羽美貴、石田晶子、番典子、小出尚史、山本恭平	第 34 回臨床内分泌代謝 Update	2024/11/29
3	Paroxysmal symptoms で発症した多発性硬化症の 40 歳女性例	鈴木孝一郎、狩野裕樹、和田猛、澤井撰、森雅裕	第 42 回神経内科学教室例会	2024/12/14
4	骨髄異形成症候群(MDS)に対してアザシチジン投与後に無痛性甲状腺炎を発症した一例	高橋直也、丹羽美貴、八木橋毅、岡野公亮、依田夏美、石田晶子、番典子、小出尚史、山本恭平	第 31 回千葉甲状腺研究会	2025/2/21
5	当院における健常人ドナーに対する Pegfilgrastim を用いた末梢血幹細胞採取の後方視的解析	岩井青都、永尾侑平、粕谷悠樹、木村賢司、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗	第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会	2025/2/28
6	1B 型糖尿病が疑われたバセドウ病併発糖尿病性ケトアシドーシス(DKA)の 1 例	丹羽美貴、高橋直也、石田晶子、番典子、小出尚史、山本恭平	第 62 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会	2025/2/9
7	人工呼吸管理を要した劇料型マイコプラズマ肺炎に対	中山浩希、松浦有紀子、河井彬弘、豊田陽子、佐藤峻、内藤	第 187 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部	2025/2/8

	してステロイドの全身投与が奏功した1例	亮、永吉優、瀧口恭男	学会 兼 第263回日本呼吸器学会 関東地方会合同学会	
8	自己免疫疾患の関与が疑われた門脈圧亢進症を伴う肺高血圧症の1例	笠原大暉、石尾直樹、伊藤達也、宮原友輝、齋藤寛、盛直人、竹田雅彦、内藤亮、志鎌伸昭、橘川嘉夫	第702回日本内科学会関東地方会	2025/2/8
9	脳幹型PRESの寛解後、原因薬剤のシクロスポリンを再開しえた1例	勝見健太郎、岩瀬麻里、松下朋生、小林芳久	第702回日本内科学会関東地方会	2025/2/8
10	嚢胞形成性肝転移を呈し、診断に難渋した腸間膜原発の神経内分泌腫瘍の一例	徳山峻一、橘川嘉夫、三田聡美、小関寛隆、畠山一樹、宮本禎浩	第702回日本内科学会関東地方会	2025/2/8
11	化学療法施行にHHV6脳炎を発症した肺限局リンパ腫様肉芽腫症の一例	岩井青都、永尾侑平、粕谷悠樹、木村賢司、鐘野勝洋、小野田昌弘、横田朗	第1515回千葉医学会例会（内分泌代謝、血液、老年内科学例会）	2025/2/22
12	MRI拡散強調像と臨床症状に関連を認めた低血糖脳症の一例	高橋直也、丹羽美貴、石田晶子、番典子、小出尚史、山本恭平	第1515回千葉医学会例会（内分泌代謝、血液、老年内科学例会）	2025/2/22
13	1B型糖尿病が疑われたバセドウ病併発DKAの1例	丹羽美貴、高橋直也、石田晶子、番典子、小出尚史、山本恭平	第1515回千葉医学会例会（内分泌代謝、血液、老年内科学例会）	2025/2/22
14	卵巣奇形腫を伴う重症自己免疫性GFAPアストロサイトパチーに対する急性期腫瘍切除の1例	上野叶絵、狩野裕樹、窪澤仁、木村暁夫、下畑亭良、和田猛、澤井摂	第252回日本神経学会関東・甲信越地方会	2025/3/1

15	慢性骨髄性白血病に対して Dasatinib 投与中に EB ウィルス関連リンパ増殖性疾患を合併した一例	山崎里紗、永尾 侑平、岩井 青都、粕谷悠樹、木村 賢司、鐘野 勝洋、小野田 昌弘、横田 朗	第 703 回日本内科学会関東地方会	2025/3/8
----	--	---	--------------------	----------

イ 院内勉強会、セミナー、カンファレンス

No	題名	演者	勉強会・セミナー名	年月日
1	サル痘の一例	中山 浩希、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2024/4/11
2	胸腺癌の一例	勝見 健太郎、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2024/5/9
3	結核性胸膜炎の一例	遠藤 実果、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2024/6/13
4	ウェルニッケ脳症の一例	徳山 峻一、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2024/7/11
5	偽痛風の一例	山田 泰世、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2024/9/12
6	脚気の一例	鈴木 孝一朗、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2024/10/10
7	好酸球性筋膜炎の一例	山崎 里沙、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2024/12/12
8	SLE の一例	湯浅 来望、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2025/2/13
9	発作性片側頭痛の一例	堀江 航太郎、廣瀬裕太	総合診療カンファレンス（生坂カンファレンス）	2025/3/13

10	肺炎による重症呼吸不全で死亡した拡張型心筋症の一例	松浦 有紀子、窪沢 仁	令和6年度臨床病理検討会 (CPC)	2025/3/19
----	---------------------------	-------------	--------------------	-----------

ウ 講演

No	演題名	演者	勉強会・セミナー名	年月日
1	第3回 在宅医療コーディネーター研修会	神経疾患について ～パーキンソン病を中心に～	澤井 撰	2024/7/12
2	千葉県地域連携 Network Conference	レケンビ投与が対象の認知症患者像について ～レケンビはどこに作用するのか～	澤井 撰	2024/12/4
3	脳波セミナー in Chiba	当院におけるてんかん症例と薬物療法について	澤井 撰	2024/12/18
4	第2回 千葉遺伝医療研究会	遺伝性神経筋疾患の発症前診断の現状と課題	澤井 撰	2025/1/25

エ 論文

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	Comparison of the ability of different quantitative indices in 123I-FP-CIT single-photon emission computed tomography to differentiate dopaminergic neurodegenerative disease	Tomohiro Sato, Setsu Sawai, Naokazu Shimada	Japanese Journal of Radiology Vol43, p78-90, 2025
2	症例 17 脆弱 X 症候群、症例 24 Huntington 病 トンプソン&トンプソン 遺伝医学・ゲノム医学 第3版 2025 発刊	Weiyi Mu (症例 17), Christopher Pearson, Janet A. Buchanan (症例 24) : 翻訳 澤井 撰	トンプソン&トンプソン 遺伝医学・ゲノム医学 第3版 2025 発刊

(2) 循環器内科

ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	アセチルコリン負荷試験で冠攣縮が遷延した一例	伊藤達哉、盛直人、宮原友輝、齋藤寛、竹田雅彦、石尾直樹、志鎌伸昭	第 17 回千葉大学循環器内科学 若手奨励賞発表会	2024/6/30
2	左室流出路狭窄を合併したたこつぼ症候群の一例	宮原友輝、竹田雅彦、伊藤達哉、齋藤寛、盛直人、石尾直樹、志鎌伸昭	第 17 回千葉大学循環器内科学 若手奨励賞発表会	2024/6/30
3	腎機能低下を有する駆出率が維持された急性心筋梗塞患者におけるβ遮断薬の有用性	伊藤達哉、石尾直樹、宮原友輝、齋藤寛、盛直人、竹田雅彦、志鎌伸昭	第 46 回千葉大学循環器内科学懇話会	2024/12/15
4	急性心筋梗塞患者の尿中アルブミン値と長期予後の関連についての検討	宮原友輝、石尾直樹、伊藤達哉、齋藤寛、盛直人、竹田雅彦、志鎌伸昭	第 46 回千葉大学循環器内科学懇話会	2024/12/15
5	自己免疫疾患の関与が疑われた門脈圧亢進症を伴う肺高血圧症の一例	笠原大暉、石尾直樹、伊藤達哉、宮原友輝、齋藤寛、盛直人、竹田雅彦、内藤亮、志鎌伸昭、橘川嘉夫	第 702 回日本内科学会関東地方会	2025/2/8
6	Efficacy of beta-blockers in patients with chronic kidney disease after myocardial infarction with preserved ejection fraction	Tatsuya Itoh, Naoki Ishio, Tomoki Miyahara, Kan Saito, Naoto Mori, Masahiko Takeda, Nobuaki Shikama	第 89 回日本循環器学会学術集会	2025/3/30

イ 講演会

No	題名	発表者	主催団体もしくは講演会名	開催	年月日
1	座長	石尾 直樹	Cardiovascular Conference in Chiba	Web 講演	2024/4/17
2	冠動脈インターベンションと薬物療法	石尾 直樹	第4回千葉県病院薬剤師会 中央支部研修会	Web 講演	2024/10/17
3	コメンテーター	石尾 直樹	RYUSEI Night Conference @ CHIBA University	Web 講演	2025/2/26
4	座長	石尾 直樹	HK Management Seminar in Chiba	Web 講演	2025/2/27
5	コメンテーター	竹田 雅彦	CHIBA HBR Seminar	Web 講演	2024/7/30
6	コメンテーター	竹田 雅彦	DET club prep& DCB	Web 講演	2024/10/17
7	高血圧症について学ぶ	志鎌 伸昭	市民公開講座 社会福祉セミナー	千葉県ハーモニープラザ	2025/2/21
8	心不全について学ぶ	志鎌 伸昭	生涯学習アカデミー千葉	千葉市中央図書館	2024/8/21
9	コメンテーター	齋藤 寛	第37回日本冠疾患学会学術集会	東京コンベンションホール	2024/11/29
10	留学経験を通して学んだ循環器診療の新しい視点～ACS 診療を交えて～	齋藤 寛	ACS 最新診療セミナー	Web 講演	2024/12/19
11	リージョンプリパレーションにおける Scoreflex Trio の可能性	齋藤 寛	CHIBA Scoreflex conference	Web 講演	2025/2/28

12	コメンテーター	盛 直人	Ryusei Night Conference	Web 講演	2024/9/9
----	---------	------	----------------------------	--------	----------

ウ 紙上発表

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	Prosthetic valve infective endocarditis caused by Cutibacterium modestum: a case report	Nobuaki Shikama, Yasuo Takiguchi, Masahiko Takeda, Naoto Mori, Naoki Ishio	Eur Heart J Case Rep 2024 Jul 2;8(7)

(3) 外科・消化器外科

ア 学会発表

No	演題名	演者名	学会・研究会・研修会名	年月日
1	当院における鼠径ヘルニア に対する Lichtenstein 法	信本 大吾 清水康仁, 文陽起 山下和志	第 99 回 千葉県外科医 会	2024/7/13
2	要望演題 (ビデオ) Interparietal hernia (IPH) の腹腔鏡下鼠 径ヘルニア修復術 (TEP)- TEP での手術手技と注意点	清水 康仁	第 86 回 日本臨床外科 学会学術集会	2024/11/23
3	虫垂切除後に Goblet cell carcinoid と診断され 腹腔鏡下回盲部切除術を 施行した 1 例	文 陽起	第 86 回 日本臨床外科 学会学術集会	2024/11/23

4	self grip mesh を用いた 鼠径ヘルニアに対する Lichtenstein 法	信本 大吾	第 1513 回 千葉医学会 例会 臓器制御外科学教室談 話会	2024/11/24
5	鼠径ヘルニア術後に大腿 ヘルニア嵌頓をきたした 1 例	山下 和志	第 19 回 千葉ヘルニア 研究会	2025/1/25

#### イ 講演会

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	一般演題 12 TEP 手技	清水 康仁	第 22 回 日本ヘルニア学 会学術集会	2024/5/25
2	一般演題②	清水 康仁	第 19 回 千葉ヘルニア研 究会	2025/1/25

### (4) 整形外科

#### ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	深部静脈血栓症スクリー ニング検査における可溶 性フィブリンモノマー複 合体の有用性と至適 cut off 値の検討	河野真奈実、重村 知徳、山本陽平、 武田昂典、川島 悠、川口大貴、村 田泰章	第 97 回日本整形外科学 会学術総会	2024/5/23～ 5/26
2	左下腿骨折術後感染で骨 髄炎に至った先天性無痛 無汗症の一例	河野真奈実、三浦 道明、星裕子、府 川泰輔	第 50 回日本骨折治療学 会学術総会	2024/6/28～ 6/29

3	当院における小児上腕骨 顆上骨折に対する手術成 績の検討	福島駿	第 50 回日本骨折治療学 会学術総会	2024/6/28～ 6/29
4	複数回腰椎固定術後隣接 椎間に生じた硬膜外石灰 化病変により下肢麻痺を 来した一例	小林優、井上嵩 基、茂手木博之	第 42 回ちば脊椎カンフ ァレンス	7 月 6 日
5	びまん性特発性骨増殖症 を伴う 3-column injury 胸腰椎椎体骨折に対し て、Vertebral body stenting を併用した 1 例	井上嵩基, 茂手木 博之	第 32 回日本脊椎インス トウルメンテーション学 会	2023/11/24 ～11/25
6	成人陳旧性 Monteggia 骨 折の治療方針	山田俊之	第 29 回千葉手肘の外科 研究会	7 月 12 日
7	MRI 骨皮質描出シークエ ンスと MR angiography による造影剤非使用の椎 骨動脈走行の新規評価法	井上嵩基、牧聡、 古矢丈雄、弓手惇 史、三浦正敬、白 谷悠貴、永島優 樹、丸山隼太郎、 井上雅寛、志賀康 浩、稲毛一秀、折 田純久、茂手木博 之、山崎正志、大 鳥精司	第 33 回日本脊椎インス トウルメンテーション学 会	2024/09/20 ～09/21
8	びまん性特発性骨増殖 (DISH)を伴う胸腰椎椎体 骨折に対して Vertebral body stenting と Fenestrated screw を併 用した治療経験	飯田大輔、井上嵩 基、茂手木博之	第 33 回日本脊椎インス トウルメンテーション学 会	2024/09/20 ～09/21

9	腰椎固定術後の隣接椎間に生じた Tumoral calcinosis により下肢麻痺を呈した 1 例	小林優、井上嵩基、茂手木博之	第 33 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	2024/09/20 ～09/21
10	大腿骨頸部骨折人工骨頭置換術症例における漢方薬の術後鎮痛効果	鈴木駿介、茂手木博之、早船祐基、長嶋真美、坂本雅昭、山田俊之、輪湖靖、小曾根英、井上嵩基、六角智之	第 73 回東日本整形災害外科学会	2024/09/27 ～09/28
11	Leg Positioner を用いた最小侵襲前方侵入法 (AMIS approach) における大腿骨外旋角の検討～OA と大腿骨頸部骨折の比較～	輪湖靖、坂本雅昭	第 51 回日本股関節学会	2024/10/25 ～10/26
12	腰椎固定術後の隣接椎間に生じた Tumoral calcinosis により下肢麻痺を呈した 1 例	小林優、井上嵩基、茂手木博之、倉林昂輝、浜畑美帆、川島悠、河野真奈実、福島駿、小曾根英、輪湖靖、山田俊之、坂本雅昭、六角智之	第 1490 回千葉医学会整形外科例会	2024/12/13 ～12/14
13	関節内空気造影法を用いた肘関節脱臼を伴う小児上腕骨外側顆骨折の 1 例	山田俊之	第 30 回千葉手・肘の外科学研究会	2025/1/10
14	陳旧性 PIP 関節内骨折に対し Hemihamate arthroplasty を施行した 1 例	山田俊之、六角智之、小曾根英	第 39 回東日本手外科学研究会	2025/2/22

15	Salter-Harris 分類 4 型の Galeazzi 類似骨折の 1 例	川島悠,山田俊之,六角智之,小曾根英	第 39 回東日本手外科研究会	2025/2/22
----	--	--------------------	-----------------	-----------

イ 講演会

No	題名	発表者	主催団体もしくは講演会名	開催場所	年月日
1	AMIS アプローチと透視の活用法について	輪湖靖	第 3 回 HIP 若手ミーティング	市川市	2024/7/27
2	脊椎疾患における漢方薬の使用経験	茂手木博之	千葉市立青葉病院地域連携講演会	千葉市	2024/11/14
3	大腿骨頸部骨折地域連携パスにおける二次性骨折予防の現状と今後	坂本雅昭	地域連携パス会議	千葉市	2025/2/17

ウ 紙上発表

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	成人上腕骨遠位端骨折の保存治療法	山田 俊之	整形外科 Surgical Technique Books11 肘の外傷
2	A Novel Evaluation for Vertebral Artery Course Using 3D Magnetic Resonance Imaging with Computed Tomography -like Bone Contrast and Magnetic Resonance Angiography: A Proof of Concept Study	Takaki Inoue, Satoshi Maki, Hajime Yokota, Takeo Furuya, Takafumi Yoda, Koji Matsumoto, Atsushi Yunde, Masataka Miura, Yuki Shiratani, Yuki Nagashima, Juntaro Maruyama, Masahiro Inoue, Yasuhiro Shiga, Kazuhide Inage, Sumihisa Orita, Yoshitada Masuda, Takashi Uno, Masashi Yamazaki, Seiji Ohtori	World Neurosurg

3	Tumoral Calcinosis of the Thoracolumbar Spine Associated With Adjacent Segment Degeneration After Lumbar Fusion: A Case of Myelopathy	Yu Kobayashi, Takaki Inoue, Hiroyuki Motegi	Cureus
---	---	---	--------

エ セミナー・カンファレンス

No	演題名	演者	勉強会・セミナー名	年月日
1	当院における脆弱性大腿骨近位部骨折～骨折リエゾンサービス (FLS)の現状と将来～	坂本雅昭	二次性骨折予防に関する研修会	2025/3/3

(5) 児童精神科

ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	境界知能を伴う思春期統合失調症の薬物療法	伊豫輝臣、篠田直之、高橋純平、三浦彩人、井崎京子、馬場翔吾、須賀美紀	千葉児童思春期精神医学研究会	2025/1/18

(6) 産婦人科

ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
----	-----	----------	-------------	-----

1	子宮留膿腫を契機に発見された子宮内異物の一例	大塚美保、百武沙綾、王桂文、金谷裕美	第 44 回千葉大学医学部産科婦人科学教室関連病院臨床研究会	2025/7/26
2	既往のない閉経前女性に子宮流血症および尿閉を発症した 1 例	田嶋晋弥、金谷裕美、大塚美保、百武沙綾、王桂文	第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術総会(関東連合産科婦人科学会誌 (2186-0610) 61 巻 3 号 Page314(2024.10))	2024/10/19-20
3	筋腫分娩に対する当院での子宮鏡手術 17 例の検討	百武沙綾、金谷裕美、大塚美保、王桂文	第 64 回日本産婦人科内視鏡学会・学術総会(日本産科婦人科内視鏡学会誌 40:348.2024.)	2024/9/12-14
4	長期頸管内留置により抜去困難となった LNG-IUS の一例	百武沙綾、金谷裕美、大塚美保、田嶋晋也、王桂文	第 39 回日本女性医学会学術総会(日本女性医学会学会雑誌 (2185-8861) 32 巻 1 号 Page181 (2024.10))	2024/11/9-10
5	尿の腔内流入により発生した原発性膣結石の一例	弓削彩乃、百武沙綾、王桂文、金谷裕美	第 1521 回千葉医学会例会産婦人科学分科会 2024 年度千葉大学産婦人科専攻医研修プログラム研修報告会	2024/12/7

#### イ カンファレンス

No	演題名	演者	勉強会・セミナー名	年月日
1	貧血を起こす疾患 診断から治療について	百武沙綾	第 4 回千葉市青葉病院公開カンファレンス	2024/10/24

#### (7) 皮膚科

##### ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	心病変を合併した皮膚サルコイドーシスの 1 例	中島美音、根岸麻有子、田頭良介	第 915 回日本皮膚科学会東京地方会	2025/2/15

2	毛孔性紅色糠疹の2例	田頭良介、根岸麻有子	第4回 Sun Derma Web Seminar	2025/2/20
---	------------	------------	---------------------------	-----------

イ 紙上発表

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名
1	医学の窓 各科の話題 皮膚科 2) 円形脱毛症	根岸麻有子	千葉県医師会雑誌. 2024;76:139
2	医学の窓 各科の話題 皮膚科 3) 多汗症	根岸麻有子	千葉県医師会雑誌. 2024;76:267

(8) 泌尿器科

ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	HOLEP モーレション時の beach-ball s 発生に関する検討	松本 精宏 榎本 晃子 寺中 さやか 菅原 翔	第74回日本泌尿器科学会中部総会	2024/11/21
2	膀胱結腸瘻の3例	番場 大貴 榎本 晃子 寺中 さやか 高橋 正行 松本 精宏	第6回日本泌尿器科学会千葉地方会学術集	2024/11/25
3	HOLEP モーレション時の beach-ball s 発生に関する検討	松本 精宏 榎本 晃子 寺中 さやか 菅原 翔	第51回千葉泌尿器科同門会学術集会	2025/1/18

(9) 耳鼻咽喉科

ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	再発性多発軟骨炎の一例	○濱田知至、堀内菜都子、杉本晃	第104回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会学術講演会	2024/7/21
2	甲状腺・副甲状腺センターでの手術的治療 / 耳鼻咽喉科 の紹介	○杉本晃	第21回 千葉市医療連携カンファレンス	2024/8/28

3	バセドウ病手術における術中迅速PTH測定の有用性	○濱田知至、堀内菜都子、杉本晃	第105回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会 学術講演会	2025/1/19
---	--------------------------	-----------------	--------------------------------	-----------

# 3. 医療技術部報告

## 臨床検査科

---

### 1. 基本理念

質の高い検査データを迅速・精確に提供します。

基本方針

- ・他部門との連携を密に保ち、質の高い検査データの提供に努めます。
- ・研修会や学会などに積極的に参加し、常に最新の医学検査情報の習得および提供に努めます。
- ・内部検査および外部委託検査のデータ精度の確保に努めます。

### 2. 組織および構成

組織構成は以下のとおりである。

臨床検査科は、部長 1 名、技師長 1 名、主査 2 名、主任臨床検査技師 16 名、臨床検査技師 8 名、会計年度任用職員（臨床検査技師、看護師）より構成されている。

部 長：高野 始

技師長：矢萩 直樹

主 査：庄野かおり、福田 憲一

主 任：小山 宏、藤崎 和仁、志水 紗和、八塚 則行、石渡なつき、秋山 育美  
大本 真琴、銘鋸 彩、小林 仁美、梶原 裕貴、西野奈々子、仁平 南  
佐藤 秀瑠、村松 孝行、大友 祐輝、三本 惟那

臨床検査技師：

小暮 直敬、小野里 愛、渡邊 強、益田 一樹、村上 舞依、高橋ほのか  
梅谷 友輔、佐野 葵

### 3. 業務概要

化学・免疫・一般検査部門、血液部門、輸血移植部門、微生物部門、病理部門、生理部門、外来採血部門に分かれている。2交代制勤務で夜間・休日は技師1名が常駐し、緊急検査、微生物検査および輸血業務に対応している。主な業務状況は、以下のとおりである。

#### (1) 生化学・免疫・一般検査

生化学検査件数は 1,271,947 件（前年比+4.4%）、免疫血清学検査件数は 100,273 件（前年比+2.2%）、一般検査件数は 362,914 件（前年比+4.9%）と、いずれも前年度よりやや増加した。日々の精度管理やメンテナンス、定期点検を励行し、機器や試薬の管理体制の強化を継続的に

行っており、正確かつ迅速な検査結果が提供できるよう努めている。また、臨床治験にも積極的に協力し、正確な治験検査・検体管理業務支援を行っている。

## (2) 血液学的検査

血液一般検査件数は 445,650 件（前年比+4.6%）、骨髄像検査は 670 件（前年比-10.4%）実施した。骨髄検査は高い専門性を要し、煩雑かつ労力を要する検査であるが、細胞分画および報告書一部の作成は全て検査技師が行っており診療支援に努めているほか、血液内科医とのマルクカンファレンスは毎週行っており、臨床への貢献と知識の向上に努めている。

## (3) 輸血移植検査

血液型・不規則抗体件数は 10,974 件（前年比-7.6%）、クロスマッチ検査件数は 3,014 件（前年比-4.8%）実施した。適正な輸血療法の提供に努め、安全な輸血業務体制を継続している。10 カラーフローサイトメトリー（FCM）検査は 375 件を実施し、治療方針の検討や診断に大きく貢献している。

## (4) 製剤管理

輸血製剤およびアルブミン製剤の保管管理を行っている。アルブミン製剤についても、輸血製剤と同様に個別の製剤番号を付与し管理を行っている。造血幹細胞移植に関するすべてのソースの採取・調整・検査・保管管理に携わっている。さらに、再生医療等製品テムセル HS 注の発注から調整・払出まで携わり臨床に大きく貢献している。

## (5) 微生物学的検査

一般細菌検査数は 22,839 件（前年比+1.4%）と増加し、抗酸菌検査数も 2,083 件（前年比+19.9%）と増加した。COVID-19 PCR 検査は 24 時間対応し、5,086 件（前年比+28.5%）実施した。ICT（感染制御チーム）では耐性菌等の情報発信や院内ラウンドの活動を行い、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）では血液培養の解析を行い、抗菌薬使用の適正化を支援している。また、検出菌の週報や月報の情報提供を行い院内の感染制御に努めている。

## (6) 病理学的検査

病理検査は 4,057 件、細胞診検査は 4,028 件（前年比+4.7%）実施した。病理・細胞診診断は常勤医師 1 名、細胞検査士 3 名で対応しており、外部精度管理や診断のダブルチェックを行い、精度確保に努めている。結果は生検材料 2 日以内、手術検体 4 日以内と迅速に報告し、術中迅速検査にも対応している。スライドプリンターやカセットプリンターを導入することにより、手書き業務を廃止し検体誤認防止策を強化すると共に、病理診断の質の向上に努めている。

## (7) 生理検査

心電図は 9,242 件（前年比+10.2%）、血圧脈波検査は 381 件（前年比-22.9%）、脳波検査は 140 件（前年比-8.5%）実施した。呼吸機能検査は、1,030 件（前年比+13.9%）と大幅に増加した。超音波検査は全体で 6,618 件（前年比+9.8%）と増加、検査技師担当数は 3,845 件（前年比+24.9%、全体の 58%）と検査技師の施行割合も増加している。件数が増加傾向の精密終夜睡眠が

リグラフ検査にも積極的に対応していきたい。これからも各診療科と協力し、安心・安全な検査ができるように更なる技術の習得に努め、依頼件数の増加に対応していきたい。

#### (8) 外来採血

外来採血件数は 52,507 件（前年比+1.5%）を実施した。外来採血は臨床検査部門で運営しており、採血待ち時間の短縮や効率化に取り組んでいる。個々の知識と技術向上に努め、患者サービスの提供を心がけている。

### 4. 運営方針と目標

#### (1) 人材育成

各種認定資格等の取得も積極的に進めており、現在までに多くの取得者が誕生している。今後も専門性を高め、更に技術の習得・向上を目指し人材育成に力をいれていきたい。各部門間のローテーションも行っていきたい。

#### (2) コスト削減

管理システムの導入により試薬・消耗品の在庫の入出庫管理を行い、業務の効率化と在庫の縮減を図っている。事務局と協力し、今後もコスト意識を持った検査科運営を目標としている。

#### (3) チーム医療への貢献

今年度からタスクシフトの一環として、少人数であるが大腸内視鏡業務に関わることとなった。他にも感染制御チーム (ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム (AST)、栄養サポートチーム (NST)、糖尿病教室などに積極的に関わっておりチーム医療の一員として活動している。

今後も各種チーム医療に参画し、他部門との緊密な連携による効率的な業務運営を行うよう努めていきたいと考える。

#### (4) 業 務

今年度は、業務の効率化と管理体制の強化に取り組み、職員の更なる知識と検査技術の向上に努めた。各部門間で情報を共有し、今後もより一層、迅速かつ精度の高い臨床検査を提供していきたいと考える。一方、今年度は国際医療福祉大学、順天堂大学の学生を実習生として受け入れた。

### 5. 資 格

名 称	人数	名 称	人数
細胞検査士	5 名	二級臨床検査士（臨床化学）	1 名
国際細胞検査士	4 名	二級臨床検査士（血清学）	3 名
認定微生物検査技師	1 名	二級臨床検査士（血液学）	3 名
感染制御認定臨床微生物検査技師	1 名	二級臨床検査士（微生物学）	3 名
認定輸血検査技師	3 名	二級臨床検査士（病理学）	2 名
細胞治療認定管理師	3 名	二級臨床検査士（循環器生理学）	2 名

認定一般検査技師	1名	緊急臨床検査士	7名
認定血液検査技師	1名	ICLS	2名
認定骨髄検査技師	1名	初級遺伝子分析科学認定士	1名
超音波検査士（循環器）	6名	医療安全管理者	1名
超音波検査士（消化器）	5名	医療対話推進者	1名
超音波検査士（表在臓器）	2名	毒物劇物取扱責任者	1名
千葉県糖尿病療養指導士	1名	有機溶剤作業主任者	1名
健康食品管理士	1名	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	1名

## 6. 臨床検査統計

### (1) 実施検査件数

院内実施検査		2022年度	2023年度	2024年度	前年度比%
生化学検査		1,257,525	1,217,859	1,271,947	104.4
免疫血清学検査		100,303	98,151	100,273	102.2
血液学 検査	血液一般検査	493,698	426,142	445,650	104.6
	骨髄検査	847	748	670	89.6
一般検査		373,968	345,991	362,914	104.9
微生物検 査	一般細菌検査	20,452	22,516	22,839	101.4
	抗酸菌培養検査	1,595	1,737	2,083	119.9
	COVID-19 PCR検査	1,336	3,958	5,086	128.5
細胞診検 査	受付数	3,849	3,848	4,028	104.7
	標本枚数	7,127	7,382	7,906	107.1
病理検査	受付数	3,730	4,051	4,057	100.1
	標本枚数	11,980	12,013	12,585	104.8
輸血検査	血液型・不規則抗体・直 接クームス	10,741	11,872	10,974	92.4
	クロスマッチ検査	2,850	3,167	3,014	95.2
	自己血採血件数	32	18	17	94.4
	瀉血件数	19	19	11	57.9
フローサイトメトリー（FCM）		625	391	375	95.9
生理機 能検査	心電図	9,167	8,390	9,242	110.2
	（救急夜間心電図）	(4,860)	(4,593)	(4,817)	
	呼吸機能検査	581	904	1,030	113.9

	血圧脈波検査	472	494	381	77.1
	脳波	143	153	140	91.5
	超音波検査室実施 (検査技師実施)	6,147 (2,986)	6,025 (3,079)	6,618 (3,845)	109.8 (124.9)
	精密終夜睡眠ポリグラフ検査	8	8	14	175
外来採血		53,142	51,714	52,507	101.5
合計		2,362,959	2,227,580	2,324,361	104.3

(救急夜間心電図) は計算除外

(2) 輸血関連業務

業務種		件数
移植関連	末梢血幹細胞採取	35
	末梢血幹細胞 CD34 測定	38
	DLI 採取	2
	DLI 細胞分取	2
	骨髄濃縮	0
	臍帯血 CD34 測定	1
	融解サンプル CD34 測定	0
合計		78

製剤種類	2024 年度計	月平均
RBC-LR	5,835	487.8
FFP-LR	1,514	126.2
PC	22,240	1,853
自己血	29	2.4
合計	29,636	2,469.7

(注) 数については、200ml を 1 単位として換算した単位数  
FFP-LR については、120ml を 1 単位とした単位数

製剤種類	2024 年度計	月平均
5%アルブミン	296	24.7
20%アルブミン	80	6.7
テムセルHS注	8	0.7

(注) 単位は本数

## 放射線科

---

### (1) スタッフ

技師長 : 伊藤 等

主 査 : 大野 豊、林 正尚

主 任 : 細川 輝男、増田 尚広、菊池 龍、三谷 晃弘、齊藤 香里、  
浅川 俊之、島田 直和、幸坂 祐紀、志村 麻希子、黒木 沙織  
大塚 泰通 (再任)、新田 麻二 (再任)

技 師 : 夏井坂 智希、橋本 萌々菜、武田 優斗

宮田 昂史<sup>\*</sup>、広田 雅季<sup>\*</sup>、柴田 香有<sup>\*</sup>

診療放射線技師 (常勤 : 18 名、<sup>\*</sup>会計年度職員 : 3 名)

### (2) 業務体制

#### ア 勤務体制

- ・ 2 交代勤務 (夜間・休日は 1 名) により 24 時間、365 日の放射線科業務対応を行っている。
- ・ 更に夜間・休日の緊急カテーテル (PCI 等) 対応として待機者 1 名を加えている。

#### イ 撮影業務

- ・ 一般撮影 (移動型撮影装置、パントモを含む)
- ・ X 線透視撮影 (移動型透視装置、結石破碎装置を含む)
- ・ 骨密度測定
- ・ X 線 C T 撮影 (救急棟を含む 2 台体制)
- ・ MRI 撮影 (3T 及び 0.4T の開放型 MRI の 2 台体制)
- ・ 血管造影 (心血管・頭腹部血管の 2 台体制)
- ・ 核医学検査 (SPECT-CT)
- ・ ポータブル撮影 (ICU・HCU は医師がカンファレンスを行う 8 時前に実施)
- ・ 読影レポート既読管理

#### ウ 放射線機器及び放射線安全管理

- ・ 検査装置の日常点検業務 (始業・終業及び定期点検)
- ・ 放射線従事者の被ばく管理
- ・ 患者被ばく線量の管理及び記録 (CT、血管撮影、核医学)

#### エ 放射線情報システム (RIS) 管理

- ・新規検査オーダ等によるマスター更新

オ 各種マニュアルの改定

- ・各モダリティの検査マニュアルの随時更新
- ・各機器操作マニュアルの随時更新

カ 業務集計

- ・検査種別の統計（毎月）
- ・CT、MRI、RI 検査読影集計（毎月）

キ 放射線科安全管理委員会、医療放射線管理委員会の開催

ク 院内研修・講習会

- ・診療放射線の安全利用研修開催（年1回）
- ・職業被ばくに関する研修（年1回）
- ・科内勉強会（5回）
- ・造影剤アナフィラキシーショック対応の勉強会（1回）
- ・放射線科第1回症例報告会（1回）

(3) 業務実績 (件)

検査種	2024年度（前年比）	昨年度（2023年度）
一般撮影	46,964(+2.2%)	45,968
CT	18,011(+9.9%)	16,387
3T MRI	3,069(+6.6%)	2,880
Open MRI	793(-25.0%)	1,056
X線TV	1,206(+3.8%)	1,162
結石破砕	48(-35.1%)	74
血管撮影（心血管）	482(+5.9%)	455
血管撮影（頭腹部）	46(-27%)	63
核医学検査	647(+5.9%)	611
合計	71,266(+3.8%)	68,656

(4) 業務実績資格・認定

X線CT認定技師	1名
核医学専門技師	1名
血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	2名

検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	1名
医療情報技師	2名
第一種放射線取扱主任者	3名
放射線管理士	1名

(5) 学会発表等

No	演題名	発表者	学会・研究会名	年月日
1	肝臓EOB	島田直和	第25回 C-MAC Youth	2024/11/25

(6) 総括

今年度は検査件数が全体として増加傾向となった。Open MRI に関しては、装置更新工事により2月より検査が停止していた影響があると考ええる。

診療放射線の安全利用研修は、昨年度同様独自に作成した内容を電子カルテ上のe-ラーニングシステムを使用して行う形式に変更して開催した。

また、今年度より職員の被ばくに関する意識向上のため、職業被ばくに関する研修も開始した。

科内だけでなく、院内多職種向けに造影剤アナフィラキシーショック対応の勉強会も開催した。

科内では、学術研修班が中心となり放射線科第1回症例報告会を開催した。この報告会は今後も継続して行う予定である。

育休職員2名、常勤職員1名欠員の状況であったが、会計年度任用職員の増員により業務を遂行することができた。

診療放射線技師の新たな業務範囲の見直しに伴う告示研修(令和3年度厚生労働省第273号研修)が厚生労働省医政局長より2021年7月に発出され、医師のタスク・シフト/シェア推進にむけて告示研修の受講を進め、95%の職員が研修を修了した。また、新たな業務として造影CT・MRI時の静脈路確保の研修を行い、5名が静脈路確保を行うようになった。

次年度も良質で安全な医療が提供できるよう努めていきたいと考える。

## 栄養科

---

### 1. 基本方針

一人ひとりの治療の一助となるような

安全で安心して、かつおいしく食べていただける真心のこもった食事の提供を目指します。

わかりやすく、受け入れられる食事相談を目指します。

食事サポートを各セクションと連携して行います。

### 2. 体制

栄養科職員：管理栄養士 7名（会計年度任用職員含む）

給食業務委託先：シダックスフードサービス株式会社

### 3. 業務概要

#### （1）給食管理

- ・献立作成、食材発注、調理、盛付け、配下膳、洗浄業務等を全面委託
- ・栄養基準設定、献立確認、検食、食数管理、食事アンケート等

#### （2）栄養管理

栄養相談・集団指導

- ・個人栄養相談（平日 9時～16時）
- ・糖尿病教室（月2回 13時～15時）

チーム医療参画

- ・栄養サポートチーム 毎週木曜
- ・嚥下サポートチーム 毎週火曜
- ・緩和ケアサポートチーム 毎週木曜
- ・褥瘡対策チーム 隔週木曜
- ・糖尿病腎症透析予防チーム 随時

#### （3）その他

糖尿病患者会（青葉友の会）の支援

- ・事務局としての活動支援
- ・ウォークラリー参加
- ・おしゃべり会（患者交流会）の企画など

#### 4. 業務実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
食事満足度 全体評価				
良い	－	50 %	39%	56.5%
普通	－	3%	52%	37.5%
不満	－	5%	7.5%	6.0%
給食提供数全体（単位：食）	230,016	214,009	212,790	237,674
特別治療食（単位：食）	110,919	76,678	62,201	64,567
特別食加算比率	31.2%	28.5%	29.2%	27.3%
入院栄養指導	635 件	675 件	547 件	452 件
外来栄養指導	1,263 件	1,090 件	971 件	763 件
合 計	1,898 件	1,765 件	1,518 件	1,215 件
糖尿病教室	10 名/4 回	17 名/10 回	54 名/17 回	5 名/1 回
NST 介入件数	129 件	99 件	104 件	158 件
早期栄養介入管理加算	－	328 件	856 件	982 件
早期栄養介入管理加算 （経腸）	94 件	110 件	546 件	754 件

#### 5. 総括

給食管理業務については、以前からの食材価格高騰が治まらず食材料費が不足する状態が続き、昨年同様に費用削減余地の模索が続いた。精査は価格差の大きい食材である肉や魚の種類や産地はもちろんのこと、料理に沿えるカットレモンのサイズにまでおよんだが明確な成果はみられなかった。一方で栄養補助食品取り扱い品目は昨年からの見直しを経て、高価な製品を漫然と使用することなく適材適所の選択ができるようラインナップを刷新した。これにより食材料費の不足が解消されるほどのものではないが、これから成果が表れると考えている。

栄養管理業務については慢性的に管理栄養士が不足している状況が続いている中での病床稼働率上昇があり対応に苦慮する場面もみられたが、一部運用を簡略化するなど効率化を図ることにより概ね堅調な業績を得た。また、新たに周術期を見据えた栄養管理への介入準備を整えることができた。

給食管理は来年度で影響の大きな調整はひと段落する見通しにある。栄養管理は今年度およびその体制は構築できたため、あとは着実に運用していくことが中心になる。ともに課題がなくなる訳ではないが引き続き取り組み、患者 QOL の維持向上に貢献したいと考えている。

## 臨床工学科

### 基本方針

- (1) 高度・救急医療病院における診療体制を実現するために、生命維持管理装置をはじめとした医療機器の安全使用に貢献する
- (2) 高い専門性を発揮できるように、知識や技術の向上に務める
- (3) 多職種との連携を図り、効率的なチーム医療を展開する
- (4) 患者の権利やプライバシーを尊重し、安心・安全な医療を提供する

### 2、スタッフ(資格・試験)

スタッフ	資格・試験
主任臨床工学技士 高村 真吾	臨床 ME 専門認定士 (第 1 種 ME 技術実力検定試験合格) 透析技術認定士 血液浄化専門臨床工学技士 急性血液浄化認定指導者 心血管インターベンション技師認定
	三学会合同呼吸療法認定士 呼吸治療専門臨床工学技士 集中治療認定臨床工学技士 集中治療専門臨床工学技士 植込み型心臓不整脈デバイス 認定士 日本救急医学会認定 ICLS コース 修了
主任臨床工学技士 佐々木 優衣	医療機器情報コミュニケーター (MDIC) 日本救急医学会認定 ICLS コース修了 第 2 種 ME 技術実力検定試験合格
主任臨床工学技士 松原 昌志	日本救急医学会認定 ICLS コース修了 第 2 種 ME 技術実力検定試験合格
主任臨床工学技士 上原 史也	三学会合同呼吸療法認定士 心血管インターベンション技師認定 日本救急医学会認定 ICLS コース修了 第 2 種 ME 技術実力検定試験合格
主任臨床工学技士 馬場 裕之介	透析技術認定士 三学会合同呼吸療法認定士 日本救急医学会認定 ICLS コース修了 第 2 種 ME 技術実力検定試験合格
臨床工学技士 佐藤 希帆	日本救急医学会認定 ICLS コース修了 第 2 種 ME 技術実力検定試験合格
臨床工学技士	第 2 種 ME 技術実力検定試験合格

### 3、業務形態

・ICU 業務、救急外来業務、血液浄化関連業務、循環器関連業務、呼吸器関連業務、手術室関連業務、機器管理業務に大別される。

・夜間休日は待機者によるオンコール体制を実施し緊急心臓カテーテル検査や機器トラブルに対応している。

主な業務内容は以下である。

#### (1) ICU 業務

補助循環装置や人工呼吸器、急性血液浄化など生命維持管理装置の操作、管理を行う。

V-A ECMO など特に高度管理が必要な場合は当直体制で管理し、定時的なデータフォローを行い医師、看護師と連携し患者管理を行う。

#### (2) 救急外来業務

補助循環装置・人工呼吸器など生命維持管理装置の開始操作・管理を行う。

医師、看護師と連携し患者受け入れ・検査・処置をサポートする。

#### (3) 血液浄化関連業務

持続的血液濾過透析や血液透析、血漿交換、腹水濾過濃縮再静注療法など急性期から維持透析、アフエレーシス療法まで多岐にわたる血液浄化業務を行う。

#### (4) 循環器関連業務

心臓血管カテーテル検査・治療でポリグラフや血管内超音波検査の操作を行う。

補助循環装置や体外式ペースメーカーの操作、管理を行う。

ペースメーカー植込み手術立ち会い、植込み時点検、設定、MRI 撮像時点検、ペースメーカー外来での定期点検、遠隔モニタリングの確認を行う。

#### (5) 呼吸器関連業務

人工呼吸器使用中の患者同調性や設定確認、安全点検、トラブルシュートを行う。

人工呼吸器使用後は使用後点検を実施し次回使用に支障が無いよう呼吸器を整備する。

院内の呼吸ケアサポートチームと連携し患者への適正使用、患者トラブルを未然に防ぐ。

#### (6) 手術室関連業務

主に整形外科を中心に術中自己血回収術やナビゲーションシステムを用いた手術支援を行う。

手術室内で使用する医療機器のトラブル対応、機器の保守を実施。

また、2023 年度よりタスクシフトの一環として外科症例におけるスコープ操作業務および各種症例における麻酔補助業務に携わっている。

#### (7) 機器管理業務

院内の医療機器を中央管理し日常点検および定期点検を実施し、院内医療機器の円滑な使用のための管理を行う。

医療法に定められた医療機器の保守点検に関する年間計画を策定し、適切な保守点検を実施す

る。また、医療従事者に対する医療機器安全使用のための研修を実施している。

#### 4、実績

##### ICU 業務

##### 補助循環機器使用症例件数

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年度	2024 年度
IABP	6 件	10 件	4 件	1 件	4 件
ECMO	2 件	3 件	2 件	2 件	1 件

##### 血液浄化関連業務

##### ① 血液浄化(年間治療件数)

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年度	2024 年度
CHDF	115 件	124 件	61 件	108 件	105 件
HD	89 件	55 件	58 件	98 件	11 件

##### ② アフェレーシス(年間治療件数)

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年度	2024 年度
CART	6 件	4 件	4 件	1 件	8 件
DFPP	3 件	11 件	4 件	3 件	4 件

##### 循環器関連業務

##### ① 心臓カテーテル検査業務件数

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年度	2024 年度
CAG/PCI 総件数	349 件	438 件	469 件	431 件	479 件
うち緊急対応件数	87 件	120 件	167 件	134 件	122 件

※緊急対応件数・・・予定外検査・治療の総数

##### ① ペースメーカー関連業務

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年度	2024 年度
ペースメーカー手術件数	31 件	27 件	35 件	45 件	54 件
遠隔モニタリング患者数	46 名	62 名	69 名	88 名	117 名
年間遠隔点検件数	552 件	744 件	755 件	828 件	1,191 件

※手術件数・・・ペースメーカー植込み術+電池交換術

##### 呼吸器関連業務

##### 呼吸器装着日数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
装着日数	1,397日	1,842日	1,780日	1,573日	2,261日

※装着日数・・・人工呼吸器関連機器（NPPV・NHF含む）の装着日

#### 手術室関連業務

	2020年	2021年	2022年	2023年度	2024年度
術中自己血回収術	29件	35件	30件	37件	9件
Navigation支援	11件	8件	7件	20件	22件
スコピスト				134件※	211件
麻酔アシスタント				28件※	440件

※スコピストおよび麻酔アシスタントは2023年度より開始

#### 機器管理業務

##### 臨床工学科院内定期点検実施機器

医療機器	2020年	2021年	2022年	2023年度	2024年度
ポンプ関係	312台	334台	281台	348台	351台
人工呼吸器	12台	21台	29台	27台	23台
血液浄化	3台	3台	3台	2台	2台
モニター関連	30台	35台	52台	50台	50台
除細動器	10台	10台	12台	16台	16台
手術関連	51台	55台	47台	35台	57台
総点検台数	418台	458台	424台	527台	566台

## 5、教育

### (1) 勉強会、説明会

各種治療・医療機器に関する科内勉強会
内容：ペースメーカー MicraVR2,AV2 実施日：2024年4月11日
内容：遠隔モニタリング My Care Link Heart 実施日：2024年11月27日
内容：Navigation System S8 実施日：2025年1月16日
内容：ペースメーカー ACCOLADE 実施日：2025年3月19日

臨床工学科主催勉強会
内容：除細動器※ 実施日：2024年6月7日 対象：全職員
内容：医療機器 実施日：2024年7月11日 対象：研修医
内容：透析 実施日：2024年7月18日 対象：研修医
内容：低圧持続吸引機※ 実施日：2024年12月12日 対象：全職員

内容：HFNC	実施日：2024年12月20日	対象：わかば2階病棟 看護師
---------	-----------------	----------------

※医療機器安全使用に関する研修

(2) 院内活動

RST（呼吸サポートチーム）	透析機器安全管理委員会
医療安全委員会	災害医療対策委員会
医療機器安全管理委員会	広報委員会
感染対策委員会	診療委員会
教育研修委員会	医療ガス安全委員会
業務負担低減検討委員会	医療機器に関する医療安全情報の提供※

※院内誌「CE通信」掲載など

(3) 学会や研究会における参加・発表状況

学会発表	
第45回日本集中治療医学会 第56回全国自治体病院学会	第32回千葉集中治療研究会 第37回内視鏡外科学会

学会参加	
日本臨床工学技士会	日本透析医学会
日本呼吸療法医学会	日本循環器医学会
日本心血管インターベンション治療学会	日本医療機器学会
日本集中治療医学会 参加	

その他	
全国自治体協議会雑誌 2021年12月クリニカルエンジニアコーナー 執筆	
臨床工学技士の業務拡大に伴う厚生労働大臣指定による研修	

(4) メンテナンス講習会 参加機器

人工呼吸器 BENNETT980	人工呼吸器 MONNAL T60
人工呼吸器 BENNETT840	電気メス FT10
電気メス Force Triad	フットポンプ SCD-700
低圧持続吸引器メラサキューム	個人用多用途透析装置 DBG-03
個人用多用途透析装置 DBB-100NX	シリンジポンプ TE-351Q
輸液ポンプ FP-17α	シリンジポンプ TE-381

## 6、総括

心血管カテーテル業務では前年度と比較し緊急対応数が減少したが、全体件数は増加した。

ペースメーカー業務では既存業務件数の増加が顕著であり、特に遠隔モニタリングの増加に伴う医師および患者の外来件数削減に貢献できている。

また、ペースメーカー植え込み患者向けにペースメーカー手帳や遠隔の説明資料を作成し、その資料を基に説明を行うことで患者への説明を標準化できるように整えた。

呼吸器関連業務に於いては前年と比べ総装着日数が増加しており、特に病棟における HFNC の需要が増した時期が見られた。

機器管理業務に於いては、2023 年度に納入した機器の定期点検が始まったため総点検台数は増加している。また、新たに購入した機器の定期点検を当科で行うことで、保守費用の削減を達成している。

その他、2023 年度から医師の働き方改革に伴いタスクシフト/シェアされた腹腔鏡下手術に於けるスコープオペレータ業務と麻酔アシスタント業務件数は増加しており、スコープオペレータ業務に関しては使用スコープの故障が大幅に減少するという副次効果が得られた。今後も医師の業務負担軽減に協力し業務を拡大していく。

## 医療技術部門業績

### (1) 臨床工学科

#### ア 学会発表

No	演題名	演者及び共同演者	学会・研究会・研修会名	年月日
1	現行制度で業務移管できるのか～当院 スコープオペレーター業務の進捗とそ の課題～	◎高村真吾/信本大吾/文陽起/ 山下和志/清水康仁	第37回内視鏡学会	2024/12/5-7

### (2) 臨床検査科

#### ア 紙上発表

No	題名	発表者	勉強会・セミナー名	年月日
1	千葉県における SARS-Cov-2 拡散増幅検 査外部精度管理の試み	静野 健一、加地 大樹、川 名 孝幸、瀬川 俊介、梶原 裕貴、渡辺 直樹、竹林 孝 太郎、綿引 一成	医学検査 第74巻 第1 号	2024

# 4. 看護部報告

# 看護部

## (1) 1. 概要

### 1) 理念と目標

#### 【理念】

患者さんがその人らしく生きることを支援します。

#### 【基本方針】

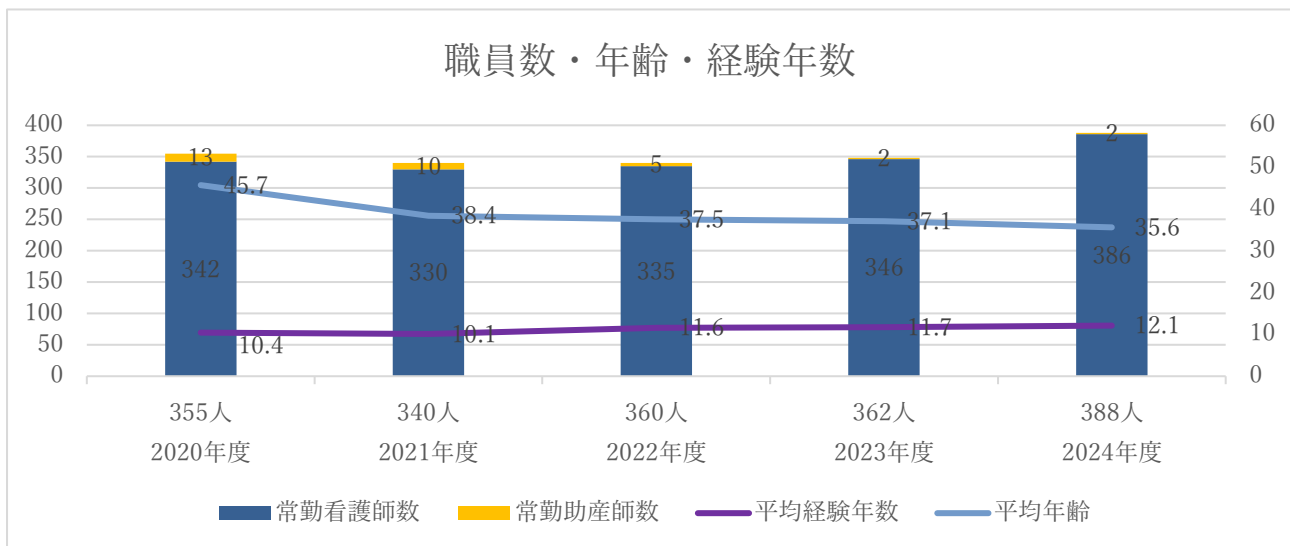
1. 患者さんの尊厳を尊重し、個別性のある看護を提供します。
2. 安全で安楽な看護を目指します。
3. 多職種と協働し、チーム医療の向上に努めます。
4. 社会のニーズに応え、地域との連携を深めて、継続的な看護を提供します。
5. 実践や自己研鑽を通して専門的な知識・技術を向上し、感性や価値観を磨き、自律した看護師を目指します。

#### 【令和6年度目標】

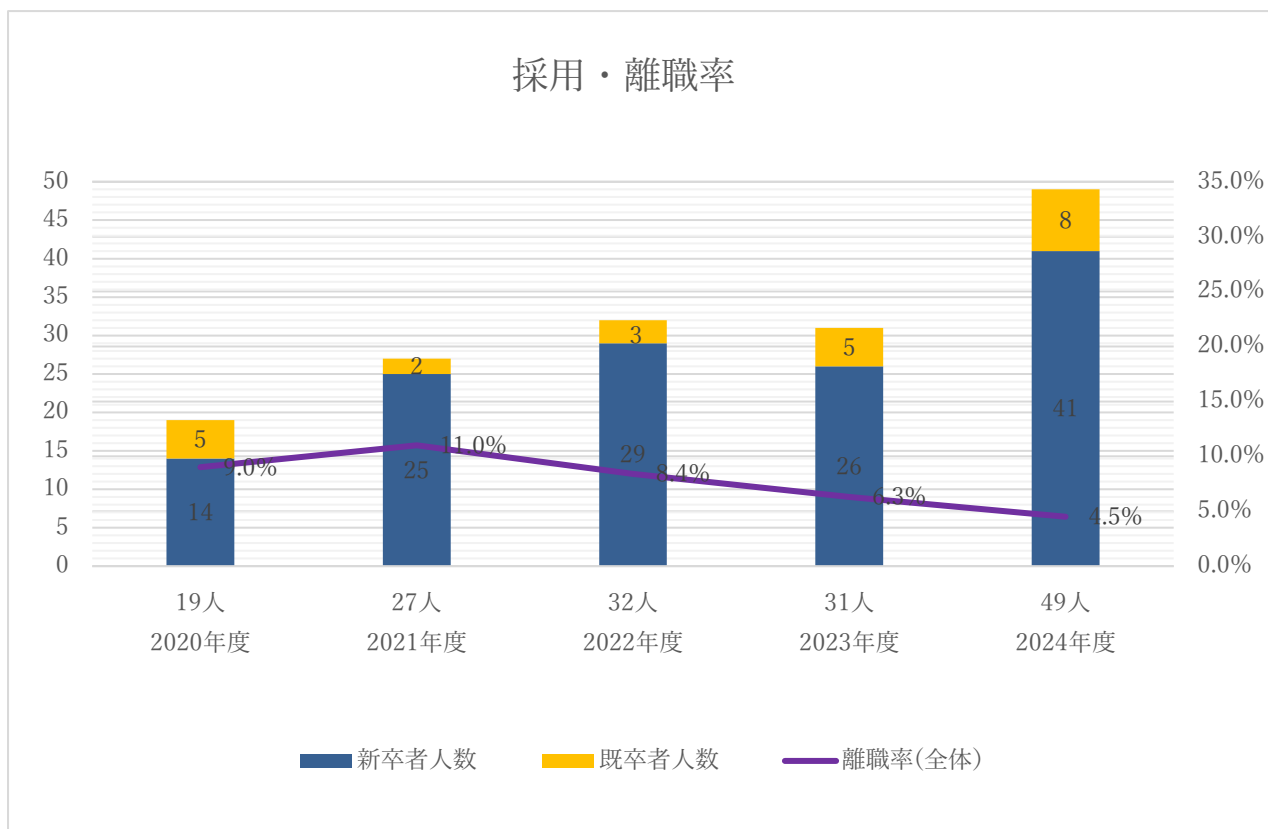
1. 患者を中心とした質の高い看護の提供
2. 専門職業人として、知識・技術・態度を身につける
3. 業務改善推進と、働きやすい職場環境づくり
4. 病院運営への積極的な参画

### 2) 職員動向 (2024年4月時点)

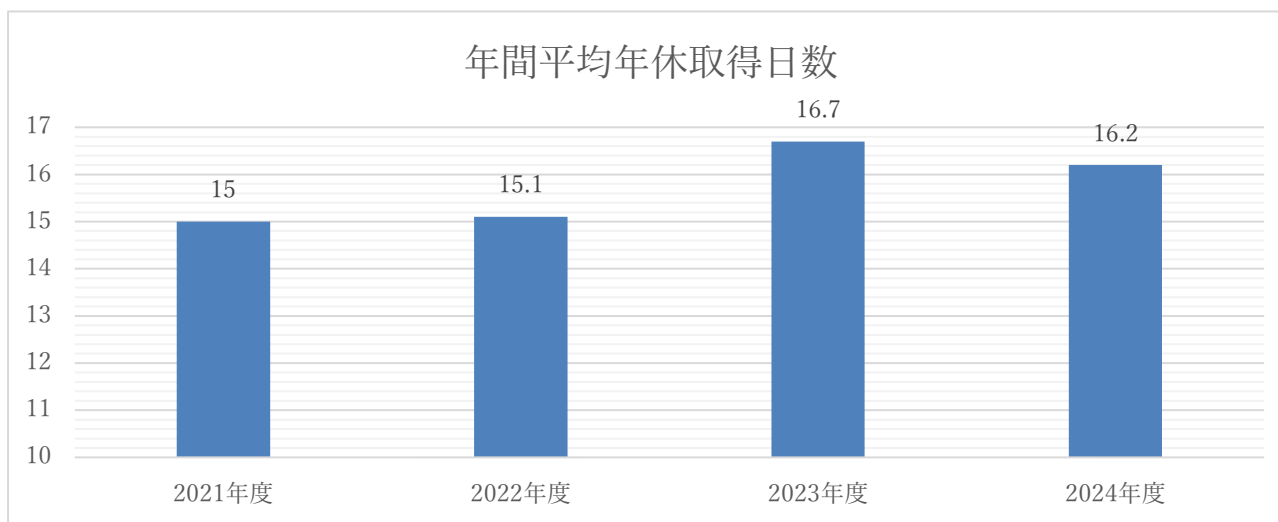
#### ①職員数(看護師・助産師)・年齢・経験年数



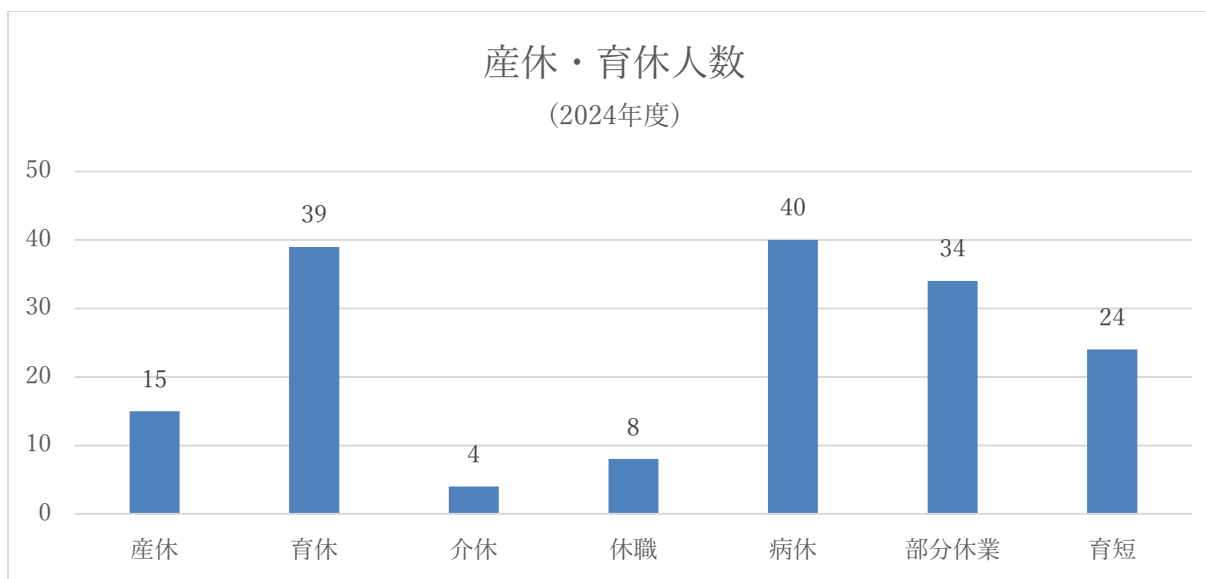
②採用状況・離職率



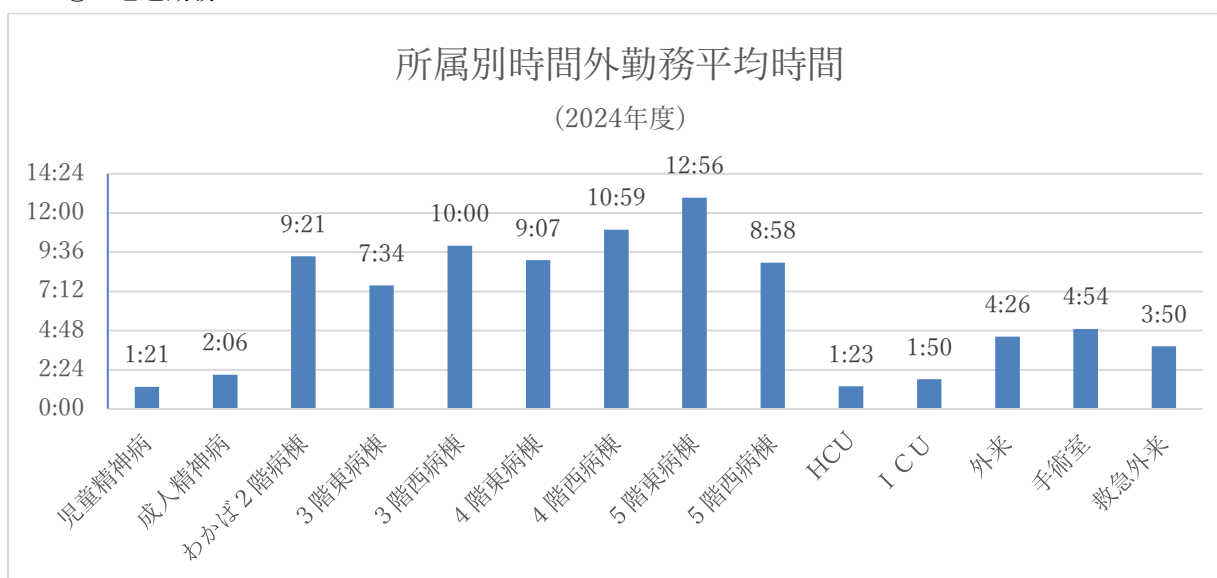
③一人あたり年休取得状況



④産休・育休取得人数



⑥ 超過勤務

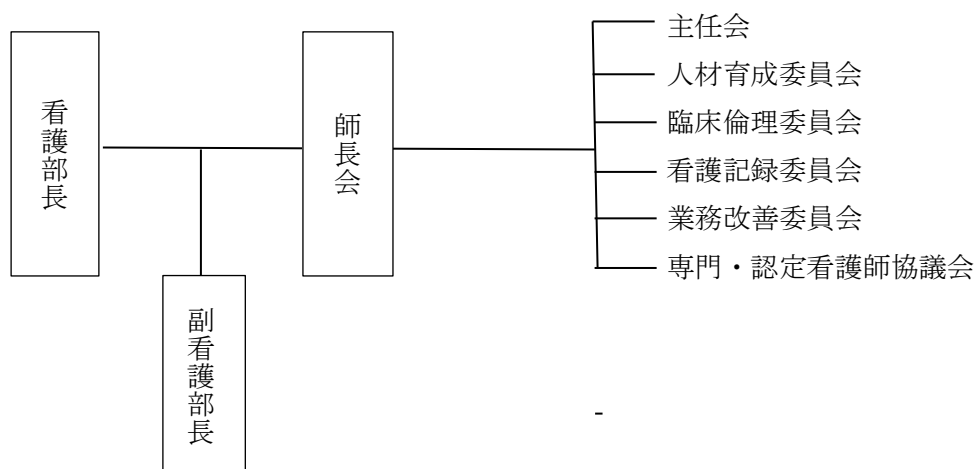


3) 看護体制

看護単位	病床数	看護配置体制
一般病棟	301 床	7 : 1
児童精神病棟	28 床	10 : 1
成人精神病棟	28 床	13 : 1
ICU	4 床	2 : 1
HCU	8 床	4 : 1
手術室	6 室	

看護方式：固定チーム継続受け持ち制

#### 4) 委員会組織



## 2. 継続教育

### 1) 院内研修実施状況

ラダ ー	研修名	日程	人数 (名)
I	看護記録基礎	5月31日	40
	医療安全	6月7日	40
	リフレクションI-①～④	7月より2ヶ月毎開催	40
	排泄及び褥瘡ケア	9月9日	39
	フィジカルアセスメントI ②	10月8日	40
	メンタルヘルスI	11月8日	40
	フィジカルアセスメントI ③	12月6日	40
	退院支援基礎	2月3日	40
II	コミュニケーションスキル 【市立病院合同 外部講師】	5月20日	14
	DESIGN-R2020	5月22日	22
	キャリアデザインI 【市立病院合同 外部講師】	6月10日	14
	倫理I	6月14日	17
	文献検討①～③	6月より毎月開催	7
	退院支援I	7月19日	21
	事例検討。発表会	8月9日・12月11日	19
	看護研究I ①～⑥	9月より毎月開催	9

	認知症看護Ⅰ	9月6日	22
	フィジカルアセスメントⅡ	10月11日	19
	コミュニケーションスキル【市立病院合同 外部講師】	11月11日	14
	人材育成（プリセプター編）	1月27日	21
	メンタルヘルスⅡ	1月31日	11
	リーダーシップ	2月14日	20
Ⅲ	看護研究Ⅱ⑦～⑱	5月より毎月開催	13
	コミュニケーションⅡ①②	5月21日・11月12日	10
	新人教育 OJTにつなげよう	5月29日	10
	倫理Ⅱ	7月26日	4
	看護管理Ⅰ（質・業務改善）①～③	7月31日・8月30日・2月7日	10
	認知症看護Ⅱ	9月13日	14
	リーダースキルアップ①②【市立病院合同 外部講師】	9月26日・2月13日	7
	退院支援Ⅱ	11月1日	9
	フィジカルアセスメントⅢ	12月16日	11
	キャリアデザインⅡ【市立病院合同 外部講師】	3月7日	10
Ⅳ	問題解決・発表会	7月5日・1月24日	4
	倫理実践編①～③	9月24日・10月25日・11月29日	3
	看護管理Ⅱ①～④【市立病院合同 外部講師】	10月より毎月開催	8
V	リフレクション		7

## 2) 院外研修受講状況

研修名	主催者	人数 (名)
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	千葉県看護協会	2
認定看護管理者教育課程フォローアップ研修	国際医療福祉大学	1
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	千葉県看護協会	4
実習指導者講習会	東京医療保健大学	2

実習指導者講習会フォローアップ研修	東京医療保健大学	2
看護補助体制指導者養成研修	全国自治体病院協議会	4
第24回関東スツーマリハビリテーション講習会	関東スツーマリ リハビリテーション講習会	1
がんのリハビリテーション研修 (E-CAREER)	一般財団法人ライフ・ プランニング・センター	1
術後疼痛管理研修	日本麻酔科学会	2
栄養サポートチーム専門療法士	海浜病院栄養科	1
「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	ヴェクソンインターナ ショナル	2
認知症対応力向上研修	千葉県千葉市委託事業	3
看護部門診療報酬オンラインセミナー オンデマンド	全国自治体病院協議会	全体 受講
臨地実習オンラインセミナー オンデマンド	全国自治体病院協議会	
R6年度改訂対応 診療報酬・介護報酬のしくみと考え方	日本看護協会出版会	
看護管理者が知っておきたい「適時調査」傾向と対策	メディカ出版	
千葉県看護協会研修個別受講 (37科目)	千葉県看護協会	

### 3) 学会発表

タイトル	学会名	場所
人工呼吸器管理に対する一般病棟看護師の 知識面と看護ケア場面における不安	第62回 全国自治体病院学会	朱鷺メッセ新潟 コンベンションセンター
周術期管理に関する業務改善 －麻酔種別の一覧表を作成して－	第62回 全国自治体病院学会	朱鷺メッセ新潟 コンベンションセンター
外来化学療法室看護師の 治療日誌に対する認識と活用方法	第42回 千葉県看護研究学会	TKP ガーデンシティ幕張

### 3. 臨地実習受け入れ実績

学校名	人数(名)	延べ(名)
千葉青葉看護専門学校	369	1794
千葉県立幕張総合高等学校 (看護科・専攻科)	48	216
淑徳大学(看護栄養学部)	12	68

淑徳大学（福祉学部）	29	54
城西国際大学	140	140
東京情報大学	50	355
計	648	2627

#### 4. 専門・認定看護師

##### 1) 在籍数

精神看護専門看護師	2名	糖尿病看護認定看護師	1名
救急看護認定看護師	2名	がん化学療法認定看護師	1名
感染管理認定看護師	3名	皮膚・排泄ケア認定看護師	1名
認知症看護認定看護師	2名	摂食嚥下認定看護師	1名
集中ケア認定看護師	2名	慢性心不全認定看護師	1名
緩和ケア認定看護師	1名		

##### 2) 活動状況

分野	精神看護専門看護師
実践報告	【院内活動】研修講師、リエゾン精神看護相談、看護研究支援
分野	救急看護認定看護師
実践報告	【院内活動】研修講師、MET 事例分析 【院外活動】千葉市青葉看護専門学校講師、千葉市消防学校講師
分野	慢性心不全看護認定看護師
実践報告	【院内活動】心不全の療養指導、5 東病棟「患者指導」勉強会、淑徳大学学生へ「認定看護師の役割」講義、心不全患者相談
分野	集中ケア認定看護師
実践報告	【院内活動】研修講師、MET 事例分析、状態悪化事例分析、呼吸療法に関する相談 【院外活動】急性期の呼吸器ケア執筆、淑徳大学看護栄養学部講師
分野	皮膚・排泄ケア認定看護師
実践報告	【院内活動】研修講師、褥創関連集計・分析、褥創回診、褥創ハイリスクカンファレンス WOC 分野の外来・入院患者介入、院内研修運営 【院外活動】青葉看護専門学校講師、ちばスキンケアフォーラム運営、CCSC 研修講師 東関東ストーマ排泄リハビリテーション講習会実技講習
分野	摂食嚥下障害看護認定看護師
実践報告	【院内活動】研修講師、摂食嚥下障害患者支援（相談および機能評価）、摂食嚥下サポートチーム活動、NST 活動、学習会運営
分野	認知症看護認定看護師
実践報告	【院内活動】研修講師、高齢者サポートチームにおける相談対応・カンファレンス・ラウンド、看護学生向けセミナー講師、病棟勉強会講師 【院外活動】海浜病院ラダー I 研修講師

分野	感染管理認定看護師
実践報告	<p>【院内活動】新入職者・異動者研修、新人看護師研修、ICT 運営、清掃ラウンド、看護部感染対策リンクナース会運営、手指衛生サーベイランス、医療機器関連サーベイランス (BSI、UTI、SSI)</p> <p>【院外活動】感染防止対策加算 1-1 連携 相互評価、感染防止対策加算 1-2・3 連携 地域連携カンファレンス (4 回/年)、千葉市消防学校講師</p>
分野	精神看護認定看護師
実践報告	<p>【院内活動】研修講師、精神科リエゾンチーム活動、精神疾患患者に関する相談・対応</p> <p>【院外活動】日本精神科看護協会千葉県支部：ファシリテーター</p>
分野	がん化学療法認定看護師
実践報告	<p>【院内活動】外来化学療法の実施、がん看護関連(がん看護外来・長期フォローアップ外来)の看護外来、看護師向けの研修、</p> <p>【院外活動】第 75 回 千葉県造血細胞移植研究会にて発表</p>

## 5. 委員会活動

主任会	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者支援シートの活用方法について見直し、患者に必要な継続看護が実践できる。</li> <li>2. 主任月報を作成し掲示することで他部署の取り組みを知る機会となり、看護実践にいかすことができる。HP を活用し、看護部内の情報を継続的に発信することで、広報活動につなげることができる。</li> <li>3. 看護管理に関するリフレクションを行うことで、マネジメントスキルを向上することができる。</li> </ol>
成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者支援シートの項目を見直し新運用を開始</li> <li>2. 主任月報 12 例発行、HP 部署紹介年 1 回更新、看護部トピックス記事 12 例更新</li> <li>3. 看護管理に関するリフレクション 10 例実施</li> </ol>
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者支援シート新運用を周知し、多職種記載について検討する。</li> <li>2. 看護部広報活動についてはグループを持たずに輪番制で継続していく。</li> <li>3. リフレクションに参加できていない主任もいるため、全員が参加できるよう時期を決めて取り組む。</li> </ol>
人材育成委員会	
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習ガイドラインを理解し、次年度に対応できるよう体制を整備する。</li> <li>2. 人を育てる人を育て、限られた人材を活用できたための課題解決ができる。</li> </ol>
成果	<p>1-①生涯学習に関してバリテス動画を作成し、看護部全体に概要を 3 回配信することで普及を推進する準備活動を行った。1-②学習マトリクスに基づき、R7 年度研修プログラムを作成した。また、誰もが分かるようにシラバスを就業管理システムからツールに変更し、内容の周知と効率化を図った。2-①毎月、研修の企画運営と評価の実施。委員会毎に自部署の課題の抽出、問題解決にむけ検討を行った。</p>
次年度の課題	生涯学習支援に基づいた院内研修を円滑に行い、課題を抽出する。

倫理委員会	
目標	委員一人ひとりの倫理的感受性を高め部署での倫理カンファレンスを主導できる。
成果	部署内での倫理的感性を高めるため①倫理研修参加者の課題を研修生と支援者で進めた後、部署全体でフィードバックすることにした。②倫理委員がファシリテーターとして①で介入した倫理的な事例を部署内でカンファレンスし、倫理カンファレンス開催数は42件/全部署、各部署の指標である1回/年以上開催することができた。また、1事例であった倫理研修用の事例も新たに2事例作成し、倫理委員自身の倫理の学習としてまとめた。
次年度の課題	研修参加者の事例について、自部署で倫理カンファレンスを行えるよう委員を中心に支援する。委員の中でも勉強会等を行い、委員自身の倫理に関する自己研鑽をしていく。
臨地実習指導者会	
目標	学生が自習目標を達成できるように、部署の人的・物的環境を整える。・臨地実習指導者として、委員及び各部署の指導者の指導能力向上を図る
成果	学校により実習の進め方が異なっているが、柔軟に対応し目的達成に貢献した。・臨地実習指導者会を毎月開催へ変更し、病院オリエンテーションの実施や、指導上の工夫や対応について共有し、各部署の実習の現状を知る機会とした。また、共有だけでなく解決策を検討し、それぞれの部署に持ち帰ることで院内全体の指導力向上につなげた。
次年度の課題	翌月の実習について事前に共有し、目的や注意点の確認を定例化する。・臨地実習指導者育成の仕組みや継続的な支援についての検討する。
看護記録委員会	
目標	看護記録を効率的かつ適切に治療する
成果	前年度作成した褥瘡関連のテンプレート（IAD・スキンケア・MDRPU・褥瘡）をリリースし、使用方法について周知した。・手術室入室時の確認事項と持参物について再周知したことで、手術室入室時の準備不足が減り、スムーズに入室できるようになった。・看護インフォームドコンセントガイドラインに則ったテンプレートを作成した。電子カルテ上での使用が来年度からできる予定である。看護記録基準を見直し・修正し、3月に修正後の基準をリリースした。記録監査を2回行い、監査結果を部署へ報告し改善を促した。
次年度の課題	各病棟で作成・運用している手術入室のチェックリストを外来部門含め、全部署で使用できるように検討・作成する。看護インフォームドコンセントガイドラインの見直し・記録に関する院内研修の実施
業務改善委員会	
目標	1. 看護基準・手順に関連したマニュアルの整備を行い統一した安全な看護技術の提供ができる環境作り。2. 看護補助者の業務基準を見直しができる。
成果	院内で使用している基準手順について現状確認し学研ナーシングメソッドへ統一した。足りない手順は院内作成として保存できるように公認の格納場所を作成し全体周知をおこなった。今年度はドレーン固定について作成した。看護補助者業務基準の見直し修正を行った。最新版の静脈注射指針に沿って新人研修「静脈注射」を計画し開催した。
次年度の課題	看護基準・手順に関連したマニュアルの整備や院内で使用されている既存のチェックリストの問題点を集め、統一した安全な看護技術の提供ができる環境作りの検討を継続する。
看護チーム協働推進委員会	

目標	<p>1. 看護師がナースエイドの役割と責任を正しく理解することで、看護補助者活用推進、協働する上で必要な体制を整備することができる</p> <p>2. 看護補助者に関する看護師側の理解を深め、適切な指導・指示ができるよう周知する</p> <p>3. 看護補助者に必要な研修の企画・運営の調整をする</p>
成果	看護補助者の業務について現状分析し、内容にみあった看護補助者研修の開催・ナースエイド語る会（2回/年）の実施 看護師対象の研修（バリテスでの動画研修）・研修前後テスト実施
次年度の課題	看護師が看護補助者に正しい指示・指導ができるよう継続学習ができる機会の提供 各部署での協働における問題点の抽出と共有 看護補助者マニュアルの作成
専門認定看護師会	
目標	各専門・認定看護師の活動を共有することで、様々な視点から看護ケアについて考え、看護の質向上を目指し協働することができる。
成果	複数分野が関わった症例を検討し情報共有（4症例）
次年度の課題	多角的な視点での症例検討を院内全体に発信する。 専門・認定看護師の活動を「見える化」することで、各部署での活動拡大を目指す。

# 5. 藥劑部報告

## 薬剤部

---

### (1) 基本理念

薬の専門家として医師をはじめ多職種と連携して、安全で安心できる質の高い薬物療法を提供します。

- 1 薬品管理 医薬品を管理し、良質で安全な医薬品を効率的に提供します。
- 2 事故防止 医薬品安全使用情報を共有し、医療事故の防止に努めます。
- 3 チーム医療 他職種と協力し、患者様にとって、より有効な薬剤の使用に努めます。
- 4 知識向上と教育 薬剤師として自らの知識研鑽に努めるとともに、薬学教育に参画します。

### (2) 体制

ア 夜間・休日：24時間体制（宿日直）で業務を行なっています。

イ セントラル：調剤・製剤・無菌調製・DI

ウ 病棟：病棟薬剤管理指導（加算1）体制  
服薬指導（加算）体制、AST（加算）体制

### (3) スタッフ（28名）

薬剤部長 長嶋 真美

薬剤副部長 工藤 三果

主査 河合 俊、山口 香織

主任薬剤師 安見 誠、根本 克己、戸室 佳織、伊藤 理菜、佃 直是、田中 則行、  
村本 綾子、早船 祐基、齋藤 貴之、今関 尊司、草野 李穂、  
宮寄 由美子、蘆原 尚也、藤崎 智子、松原 璃子、馬立 友理恵、  
鈴木 駿介、前島 悠

薬剤師 安達 友哉、喜田 峻大、井上 文音、森 悠太、吉岡 和、根岸 大輔

## (4) 資格

研修認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）	2名
日病薬病院薬学認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	18名
実務実習指導薬剤師（日本病院薬剤師会）	1名
実務実習指導薬剤師（日本薬剤師研修センター）	5名
がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	1名
麻薬教育認定薬剤師（日本緩和医療薬学会）	1名
緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会）	1名
感染制御認定薬剤師（日本病院薬剤師会）	2名
抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会）	2名
日本糖尿病療養指導士 CDEJ（日本糖尿病療養指導士認定機構）	3名
リウマチ財団登録薬剤師（日本リウマチ財団）	1名
漢方・生薬認定薬剤師（日本薬剤師センター）	1名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	1名
40時間実地研修修了書（日本静脈経腸栄養学会）	6名
NST（栄養サポート）専門療法士（日本静脈経腸栄養学会）	4名
DMAT（国立 災害医療センター内）	2名
CL-DPAT	1名
プライマリ・ケア認定薬剤師（日本プライマリ・ケア連合学会）	1名
医療情報技師（日本医薬品情報学会 医療情報技師育成部会）	2名
老年薬学認定薬剤師（日本老年薬学会）	1名
術後疼痛管理研修（日本麻酔科学会）	2名
公認スポーツファーマシスト（日本アンチ・ドーピング機構 JADA）	3名
医療安全責任者養成研修（40時間以上）（日本医療機能評価機構）	4名
医療クリティカルマネージャー（日本医療機能評価機構）	1名
衛生管理者（千葉県労働局）	2名
放射性医薬品取り扱いガイドライン講習（放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会ワーキンググループ）	1名
OSCE 評価者	10名
OSCE 模擬医師	1名

(5) 院内使用医薬品

ア 医薬品購入品目種類数

年度	2024年	2023年	2022年
購入品目種類(種類)	1,516	1,508	1,452
後発医薬品の購入種類数(種類)	415	399	366

イ 後発医薬品使用割合(DPC)

年度	2024年	2023年	2022年
後発医薬品使用割合	91.5%	90.6%	89.6%

(6) 業務及び実績

ア 処方箋枚数・院外処方箋発行率

年度		2024年	2023年	2022年
外来	院外処方箋(枚)	78,528	78,567	83,506
	院内処方箋(枚)	5,829	5,725	6,490
入院処方箋(枚)		5,1410	45,690	45,468
院外処方箋発行率(%)		93.1	93.2	92.8

イ 注射箋調剤枚数

年度	2024年	2023年	2022年
入院注射処方箋(枚)	98,313	101,523	95,245
外来注射処方箋(枚)	10,495	10,396	9,759

ウ 無菌調製件数(件)

年度		2024年	2023年	2022年
がん化学療法 無菌調製	外来	3,072	3,581	3,149
	入院	2,497	3,247	3,463
がん以外無菌調製		1,142	1,568	1,512
合計		6,711	8,396	8,124

参考：祝休日の無菌調製件数(件)(再掲)

年度		2024年	2023年	2022年
がん化学療法 無菌調製	入院	522	778	855

エ 院内製剤数 (件)

年度	2024 年	2023 年	2022 年
院内製剤 (件)	145	215	221

オ 【病棟】薬剤管理指導件数 (件)

年度	2024 年	2023 年	2022 年
指導料 1 (ハイリスク)	6,447	5,157	5,402
指導料 2 (1 以外)	8,194	6,998	6,636
麻薬加算	154	226	288
退院指導	3,659	3,006	2,844
連携加算	86	66	8

カ 病棟薬剤業務実施加算件数 (件)

年度	2024 年	2023 年	2022 年
一般病棟 (加算 1)	13,214	11,318	11,187

キ 薬剤総合評価調整件数 (人)

年度	2024 年	2023 年	2022 年
薬剤総合評価調整件数	8	1	1
薬剤調整加算	2	1	1

ク TDM件数 (件)

年度	2024 年	2023 年	2022 年
VCM (バンコマイシン)	233	235	257
TEIC (テイコブラニン)	28	24	24
TOB (トブラマイシン)	1	0	4
GM (ゲンタマイシン)	2	0	1
VRCZ (ポリコナゾール)	6	12	9
VPA (バルプロ酸ナトリウム)	1	0	0
Li (炭酸リチウム)	9	0	0

ケ 千葉県共用脳卒中等地域医療連携パス (CAMP-S)

年度	2024 年	2023 年	2022 年
患者数	22	17	17

コ 夜間実績 (再掲) 宿直体制

年度		2024 年	2023 年	2022 年
内服・外用 処方箋 (枚)	外来	1,234	1,000	1,054
	入院	5,502	4,966	4,759
入院注射処方箋 (枚)		18,602	20,883	16,833

(7) 治験

ア 治験事務局業務

年度	2024 年	2023 年	2022 年
治験実施件数	14	11	22

イ 治験審査委員会業務 (外部委員参加)

年度	2024 年	2023 年	2022 年
治験審査開催回数	12	12	12
治験審査議題数	97	125	145

(8) 学会発表

発表者	演題	学会名	日時
鈴木 駿介	大腿骨頸部骨折人工骨頭置換術症例 における漢方薬の術後鎮痛効果	第 73 回 東日本整形災害外科学会	2024/9/28
戸室 佳織	PTP 鑑査支援システム Peech の有用 性の検討と課題	第 62 回全国自治体病院 学会 in 新潟	2024/11/1
草野 李穂	ノボラピッド®注フレックスタッチ® の供給不足に伴う代替薬変更の対応 について	第 62 回全国自治体病院 学会 in 新潟	2024/11/1
齋藤 貴之	「ポリコナゾール (VRCZ) 投与中に 承認最大用量以上を必要とした非ア ジア人の一症例」	令和 6 年 第 34 回 日本 医療薬学会年会	2024/11/3

長嶋 真美	患者は医療チームの一員 薬剤師の視点から	第 20 回 医療安全大会	2024/11/24
長嶋 真美	パネルディスカッション 6 組織力 を結集して医療の質を高める マネージャーの役割と重要性 「地域の課題について部署を超えた マネジメント」	第 19 回 医療の質・安全 学会 学	2024/11/29

## (9) 講師

## ア 医薬品安全研修会等

講師	演題	講習会名	受講者数	日時
河合 俊	院内ルール 医師編	第1回 医薬品安全研修会	32名	2024/4/1
長嶋 真美	薬剤部について	第2回 医薬品安全研修会	69名	2024/4/2
山口 香織 今関 尊司	医療安全対策 薬剤の 基本知識と管理	第3回 医薬品安全研修会	41名	2024/5/1
山口 香織	糖尿病薬管理にあつ ての注意 過去の事例に学ぶ	令和7年1月医療安全 委員会	36名	2025/1/16

## イ 病棟レクチャー

講師	演題	受講者数
各病棟薬剤師	抗がん剤の曝露	129名
	バンコマイシン TDM	19名
	抗精神病薬	10名
	ステロイド	3名
	DscBd レジメンについて	5名
	抗コリン薬	20名
	バイオシミラー	112名
	フィルグラスチムの使用方法	10名
	血糖降下薬について	20名

## ウ その他

講師	演題	講習会名	日時
鈴木 駿介	大腿骨頸部骨折人口骨頭置換術症例 における漢方薬の可能性	地域連携講習会	2024/11/14
今関 尊司	緩和領域における薬剤の適正使用	青葉病薬連携セミナー	2024/11/21
工藤 三果	調剤業務を見直す；PTP 監査支援シ ステム導入による薬剤師業務の変化	第2回ちば医療安全セミナー	2025/3/20

## (10) 主催講習会

名称	演題・演者	日時	場所	参加者数
青葉病薬連携 セミナー	緩和領域における薬剤の適正使用 今関尊司	11月21日	青葉病 院	37名

## (11) 実習等受入

日時	目的・理由	人数	備考
5月20日～8月4日	薬学生実務実習	4	東邦大学

			城西国際大学
8月8日	薬学生（3、4年生）病院見学	2	東邦大学
8月15日	薬学生（3、4年生）病院見学	2	東邦大学
8月19日～11月3日	薬学生実務実習	4	東邦大学 城西国際大学 帝京平成大学

## 【総括】

本年度は医療安全にかかわる業務の改善を中心に行いました。

まず、昨年度に引き続いて新規導入した注射ピッカーを活用したシステムの構築と見直しを行ったことにより、一施用ごとの払い出しが可能となりました。

また、医師から薬剤師へのタスクシフトを目的として、手術を控えた患者を対象に、確認した持参薬について医師への中止・継続・再処方提案を開始しました。結果として主治医の業務軽減だけでなく、早期に指示が入ることによる看護師の薬剤確認作業の負担軽減、麻酔科医への情報共有など多職種の業務効率化につながりました。

さらに、手術や検査に関しては他部署への見学を定期的に行うとともに、放射線科に依頼して画像読影に関する研修会を実施するなど、薬剤以外の業務上必要となる分野の知識習得にも努めました。

医療安全への取り組みの一環として、レジメンシステムの導入を計画しております。当初は本年度の開始を目標としておりましたが、登録作業に時間を要したため、開始を次年度へと延期することとなりました。

以上のような取り組みにより、医療安全のさらなる向上に寄与ができたと考えております。次年度も安全・安心な医療の提供に、より一層貢献できるよう薬剤業務に取り組んでまいります。

関連部署と連携し、医薬品の供給不足対応に尽力し、医薬品が必要な患者への円滑な供給を維持しました。

注射調剤に使用するアンプルピッカーを更新し、業務を効率化することにより、注射オーダー内容の確認に注力し、より安全な注射調剤が行えるようになりました。

次年度も安全・安心な医療の提供に、より一層貢献できるよう薬剤業務に取り組んでまいります。

# 6. 醫療安全室報告

# 医療安全室

---

医療安全室は医療安全活動を通し、患者・家族・職員の「安全」を守り、質の高い医療を提供するための活動を行っている。

## (1) スタッフ（医療安全室）

- 室長：専任医師 1 名
- 副室長：専従看護師 1 名（医療安全管理者）
- 職員：専従看護師 1 名
  - 医師 1 名（医療安全管理委員会委員長：兼務）
  - 薬剤師 1 名（医薬品安全管理責任者：兼務）
  - 放射線技師 1 名（兼務）
  - 臨床工学技士 1 名（兼務）
  - 事務：2 名（1 名兼務）

## (2) 業務

- ア 医療安全管理に関する検討および推進
  - ・事例検討会 3 回/年（うち外部委員含む検討会 2 回）開催
  - ・院内巡視：救急カート点検実施状況、配薬カート管理状況
- イ 医療安全管理に関する情報収集・分析・評価
  - ・医療の質可視化プロジェクト参加
  - ・医療安全マニュアルの改訂
  - ・SMT チーム活動
    - 「転倒転落チーム」「誤薬予防チーム」「身体的抑制最小化チーム」
  - ・レベル 3a 以上の事案について詳細分析の推進
  - ・医療クオリティー委員会活動：肺血栓塞栓予防について
  - ・医療安全ニュース（ANZEN：12 号/年発行、臨時：1 回発行）
  - ・医療安全管理委員会の運営：12 回/年開催
  - ・医療安全カンファレンス運営：12 回/年開催
  - ・医療安全情報配信：日本医療機能評価機構、日本医療安全調査機構等
- ウ 患者相談
  - ・患者・家族からの医療に関する苦情および相談
  - ・苦情・相談内容に関する検討
  - ・患者サポート体制相談カンファレンス 24 回/年開催

### （3）教育・研修

#### ア 院内教育・研修

##### 医療安全全体研修

第1回	医療機関におけるハラスメント	対象：全職員 受講率：100%
第2回	医療機関における悪質クレーム	対象：全職員 受講率：99.2%

##### 医療安全研修

研修名	対象・参加者数
新入職者オリエンテーション	新入職者：71名
中途採用者オリエンテーション	中途採用者：7名 (5月・9月・10月・11月・1月)
特別講演 最新の医療の動向 ～人間中心性とは～	全職員希望者・地域医療機関：55名 講師：千葉大学医学部附属病院 相馬孝博教授
安全な胸腔穿刺・ドレナージ 胸腔ドレーン挿入中の看護	全職員希望者：521名 RSR 共同開催：e-ラーニング

#### イ 院外教育・研修

医療安全管理者養成研修	医師：2名 看護師：3名 薬剤師：1名 放射線技師：1名
医療クオリティマネージャー養成 セミナー	薬剤師：1名
医療対話推進者養成セミナー	看護師：3名

### （4）統計

医療安全報告は、病床の5倍以上の報告が望ましいと言われ、当院は1845件（153件/月）が目安となる。令和6年度の報告数は、3056件であった。病床数の約8倍であり、望ましい報告数を上回った。また、前年度に比べ報告数は234件増加した。

身体影響度レベル別報告では、レベル0報告が前年度より164件増加(4.7%)した。身体影響度レベル3b以上は、27件であり、前年度より8件(0.3%)減少した。

医療安全報告数は徐々に増加し、令和6年度は最も多い提出数となった。身体影響度レベルは、レベル0が増加し、レベル3b以上が減少した。報告する文化の醸成が推進され、重大な事故につながる前の気づきが増え、未然防止につなげることがで

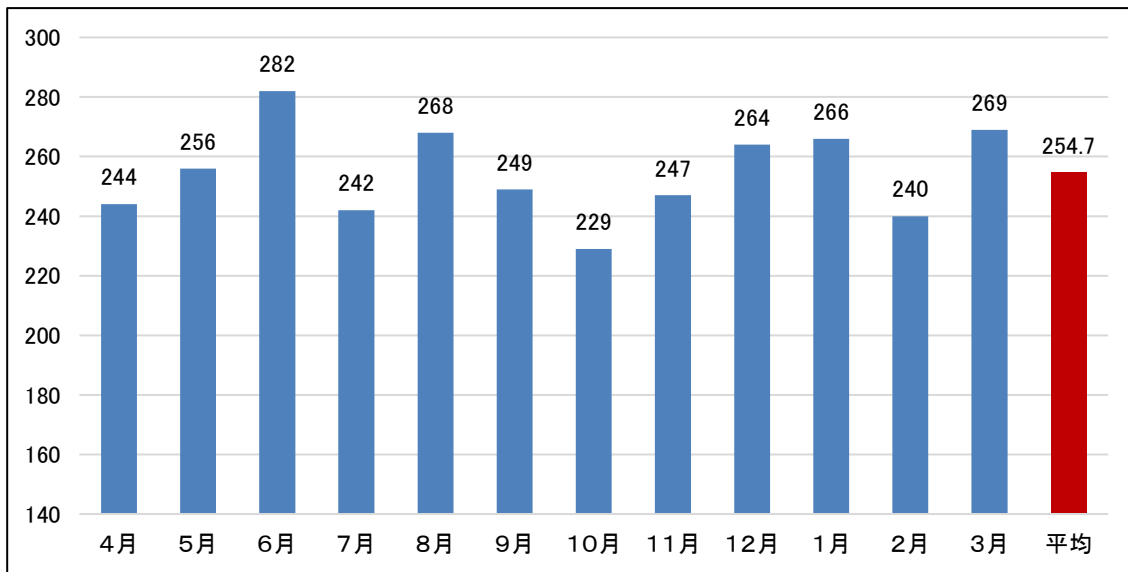
きた。

報告者別割合では医師の報告数が増加し、過去5年間で最も多い報告数となった。報告する文化の醸成を推進するため、取り組みを継続していく。また、合併症についても積極的に報告することができるように、システムを構築することが課題である。

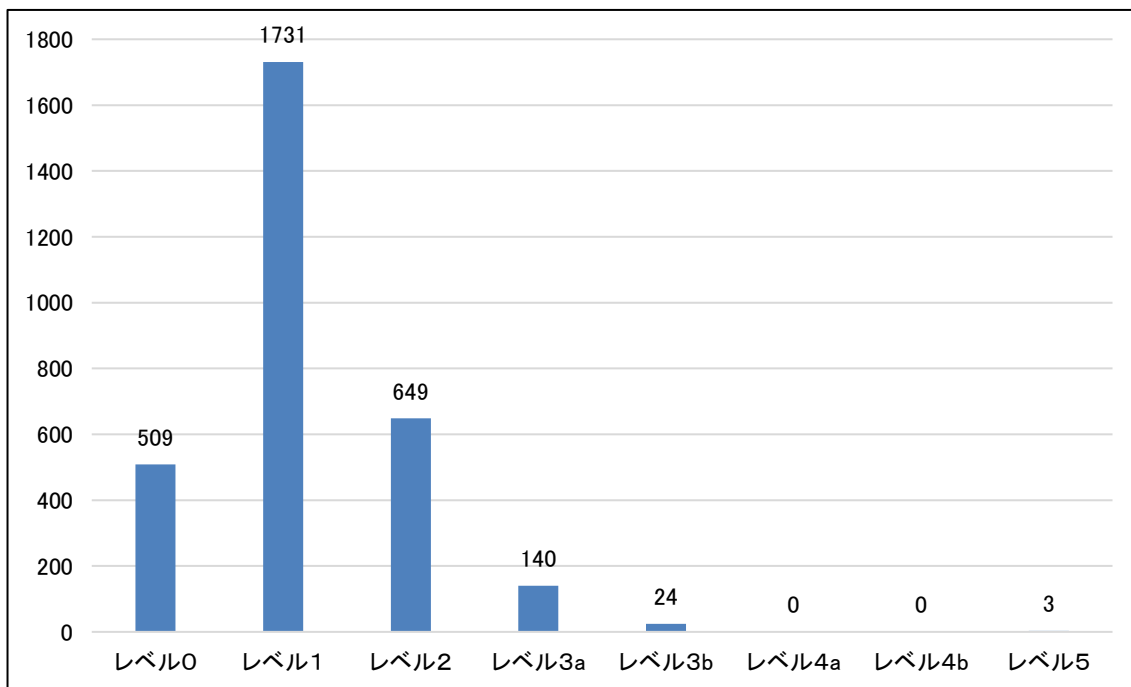
医療安全報告総数：3,056件（前年度：2,822件）

- ・インシデント：3,029件（前年度：2,787件）
- ・アクシデント：27件（昨年度：35件）

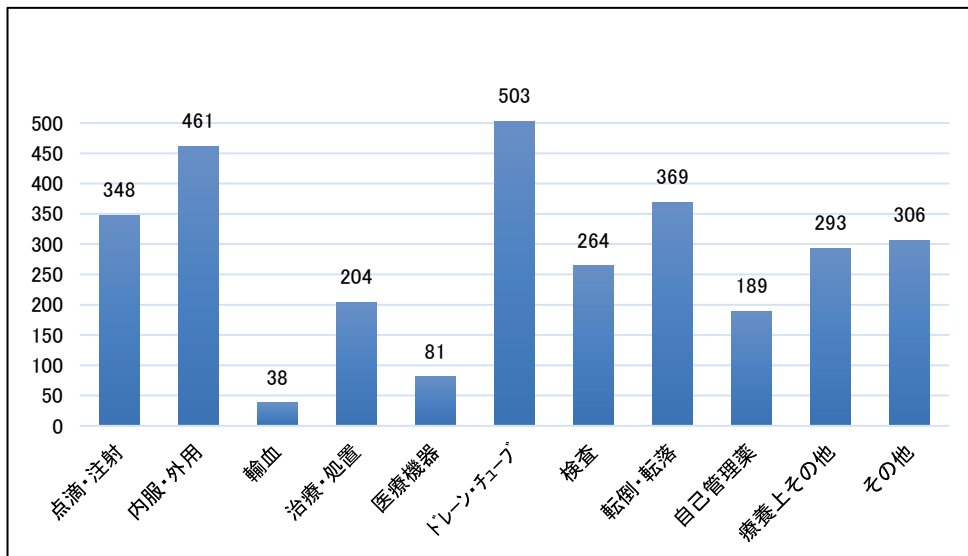
<月別報告数>



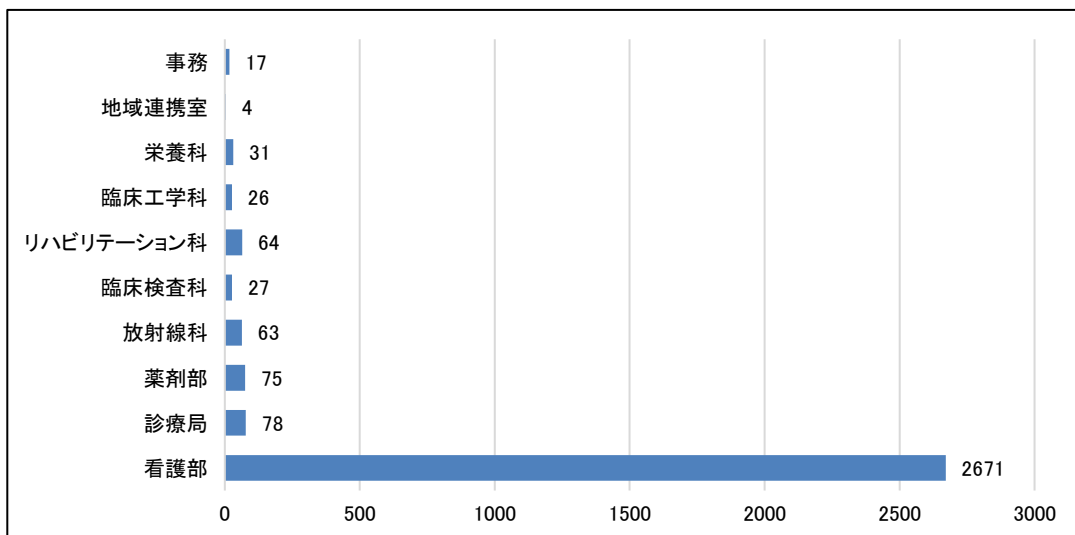
<身体影響度レベル別報告数>



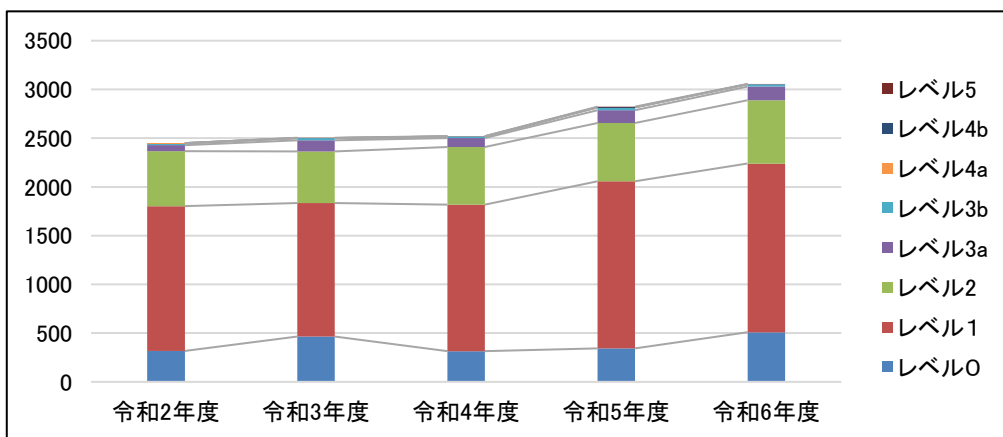
< 報告内容別件数 >



< 報告部署別件数 >



< 身体影響度レベル別報告 年度別推移 >



# 7. 感染対策室報告

# 感染対策室

感染対策室は医療関連感染（院内感染）の低減を目的とし、2018年に設置された。患者の治療・療養における感染対策の推進と職員の職業感染防止を担っている。

## 1. スタッフ

### 1) 感染対策室

役職名等	資格・業務など
感染対策室長	副院長（兼務）、感染対策委員会委員長
副感染対策室長	診療局長（兼務）、感染対策委員会副委員長
医師	院内感染管理者（ICD）、呼吸器内科統括部長（兼務）
看護師	感染管理認定看護師（専従）
看護師	感染管理認定看護師（兼務）
薬剤師	薬剤師（兼務）
臨床検査技師	主任臨床検査技師（兼務）

### 2) 感染制御チーム（Infection Control Team）

職種	資格など
医師（5名）	ICD（2名）
看護師（3名）	感染管理認定看護師（3名）、専従1名
薬剤師（3名）	感染制御認定薬剤師（1名）
臨床検査技師（1名）	

### 3) 抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team）

職種	資格など
医師（5名）	ICD（3名）
看護師（2名）	感染管理認定看護師（2名）、専従1名
薬剤師（3名）	感染制御認定薬剤師（1名）、抗菌薬化学療法認定薬剤師（2名）
臨床検査技師（2名）	感染制御認定臨床微生物検査技師（1名）

## 2. 業務

- 1) 院内感染管理に関する検討および推進
  - ・各部署からのコンサルテーション対応
- 2) 院内感染管理に関する情報収集・分析・評価
  - ・ICT ラウンド 1回/週
  - ・院内感染症発生時の対応
  - ・院内感染症・微生物・医療関連感染の監視  
薬剤耐性菌サーベイランス

特定抗菌薬使用に関するサーベイランス  
血液培養陽性サーベイランス  
カテーテル関連尿路感染（CAUTI）サーベイランス  
中心ライン関連血流感染（CLABSI）サーベイランス  
手術部位感染（SSI）サーベイランス  
手指衛生サーベイランス

・清掃ラウンド 1回/週

### 3) 職業感染対策

- ・ウイルス性疾患の抗体価検査
- ・予防接種業務（インフルエンザ、B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス）
- ・血液、体液暴露事故対応
- ・結核接触者検診

### 4) 感染対策マニュアル改訂

### 5) 院内感染管理に関する教育研修

感染管理研修 第一回 受講者 729 名  
第二回 受講者 727 名  
抗菌薬全体研修 第一回 受講者 545 名  
第二回 受講者 513 名

### 6) 感染対策委員会の運営 12回/年

### 7) 感染対策向上加算

#### (1) 加算1 連携施設と相互評価

受審：10月7日(月) 評価：千葉市立海浜病院、オブザーバー：千葉県循環器病センター

評価：9月30日(月) 受審：千葉県循環器病センター、オブザーバー：千葉市立海浜病院

オブザーバー：10月24日(木) 受審：千葉市立海浜病院、評価：千葉県循環器病センター (2) 加算2・3・  
外来連携

連携施設：千葉南病院（加算3）、柏戸病院（加算3）、みらいクリニック（外来加算）

- ・第1回カンファレンス：5月24日（会場：青葉病院）
- ・第2回カンファレンス：7月5日（会場：青葉病院）
- ・第3回カンファレンス：10月25日（会場：青葉病院）
- ・第4回カンファレンス：2月7日（会場：青葉病院）

### 8) 訓練

#### (1) 千葉市新型インフルエンザ等対策実動訓練

11月27日（水）午後

実施機関：千葉市健康危機管理課、保健所感染症対策課、千葉市立海浜病院  
千葉市立青葉病院

#### (2) 検疫法に基づく検疫感染症措置訓練

- ・患者搬送訓練：11月21日（木）午後  
実施機関：東京検疫所千葉検疫支所、千葉市立青葉病院
- ・実動訓練：12月9日（月）午後  
参加機関：千葉税関支署、千葉海上保安部、東京出入国在留管理局千葉出張所、船橋保健所、千葉市保健所、

君津保健所、千葉市立青葉病院、国保直営総合病院君津中央病院、千葉海運産業株式会社、株式会社ダイト  
ーコーポレーション、東京検疫所、東京検疫所千葉検疫支所

### 3. 教育・研修実績

#### 1) 院内教育・研修

開催月	研修会名	対象
4月	新規採用者・転入者オリエンテーション	新入職者
4月	看護部新人研修	看護師
6月～7月	第1回感染対策研修会（eラーニング） あなたも今日から手指衛生マスター	全職員
11月～12月	第1回抗菌薬適正使用に関する研修会 （eラーニング） ①血液培養 ②抗菌薬のAWeRa分類	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師
12月～1月	第2回感染対策研修会（eラーニング） 感染症と感染対策	全職員
1月～2月	第2回抗菌薬適正使用に関する研修会 （eラーニング） 血液培養検査について	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師
6月、8月、9月、10月、11月、1月	医療関連感染防止対策について	看護部中途採用者

#### 2) 院外教育

開催日	研修会
令和6年9月25日	千葉市主催 感染症予防講習会
令和7年2月13日	千葉市消防学校 救急科救急課程「感染症・感染防止」 対象：救急科救急課程学生
令和7年3月15日	千葉県院内感染対策支援ネットワーク主催 令和6年度 第2回千葉ネット研修会『忘れていませんか「結核」』

# 8. 地域連携室報告

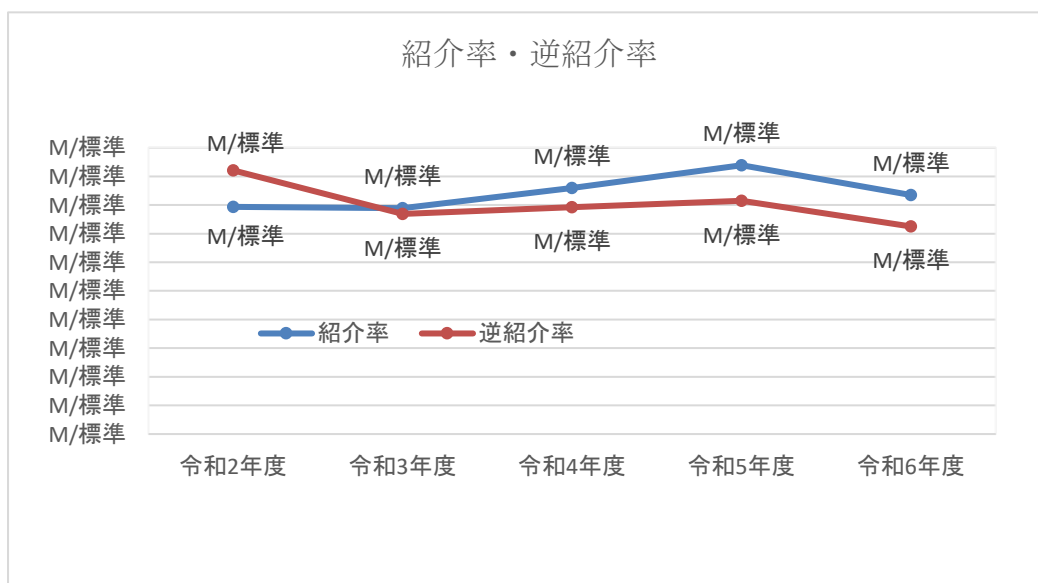
# 地域連携室

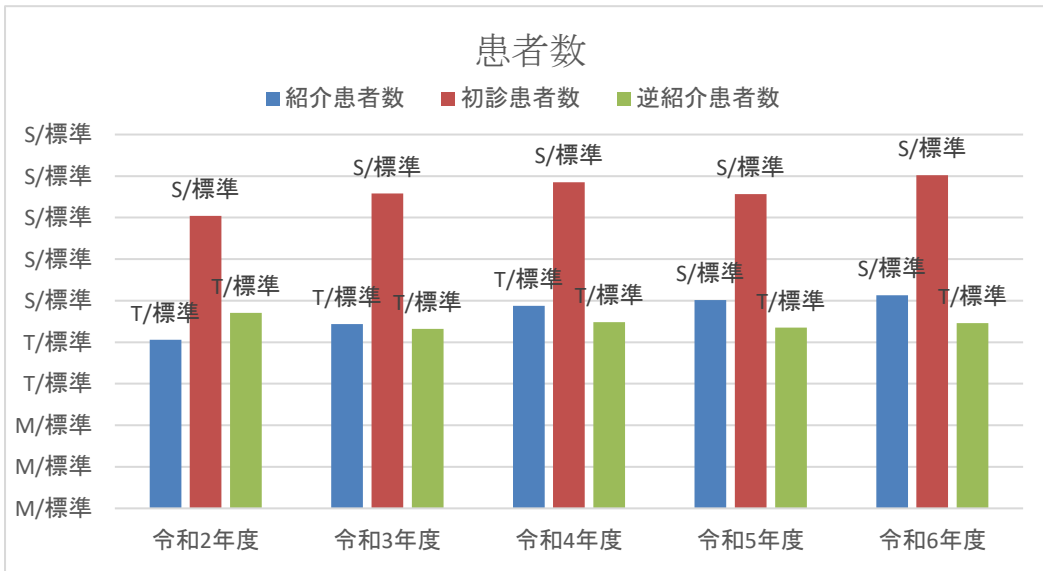
## 地域医療支援病院としての役割を果たす要件の実績報告 ～（令和6年4月～令和7年3月）～

### 1. 地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

- 1) 紹介率 80%
- 2) 紹介率 65% 逆紹介率 40%
- 3) 紹介率 50% 逆紹介率 70% のいずれか1つを上回っていること

地域医療支援病院紹介率	83.5%	算定期間	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日
地域医療支援病院逆紹介率	72.5%		
算出根拠	紹介患者数	10,263人	
	初診患者数	16,039人	
	逆紹介患者数	8,916人	



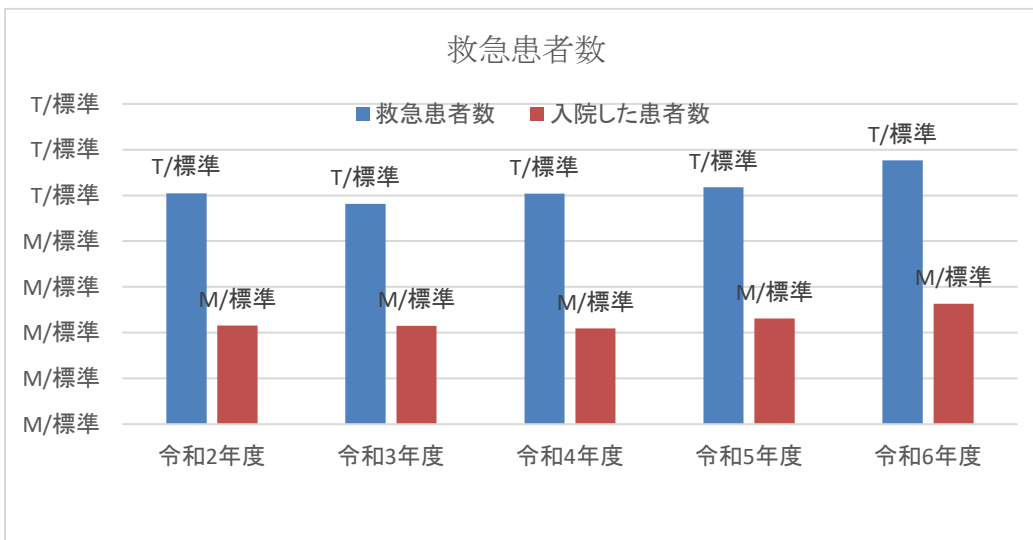


## 2. 救急医療の提供実績

病床数 ICU 4 床

救急用又は患者輸送自動車により搬入した 救急患者の数	4,978 人 (2,395 人)
上記以外の救急患者の数	790 人 (238 人)
合計	5,768 人 (2,633 人)

( ) は、それぞれの患者のうち入院を要した患者数



## 3. 共同利用の実績

- ・病床利用 0 件
- ・共同利用できる高額医療機器及び設備等 CT/MR/骨密度測定器 22 件
- ・ホールあおばの貸出

#### 4. 地域医療従事者等に対する研修開催実績

日 時	研修名	講師・演者等	参加者数
令和6年5月～10月	在宅医療コーディネーター研修会	全6回 ケアマネジャー対象	院外： のべ207名
令和6年7月26日 18:00～19:00	千葉県看護職向け 『Nursing Update with AOBA 2024』	認知症『～これって認知症？～』 認知症看護認定看護師 渡邊わかな	院外：66名 院内：4名
令和6年8月28日 19:25～20:30	第21回千葉県医療 連携カンファレンス	『甲状腺・副甲状腺センターでの手術的治療/ 耳鼻咽喉科の紹介』 耳鼻咽喉科 統括部長 杉本 晃 『甲状腺・副甲状腺センター/糖尿病センタ ーの紹介』 糖尿病・代謝内分泌内科 統括部長 小出 尚史	院外：13名 院内：17名
令和6年10月24日 19:25～20:45	第4回公開カンファ レンス(症例検討会)	症例1 婦人科『貧血を来しうる婦人科疾患 診断から治療について』 婦人科 百武 沙綾 症例2 呼吸器内科 『重症化した市中肺炎の1例』 感染症科 河井 彬弘	院外：12名 院内：10名
令和6年11月14日 18:30～19:30	地域連携講演会	『大腿骨頸部骨折人工骨頭置換術症例におけ る漢方薬の可能性』 薬剤部 鈴木 駿介 『脊髄疾患における漢方薬の使用経験』 整形外科 部長 茂手木 博之	院外：14名 院内：28名
令和6年11月21日 18:30～19:30	千葉県薬薬連携セミ ナー	『緩和領域における薬剤の適正使用』 薬剤部 今関 尊司 『大腸がんについて ～内視鏡所見を中心に～』 内科統括部長 橘川 嘉夫	院外：21名 院内：17名
令和6年11月27日 19:25～20:45	第10回千葉県在宅医 療連携カンファレン ス	『酸素需要の多い患者の在宅支援について』 すずらんクリニック 竹内 圭志先生 呼吸器内科 統括部長 瀧口 恭男	院外：35名 院内：5名
令和7年1月24日 18:00～19:00	千葉県看護職向け 『Nursing Update with AOBA 2024』	摂食嚥下障害 『誤嚥を早期発見するためのHow to～看護 師だからできること～』 摂食嚥下障害看護認定看護師 松本裕美	院外：32名 院内：18名

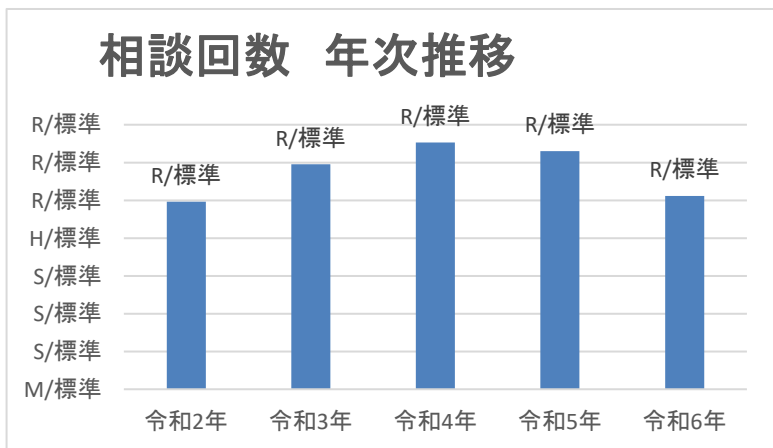
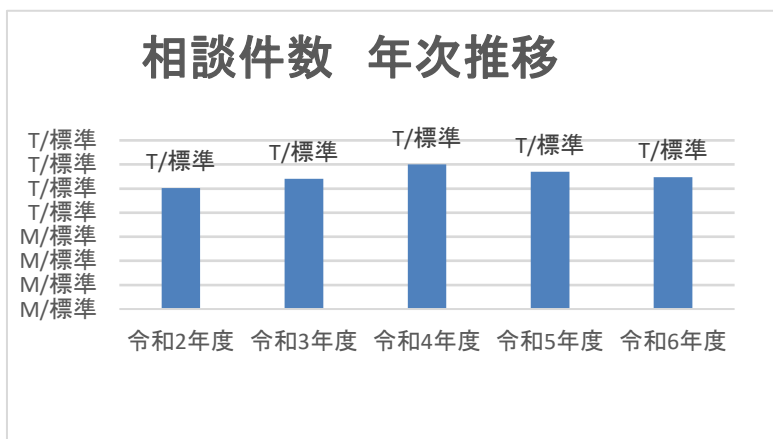
令和7年2月26日 19:25～20:45	第22回千葉市千葉市 医療カンファレンス	『児童精神科医療の実際～連携と実践～』 児童精神科 統括部長 篠田 直之 『成人精神科病棟のご紹介(再開しました)』 精神科 統括部長 木村 敦史	院外:19名 院内:13名
--------------------------	-------------------------	--	------------------

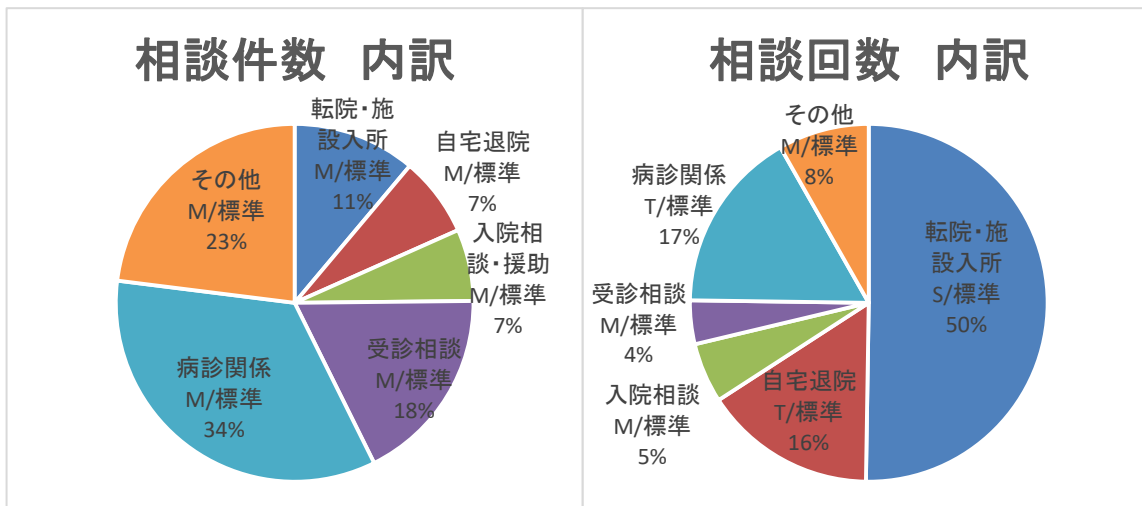
## 5. 患者相談の実績（令和6年4月～令和7年3月）

社会福祉士4名 看護師3名 が担当

相談件数

入院患者	外来患者	その他	合計
2247件	8,27件	3,404件	6,478件





## 6. その他の地域医療支援病院に求められる取り組みについて

### ①果たしている役割に関する情報発信

- ◆広報紙「あおば」6月と12月発行
- ◆広報紙「もえぎ」24回発行

### ②退院調整部門

令和6年度は、社会福祉士4名 看護師3名 合計7名が担当した

### ③セカンドオピニオン（血液内科） 1件

### ④保健所の適時調査 10月21日実施

### ⑤二次性骨折予防研修会開催 1月18日開催

### ⑥市民公開講座 演題「骨粗鬆症、関節疾患について学ぶ」令和6年8月18日開催 28名の参加

演題「高血圧症について学ぶ」令和7年2月21日の開催 28名の参加

(千葉県ハーモニープラザにて)

### ⑦病院訪問 六角院長 11病院 横田副院長 4病院 地域連携室長 17病院

### 地域連携に関する診療報酬算定状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入退院支援加算1	179	180	172	191	196	176	186	179	217	208	213	190	2287
入院時支援加算	6	6	8	8	5	2	6	3	5	6	5	7	37
総合機能評価加算	177	176	173	195	215	185	192	185	217	208	214	193	2330
介護支援等連携指導料	7	11	4	5	7	7	6	6	7	1	4	5	70
地域連携診療計画加算	9	7	8	9	10	7	7	4	8	5	7	4	85
退院時共同指導料2	1	1	1	5	2	3	2	2	2	2	1	2	24
多機関共同指導加算	0	0	1	5	1	1	2	1	2	1	1	1	16
退院前訪問指導料	1	2	2	3	2	2	1	1	3	0	0	0	16
退院後訪問指導料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

在宅患者緊急入院診療加算 (連携医療機関以外)	20	18	21	11	16	17	15	11	9	17	19	18	192
在宅患者緊急入院診療加算 (連携医療機関の非登録患者)	2	2	3	2	4	3	1	2	2	2	3	4	30
在宅患者緊急入院診療加算 (登録患者)	0	0	0	1	2	0	0	2	1	0	3	0	9

地域連携を促進するための取り組み（地域連携パス）

大腿骨頸部骨折地域連携パス	77 件
脳卒中地域連携パス	14 件

地域連携室予約来院件数（令和6年4月～令和7年3月）

総合診療	循環器科	呼吸器科	消化器科	血液内科	甲状腺・ 内分泌	アレルギー ー膠原病	脳神経科	胃大腸二 次検診
129 件	102 件	257 件	118 件	91 件	174 件	42 件	67 件	12 件
外科	整形外科	泌尿器科	産婦人科	皮膚科	耳鼻科	小児科	合計	
55 件	73 件	179 件	179 件	35 件	370 件	2 件	1885 件	

## 地域連携室業績

### ア 発表

No	題名	発表者	主催団体もしくは講演会名	年月日
1	退院支援看護師の教育支援体制の現状と今後の課題	今木昌代 中野敦史 相原倫子	第 62 回全国自治体病院学会 in 新潟	2024/10/31-11/1

### イ 講演会

No	題名	発表者及び共同研究者	雑誌・書籍名	年月日
1	「高血圧症について学ぶ」	志鎌伸昭	市民公開講座（於 ハーモニープラザ）	2025/2/21

### ウ 院内勉強会・セミナー・カンファレンス

No	演題名	演者	勉強会・セミナー名	年月日
1	退院支援について	佐藤	研修医勉強会	2024/5/23
2	看護サマリーの書き方	相原	部署勉強会(ICU/HCU)	2024/6/20
3	看護サマリーの書き方	相原	部署勉強会(3 西)	2024/8/21
4	看護サマリーの書き方	相原	部署勉強会(3 西)	2024/8/26
5	看護サマリーの書き方	相原	部署勉強会 (ICU/HCU)	2024/9/12
6	退院先について	石川	部署勉強会 (3 東)	2024/10/2
7	退院先について	石川	部署勉強会 (3 東)	2024/10/16
8	退院先について	石川	部署勉強会 (3 東)	2024/10/30
9	意思決定支援・退院支援について	相原	部署勉強会(5 東)	2024/11/8
10	身寄りのない患者の支援	佐藤	部署勉強会(3 東)	2024/11/13
11	身寄りのない患者の支援	佐藤	部署勉強会 (3 東)	2024/12/2
12	介護保険について	石川	部署勉強会 (3 西)	2024/12/11
13	介護保険について	石川	部署勉強会 (3 西)	2024/12/18
14	退院先について	石川	部署勉強会 (3 西)	2025/1/22
15	退院先について	石川	部署勉強会 (3 西)	2025/1/29
16	看護サマリーの書き方	相原	部署勉強会(5 西)	2025/2/3
17	介護保険について	石川	部署勉強会(外来)	2025/2/4
18	介護保険について	石川	部署勉強会(外来)	2025/2/6
19	看護サマリーの書き方	相原	部署勉強会(わか 2)	2025/3/14

# 9. 事務局報告

# 事務局

---

## (1) スタッフ

事務局に2班（総務班・管理班）、医事室が配置されている。

## (2) 業務

### ア 総務班

- ・ 職員の採用・退職及び職員配置計画に関する事
- ・ 会計年度任用職員の任用、給与、各種保険に関する事
- ・ 医師の働き方改革に関する事
- ・ 院内保育所の運営に関する事
- ・ 患者給食業務委託契約に関する事
- ・ 看護職員等宿舎の入退去管理に関する事
- ・ 院内各部門の庶務に関する事
- ・ 年休・特別休暇、時間外勤務集計等に関する事
- ・ 調整数報告、通勤・住居届出等に関する事
- ・ 源泉徴収・年末調整業務に関する事
- ・ 公務災害認定請求に関する事
- ・ 医療監視に係る各種資料の作成に関する事
- ・ 精神病院実地指導に関する事
- ・ 旅費交通費に関する事
- ・ 研究雑費、消耗品（追録、図書）、講師派遣に関する事
- ・ 報償費、食糧費、交際費、諸会費及び図書費に関する事
- ・ 文書整理簿、郵便物等、公衆電話に関する事
- ・ 受託研究（謝金支払）に関する事
- ・ 社会保険事務局への定例報告に関する事
- ・ 職員健康診断に関する事
- ・ 当直表作成、職員配置表作成に関する事
- ・ 初期臨床研修医の受入に関する事
- ・ 実習生受入、病院見学に関する事
- ・ 選挙事務（指定病院不在者投票）に関する事
- ・ 企業財産の目的外使用に関する事
- ・ 公用車に関する事
- ・ 駐車場料金徴収に関する事
- ・ 運営調整会議に関する事
- ・ 衛生委員会に関する事
- ・ 業務負担軽減検討委員会に関する事
- ・ 他の班との調整

## イ 管理班

### (調達)

- ・薬品（一般薬・血液・検査試薬等）の購入に関する事
- ・診療材料の購入に関する事
- ・医療消耗備品の購入に関する事
- ・職員被服、消耗品、消耗備品、燃料、印刷物の購入に関する事
- ・修繕（医療機器等備品・医療消耗備品・消耗備品）に関する事
- ・賃借（在宅酸素・医療機器等）に関する事
- ・委託（購買物品管理業務・再生滅菌物管理業務・医療機器管理業務・ベッドリネン管理業務・医療機器の保守及び点検業務等）に関する事
- ・器械備品の購入及び除却に関する事
- ・たな卸し（薬品・診療材料・消耗品・印刷物）に関する事
- ・更衣ロッカーの管理に関する事
- ・診療材料・物流管理委員会に関する事
- ・医療機器安全管理運営委員会に関する事

### (設備管理)

- ・電気（受変電・強電・太陽光発電）設備の維持管理に関する事
- ・昇降機（エレベータ・エスカレータ他）の維持管理に関する事
- ・消防設備の維持管理に関する事
- ・ナースコール設備の維持管理に関する事
- ・気送管設備の維持管理に関する事
- ・非常用電源（発電機・無停電電源装置）設備の維持管理に関する事
- ・院内放送設備、電話設備、携帯電話及びPHSの維持管理に関する事
- ・建物の維持管理に関する事
- ・給排水設備及びガス設備の維持管理に関する事
- ・ボイラ及び圧力容器設備の維持管理に関する事
- ・空調設備の維持管理に関する事
- ・医療用ガス設備の維持管理に関する事
- ・廃棄物（一般廃棄物、医療感染性廃棄物、産業廃棄物等）の処理に関する事
- ・警備及び防犯に関する事
- ・環境衛生（清掃・植栽管理）に関する事
- ・駐車場設備の維持管理に関する事
- ・光熱水費及び下水道料金の管理に関する事
- ・公衆電話の管理に関する事
- ・行政財産目的外使用・貸付等の許可に関する事
- ・防火防災管理委員会に関する事
- ・医療ガス安全管理委員会に関する事

## ウ 医事室

- ・ 施設基準の届出に関すること
- ・ 診療報酬の改正に関すること
- ・ 支払い基金、国保連合会との連絡調整
- ・ 診療報酬(レセプト)の請求、及び再審査請求に関すること
- ・ レセプトの返戻及び査定に関すること
- ・ 労務災害・公務災害・自賠責の診療費請求事務に関すること
- ・ 検(健)診関係の請求に関すること
- ・ 障害者自立支援法医師意見書等の請求に関すること
- ・ 生活保護法に関する請求に関すること
- ・ 精神科入退院等患者月報に関すること
- ・ 薬害肝炎(C型肝炎)の問い合わせに関すること
- ・ 諸法関係の請求事務に関すること
- ・ 生活保護患者に関すること
- ・ 精神保健法第 32 条に関すること
- ・ 骨髄移植等に関すること
- ・ 外来検診・予防接種に関すること
- ・ 病院報告、患者数、患者月報に関すること
- ・ 入院証書の保管管理に関すること
- ・ 特別の療養環境の提供に伴う同意書の保管管理に関すること
- ・ 相談窓口に関すること
- ・ 医療相談に関すること
- ・ 診療費の相談・減免に関すること
- ・ 医事会計の窓口・自動支払機の現金収納に関すること
- ・ 未収金(外来・入院)の整理、督促に関すること

## 診療録管理室

---

### (1) 概要

診療録管理室では、一元的に管理された診療記録に基づき、国際疾病分類（ICD-10）を用いて適切にコーディングを行い、データ管理をしている。

管理された診療記録は日常的に監査を行い、正確且つ安全な保管管理に努め、必要に応じて様々な形で提供をしている。

すべてのもとである診療記録の正確性は不可欠であり、そのために量的はもとより質的な精査と監査、検証の精度を上げていかなければならない。

医療の質・経営の質の向上の一助となるべく、高精度なデータの蓄積と活用に努めている。

### (2) 体制

診療情報管理士 5名（常勤）

### (3) 業務

#### ア 診療記録の点検、監査、管理

記載内容や添付書類が適切かどうかを確認する業務。

診療記録の不備統計や退院時要約（サマリー）の完成率統計などを作成している。

#### イ DPCの点検、監査

当院は「DPC」に基づいた支払い制度を導入した病院であり、診療録管理室において、「DPC」の点検、監査を行っている。

診療情報管理士が、入院時より診療記録の監査を行い、診療内容に適した病名「国際疾病分類（ICD-10）」の付与を提案している。

「適切なコーディングに関する委員会（年6回開催）」を通して検証を行っている。また、データ化された「DPC」情報はDPC病院の義務として厚生労働省へ提出している。

#### ウ 病院情報の公表

DPCデータから全国統一の定義と形式に基づいた指標を作成し、情報公開を行っている。当院がどのような医療を提供しているのか、多くの方々に知っていただくよう病院ホームページへ掲載している。（毎年10月1日更新）

#### エ がん登録

国が推進している「がん患者さんの登録事業」に協力するため、がん病名や治療内容をデータとして提供している。

外部研修等へ積極的に参加し、精度の高いがん登録に努めている。

#### オ 診療記録情報の提供（カルテの開示等）

「診療情報の提供等に関する指針」（H15.9.12付厚生労働省医政局長通知）に基づき、患者さん等の求めに応じて当院が保有する診療記録を提供している。

増加傾向にある申請に対して、個人情報の取扱いに留意し対応している。

#### カ 疾病統計や各種統計の作成

管理された診療情報からデータベースを構築・分析し、必要な統計資料を作成している。

# 情報管理室

---

## (1) 概要

青葉病院情報システムは、医療のあるべき姿を見据えて、高品質の医療サービスの提供、チーム医療の推進、病院経営の効率化などを実現することを目的とし、その役割を最大限発揮できるよう、システム運用管理、ヘルプデスクによる問合せ対応、障害対応などの業務を行っている。

また、情報セキュリティ対策への取組みとして、厚生労働省が定める「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」や、千葉市の情報セキュリティポリシーである「千葉市情報セキュリティ対策基本方針」及び「千葉市情報セキュリティ対策基準」等の諸規程に則り、不正アクセス対策やコンピューターウイルス対策などを推進し、新規採用職員には情報セキュリティ研修も行っている。

## (2) 運用体制

情報管理室担当職員 1 名及び委託業者の常駐要員 4 名（原則）

## (3) 主な業務

### ア システム運用管理

病院情報システム全体の運用管理、各種マスタの設定管理を行う。

ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの運用状態を監視する。

### イ 問合せ対応

ヘルプデスクを設置し、病院情報システムに関する院内利用者からの問合せに対応する。

### ウ データ入出力管理

外部からのデータ持込みや持出し（主に患者の画像情報など）について、磁気媒体のウイルスチェックとサーバへのアップロード作業等を行う。

### エ 統計・抽出処理

診療情報データベースや会計情報データベースから必要な情報を抽出し、経営指標とするための診療統計、医事統計等、各種統計データの作成を行う。

診療報酬請求のためのデータの作成・チェックを行う。

### オ 障害対応

システム障害発生時の問合せ対応、障害時運用マニュアルに基づく対応作業、システムベンダーとの連絡調整、再発防止に向けた取り組み等を実施する。

### カ 利用者情報の管理

病院情報システム利用者情報の追加・変更・削除を行う。

<業務実績統計>

ヘルプデスク問合せ受付件数

区分名	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
依頼（操作方法、設定、動作等）	4,660	5,073	5,633	5,569	5,333
画像取込（CD等）	3,286	4,071	4,417	4,699	5,029
ファイル操作関連（デジカメ、USB等）	2,484	2,823	2,804	3,085	2,972
抽出関連	256	306	265	255	275
ハードウェア障害	331	98	173	59	80
ソフトウェア障害	52	24	122	136	146
その他（病院情報システム以外）	36	13	14	5	40
合計	11,105	12,408	13,428	13,808	13,875

# 10. 統計

## (1) 総括

区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院	入院患者数	6,744	6,810	7,473
	月平均新入院患者数	562	568	623
	退院患者数	6,790	6,805	7,417
	延患者数	97,404	96,794	104,631
	平均患者数/日	267	265	287
	平均在院日数	13.2	13.2	13.1
	病床利用率	72.9%	77.6%	77.7%
外来	延べ患者数	192,223	186,615	189,692
	1日平均患者数	791	762	781
紹介・逆紹介	初診患者数	15,701	15,134	16,039
	紹介率	86.0%	93.9%	83.5%
	逆紹介率	79.2%	81.5%	72.5%

## (2) 診療科別入院患者数状況

	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	新入院 患者数	延患者数	新入院 患者数	延患者数	新入院 患者数	延患者数
内科	3,845	59,861	3,803	60,059	4,118	62,785
外科	465	4,488	453	4,029	458	3,898
整形外科	899	14,136	963	14,695	1,099	15,663
小児科	1	8	2	8	1	5
産婦人科	419	2,213	424	2,170	441	2,163
眼科	0	28	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	187	1,295	195	1,298	245	1,554
皮膚科	91	1,654	79	932	128	1,661
泌尿器科	785	5,754	829	6,372	833	6,064
精神科	0	0	0	0	96	4,117
児童精神科	30	7,451	42	6,534	33	6,218
感染症	22	516	20	697	21	503
計	6,744	97,404	6,810	96,794	7,473	104,631

## (3) 診療科別外来患者数状況

	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	延患者数	1日平均患者数	延患者数	1日平均患者数	延患者数	1日平均患者数
内科	63,964	263.2	61,995	253.0	63,329	260.6
外科	5,657	23.3	5,222	21.3	5,112	21.0
整形外科	25,782	106.1	24,204	98.8	23,083	95.0
小児科	1,089	4.5	1,080	4.4	936	3.9
産婦人科	9,005	37.1	9,217	37.6	9,899	40.7
眼科	5,003	20.6	4,231	17.3	2,098	8.6
耳鼻いんこう科	3,100	12.8	3,039	12.4	3,338	13.7
皮膚科	10,117	41.6	10,612	43.3	11,967	49.2
泌尿器科	15,235	62.7	15,072	61.5	15,255	62.8
精神科	17,084	70.3	14,643	59.8	14,178	58.3
アレルギー科	0	0	0	0	0	0
リハビリ科	34,117	140.4	35,350	144.3	38,706	159.3
歯科	2,070	8.5	1,950	8.0	1,791	7.4
合計	192,223	791.0	186,615	761.7	189,692	780.6

## (4) 診療科別救急患者数

外来	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内科	2,500	2,329	2,508
外科	61	66	69
整形外科	270	361	422
小児科	2	6	5
産婦人科	40	44	34
眼科	0	2	0
耳鼻いんこう科	10	6	10
皮膚科	15	9	21
泌尿器科	48	44	66
精神科	1	2	0
児童精神科	0	2	0
合計	2,947	2,871	3,135

入院	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内科	2,430	2,066	3,027
外科	65	28	7
整形外科	44	104	70
小児科	0	0	0
産婦人科	0	7	3
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	3	14	35
皮膚科	3	0	4
泌尿器科	55	50	24
精神科	0	0	1
児童精神科	0	0	0
合計	2,600	2,269	3,171

## (5) 診療科別救急車搬送患者数

外来	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内科	2,189	2,005	2,135
外科	36	38	36
整形外科	201	273	353
小児科	1	5	3
産婦人科	22	22	19
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	2	3	3
皮膚科	6	1	6
泌尿器科	21	13	28
精神科	1	4	0
アレルギー科	0	0	0
感染症	0	0	0
合計	2,479	2,364	2,583

入院	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内科	1,570	1,705	2,005
外科	43	49	40
整形外科	241	285	294
小児科	0	0	0
産婦人科	4	10	8
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	3	4	4
皮膚科	4	2	2
泌尿器科	22	30	34
精神科	0	0	8
アレルギー科	0	0	0
感染症	0	0	0
合計	1,887	2,085	2,395

## 編集後記

令和6年度の年報「あおば」が出来上がりました。諸外国間による武力を伴う従来型の戦争に加え武力戦争の原因となり得る経済戦争の余波による物価高騰により公共医療の経営は困難の度を加えております。常に患者が増え医療による収益が増える右肩上がりの経済は、世の中が好況で出生数も多く若い人口が増え提供可能な人的・物的医療資源の供給を需要が上回るでは実現可能ですが、日本国はすべてが真逆の状況にあります。

かの文豪ゲーテは真理は尊んでおりましたが発見の競争やその独占は軽蔑していたようです。人類の囲い込みや自分さえよければ自国さえよければという風潮は目に余るばかりです。「収容所群島」をものしたソルジェニーツィンも体制を問わず右肩上がりの経済の弊害を述べております。

こうした中、公的医療機関には他の医療機関に期待することのできない業務を積極的に行うことが期待されており、当院も従来の結核に続きコロナ、麻疹と絶えることない感染症の対応において積極的に入院を受け入れる地域の重要な医療機関としての立場を堅持しており、新興感染症への対応を今後も期待される当院の立ち位置は極めて重要なものと思われまます。

酷い猛暑がありましたが、患者さん・職員の声が届き、管理のみな様のご尽力のお陰で地下1階機械室の空調設備の空調用熱源の内1台を更新され、昨年比し圧倒的に過ごしやすい環境となりました。

本年報は、当院の歩みと現況を振り返り、より安全で安心できる医療を発展的に提供してするための活動記録を残していくことを主たる目的としております。本年報が当院内外の皆様の千葉市立青葉病院の理解を深める記録として興味深いものであれば幸いです。

最後にご多忙の中、年報のご執筆並びに編集にご協力頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

(地引)

千葉市立青葉病院  
令和6年度年報 「あおば」

令和8年3月発刊（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

発刊 千葉市立青葉病院  
〒260-0852  
千葉市中央区青葉町 1273-2  
TEL (043) 227-1131 (代表) FAX (043) 227-2022

発刊責任者 六角智之  
監修 地引利昭  
編集 鴨川 奈々未  
編集委員 輪湖 靖 森田穂史子 馬場裕之介 白熊秀和